

国立国語研究所学術情報リポジトリ

The language ability of children in the pre-reading period

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-06-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 国立国語研究所, The National Language Research Institute メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00001221

国立国語研究所報告 7

入門期の言語能力

国立国語研究所

1954

国立国語研究所報告 7

入門期の言語能力

国立国語研究所

1954

は じ め に

これは、国立国語研究所が1953年4月から着手している「言語能力の発達に関する調査研究」の第一次中間報告である。この調査研究のため、研究所は実験学校（所員が直接、観察・記録・テストなどをして資料を集める学校）と協力学校（その学校の教員が研究所の規格にしたがって調査研究をして資料を提供する学校）とを設け、学校と父兄との協力を得ている。

この報告では、小学校1年生入学の当初には一般にどれだけの言語能力を持っているか、それはそれ以後どう伸びて行くか、その発達を規定する要因はなにかについての研究を主として、その間の家庭における読書の状況や学校における国語学習指導の実態についても解明しようとした。児童ひとひとりの発達事例の記述は、この調査研究の一つの特色をなすものであって、この報告においても随処に取り入れたが、その詳しい報告は次にゆする。

この調査研究は、所員興水実、高橋一夫、芦沢節、岡本圭六（非常勤）が担当していたもので、報告書の執筆はⅣのBの(1)、(2)、C、D 岡本、Ⅴ全部芦沢、ⅦのA高橋、B村石昭三の各所員、他の部分の執筆と全体の編集は興水所員が担当した。

1954年3月

国立国語研究所長 西 尾 実

目 次

はじめに

I 小学校入学時の文字力	1
A どれだけの文字が読めるか	1
(1) ひらがな清音	1
(2) ひらがな濁音・半濁音	1
(3) かたかな清音	2
(4) かたかな濁音・半濁音	2
(5) 数 字	3
(6) 漢 字	3
B どれだけの文字が書けるか	5
(1) ひらがな清音	5
(2) ひらがな濁音・半濁音	6
(3) かたかな清音	7
(4) かたかな濁音・半濁音	7
(5) 漢 字	7
C 入学前にどうして文字を習得したか	8
(1) 入学前の文字習得の源泉	8
(2) 習得の個人差	8
(3) 習得の地域差	9
(4) 習得の男女差	12
D どういう文字がおぼえやすいか	15

(1) 習得の難易の条件	15
(2) 読みやすい文字と読みにくい文字	20
(3) 書きやすい文字と書きにくい文字	25
E どのようにして調べたか	30
(1) 実験学校と協力学校	30
(2) 第1回調査の問題	31
(3) 実験学校における集計表	34
Ⅱ 入学当初のその他の言語能力	58
A 発音の正確さ	58
(1) 第1回の発音検査	58
(2) 第2回の発音検査	64
B 語いの能力	69
第1回の語い検査	69
第2回の語い検査	73
C 文法意識	81
Ⅲ 入門期における言語能力の発達	85
A 発達段階と入門期	85
(1) 発達段階の区切り方	85
(2) 入門期を決定する方法	87
B 入門期における読字力・書字力の発達	92

(1) 一般的傾向	92
(2) 読字力・書字力の発達における個人差	102
C 文を読む力と文章意識との発達	108
(1) 文を読む力の発達	108
(2) 文章意識の発達	116
IV 入門期の言語能力の発達を規定する要因	118
A 言語能力とその要因の概説	118
(1) 入門期言語能力の指標を何に求めるか	118
(2) 諸要因の一般的敘述, および言語能力と暦年との関係	120
B 言語能力と知的要因	123
(1) 言語能力と知能との相関	123
(2) 言語能力と知能遅滞児との関係	127
(3) 読み方学習準備の完成は精神年齢何才であるか	128
C 言語能力と性格的要因	129
(1) 言語能力と性格との相関	129
(2) 言語能力と各種の性格欠陥児との関係	132
D 言語能力と環境的要因	134
(1) 言語能力と環境との相関	134
(2) 言語能力と各種の環境的欠陥との関係	134
V 入学前後の家庭における読書	139

A	どんな本を読んでいるか	139
(1)	調査の方法	139
(2)	読まれている本	140
B	どう読んでいるか	149
(1)	入学前の読書	149
(2)	持っている本の数	150
(3)	入学後の読書態度の変化	152
(4)	読書の時間	154
(5)	家庭読書点数	155
C	家庭における読書と言語能力との関係	160
(1)	個別的考察	160
(2)	全体的考察	162
VI	入門期における国語学習指導の実態	164
A	入門期国語教科書のあり方	164
(1)	ページ数と使用期間	164
(2)	文字の提出	165
(3)	語い量	167
B	入門期国語学習指導法の実態	168
(1)	調査の方法	168
(2)	入門期のカリキュラム	169
(3)	入門期指導の困難点	170

(4) 文字の導入	171
(5) 教科書の取扱い方	173
(6) 入門期における国語学習指導の形態	175
(7) 入門期はいつまでか	176
C 入学当初における授業の実例	178
(1) 第一週の授業	178
(2) 第二週の授業	186
(3) 第十週の授業	189
(4) 三つの授業例への批評	195
VII この問題に対する研究の大勢	198
A 日本の文献	198
B 外国の研究状況	206
数表・図表一覧	214

(目次 おわり)

I 小学校入学当初の文字力

A どれだけの文字が読めるか

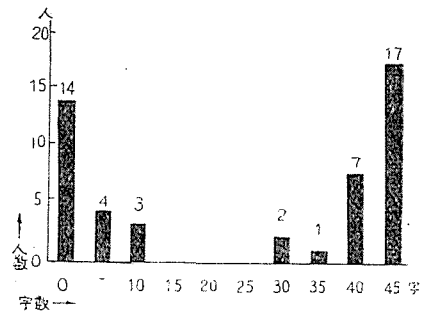
1. ひらがな 清音

あいうえお……んの46字についてみると、東京では平均して30.0字読め、農村では平均して23.8字読める。

しかし、これはほとんど全部読める者が相当数いるからであって、そうでない者は逆にほとんど読めない。

いま、実験学校の48人についてみると、左図のように中間の者がいない。両極端に偏っている。そしてこれは、東京のこの学校だけでなく他にも見られる傾向である。その意味では平均何字ということは意味がない。はじめから二つの

実験学校ひらがな清音読字得点分布

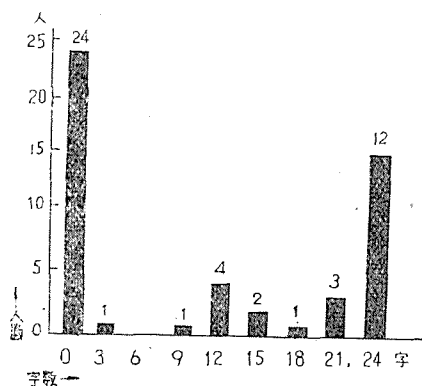


群に分けて考えなければならないほどである。

2. ひらがな濁音・半濁音

がぎくげごなど25字については、東京で平均12字、農村では7.7字読める。これも、次頁の図の通り、少数のほとんど全部読める者がいるから高い数字が出たのである。そして、ここではむしろ、半数の者が一字も読めないということが注目される。

実験学校ひらがな濁音読字得点分布



多くの者が読めた文字は、

カ キ セ ニ ヘ ヤ リ

の7字、その中でも「リ」であって、つまりひらがなと字形が同じであるか、ひらがなに似ているものである。

よく読めた4名の者を除けば、かたかなとして、読めたわけではない。

4. かたかな濁音・半濁音

ガギゲゴなどの25字については、東京で平均3.05字、農村で1.8字である。

これは、25字全部読めた者が3人いたために、これだけ成績がよくなったのであり、大多数の者はほとんど読めない。わずかに読めた文字は、

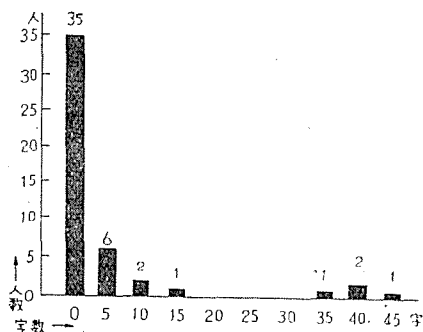
ガ ギ ゼ ベ ぺ

の5字であって、これも、ひらがなからの類推によることは明かである。

3. かたかな清音

アイウエオのかたかな46字については、後に掲げる数表の通り、東京で平均5.8字、農村で8.6字読めるという結果が得られた。これも内訳をみると、48名中、4人だけ相当読める者がいるが、圧倒的に多数の者は全然読めないことがわかる。しかもこのうちで比較

実験学校かたかな清音読字得点分布

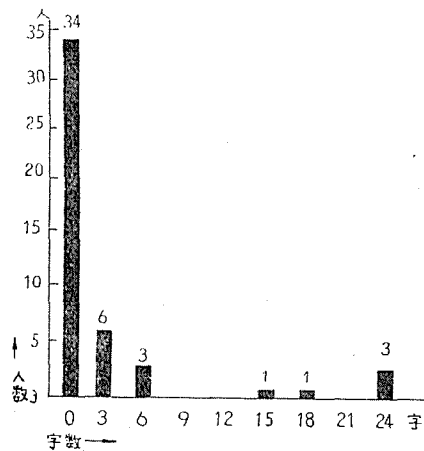


5. 数 字

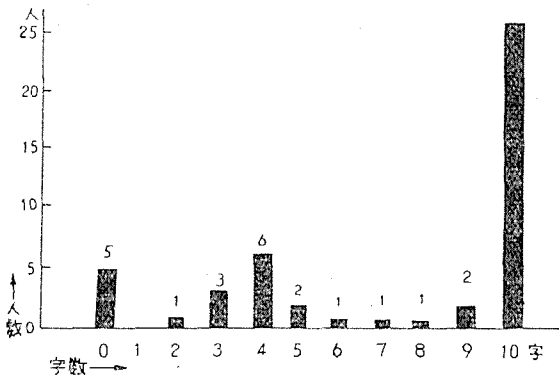
1 2 3 4 5 ……10の数字については、東京で平均7.9字、農村でも6.5字である。これは10字全部が読める者が半数以上ある。そしてこれは、実験学校における5月1日の検査である。
(被調査者48名)

ただし、1 2 3の全く読めない者が5名いる。この中には1、2、3の意味は理解しているのではないかと考えられる者もいるが、とにかくこうした検査で全く反応を示さなかった者である。

実験学校かたかな濁音読字得点分布



実験学校数字読字得点分布



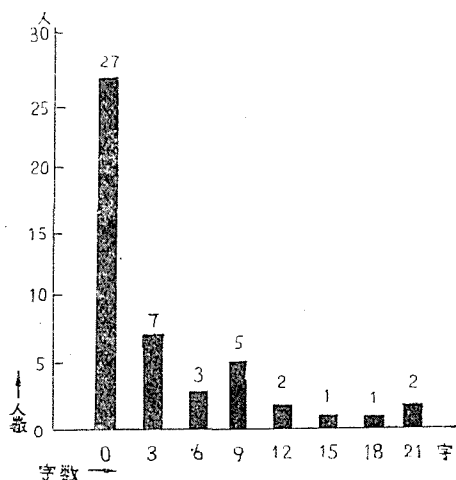
6. 漢 字

漢字については、
 どういう字が読める
 か適確に検査する
 ことがむずかしい。子
 供は、自分の姓名や
 地名などに使われて
 いる特殊な漢字を読
 むことができる場合

がある。しかしそれを、ひとりひとりについて想定した検査問題を作成することは困難である。われわれは小学校の1年生・2年生の教科書に頻出し、1、2年で学習すべきものと考えられている50字(後に掲げてある)を選んで

それについて検査したのであって、以下はその限りでの話である。そして、東京では平均5.35字、農村では4.4字知っているという結果を得た。これについても個人差が甚しく、最低0字から最高23字まで、大多数の者は一字も読めない。あとは得点が分散していて、字数が多くなれば人数はへる傾向が

実験学校漢字読字得点分布



ある。左の図で21字以上がふたりであるのは、検査文字を50字に限ったからであり、ひらがな、かたかなとはとはちがって、対象が無限ではないにしても、何百何千というわけであるからそれは当然である。

このうちで比較的多くの者が知っていた漢字は、

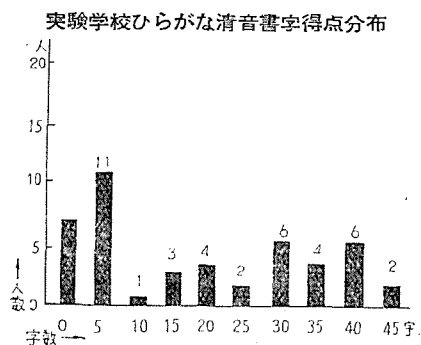
一 二 三 四 大 子
の6字である。

B どれだけの文字が書けるか

1. ひらがな 清音

あいうえお……んの46字についてみると、東京では平均して23.2字書け、農村では平均して13.9字書ける。実験学校の46人についてみると、最低は0字、最高は45字である。これを表
示すると右のようになる。

ここでも書けない者と書ける者
とがあって、中間の者は少いとい
う傾向がないわけではないが、読
字の時ほど極端でない。完全にで
きたという者がなく、上位者が分
散している。それに、完全にでき



なかったという者も割合に少い。0字から4字までの者が読みの場合には14名いたが、書く方では7名にへっている。そして、その代り、5字から9字までの者が増している。読みの時に一字も読めないで零点だった者が、書く方では4字書けているという、ちょっとふしぎな現象もある。これはテストの方法によることであって、読みの時にはこちらできめた語の形で出したのであるが、書く時には、それと共に「そのほかなんでも書ける字があったら書いてごらんさい」というのを加えた。そしてそれに対して、自分の名前だけは書けるようになっていて、書いた者がある。その中には誤字、あるいは判読に苦しむものもあったが、何字かは正字と判定されたのである。なお、この学校では、入学に際して、自分の姓名だけは読み書きできるようになっているのが望ましいという指示をしている。したがって、大部分の者は入学

前にそれだけの家庭指導を受けて来ているのである。

自分の姓名だけは書ける、したがってその一字一字もその限り読めるのであるが、この際、まだ、その文字が単独で、あるいは知らない組み合わせで出て来た時に読めるだけの力はない。第一、一字が一音をあらわすとか、一字一字が独立した表現符号であるという意識が明瞭でない。

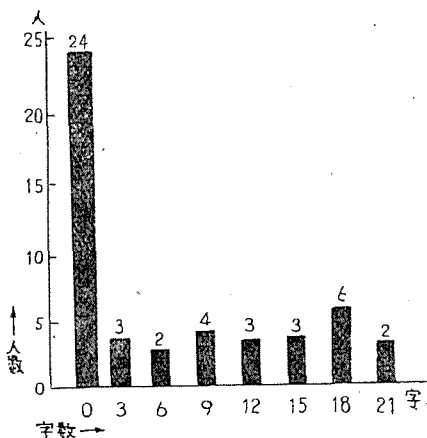
小学校入学当初において、ある者には読めないにもかかわらず書けるという文字があり、読める文字数よりも書ける文字数の方が多いという者が何名か見出されるということは奇妙であるが、実はそこに、子供の文字習得の過程や段階が示されているのである。

なおこの現象は、実験学校だけでなく、各地の協力学校において見出され報告されている。

2. ひらがな濁音・半濁音

がぎぐげごなど25字については、東京で平均7.3字、農村で平均4.0字書ける。実験学校における内訳をみると、47名中、最低は0字最高は23字である。

実験学校ひらがな清音書字得点分布

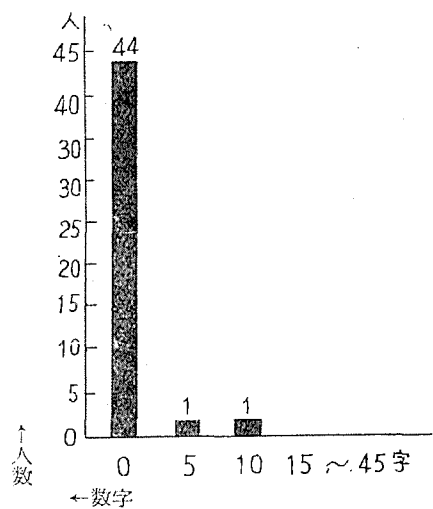


左のように半数以上の24名が一字も書けない。他の約半数の能力は分散している。よく書ける者でも全部完全には書けないで、第一位は0、次は2名で、第三段階がその中では一番人数が多い。なお、ここでもまた読めないで書けるという現象がわずかであるが見出された。

3. かたかな清音

アイウエオのかたかな46字については、東京で平均1.5字、農村で平均0.98字である。実験学校で最低は0字最高でも10字である。(被調査者46名)右表の44名の内訳は0字者が38名、1字から2字書けた者が5名、3字書けた者が1名である。そして10字以上というのはわずかに1名である。この点からいって小学校入学時においてはかたかなが書ける者はほとんどないといつてよいであらう。

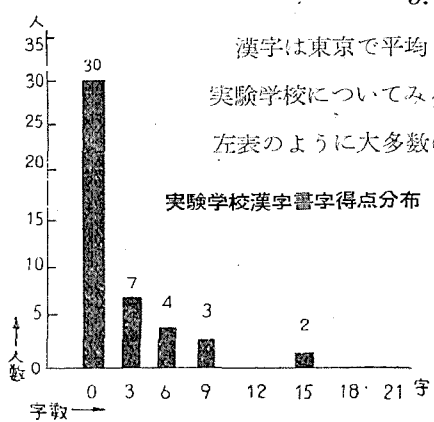
実験学校かたかな清音書字得点分布



4. かたかな濁音・半濁音

ガギグゲゴなどの25字については、東京で平均0.48字、農村で平均0.13字でこれもほとんど書けないといつてよい。

5. 漢字



実験学校漢字書字得点分布

漢字は東京で平均2.9字、農村で2.6字となっている。実験学校についてみると、最低0字、最高は15字である。左表のように大多数の者はあまり書けない(一字も書けない者23名)が、15字書けた者が2名あり、その間だいたい高点者ほど少くなる傾向を示している。

ここでもまた、読みの検査の時は読めなかったが、書く時になったら書けたという実例が出ている。

これは刺激語の相違、検査の場面と心理との相違に基づくものと思われる。

C 入学前にどうして文字を習得したか

1. 入学前の文字習得の源泉

都市の優秀な児童ならば、小学校に入学する前に、ひらがな（清・濁・半濁）がだいたい読め、漢字も少しは知っている。書くことについても、ひらがな（清・濁・半濁）がなかり書ける。1 2 3 4 の数字は完全に読める。これはどういうふうにして習得したものであろうか。これについて、一般的に次の三つの源泉が考えられる。

- (1) 生活上の必要……1 2 3 4 などの数字にふれることが多い。地名や人名の漢字にもふれる。これらの文字は生活的意味の重い記号である。
- (2) 絵本やまんがを読む……そこに書かれている文字を絵と結びつけ、だんだんと文字に親しみ、文字の意味を理解し、文字を正しく読もうとして、父兄にたずねる。したがって、絵本やまんがなどを多く与えられた子供がよく文字をおぼえていることになる。
- (3) 入学準備としての家庭の計画指導……いよいよ学校にはいるというので、絵本や文字カードによって家庭で積極的に指導する。この指導を受けて来た者は、少くとも入学の当座は成績がよい。（四谷第六校では、入学準備として自分の姓名が書けるように要望し、家庭でこれを指導したことは前述した。）

2. 習得の個人差

以上のようにして、知能とか身体的条件とかが仮りに同一であるとしても、そこに非常な個人差が出て来る。

最優秀児は、ひらがながほとんど完全に読み書きでき、かたかなもほとん

ど読める。漢字も50字出して25字読め、15字は正しく書けるという者があった。劣った者は、ひらがなが一字も読めないし、また書けない。漢字などはもちろん全然読めないで入学して来る。文字学習は、現代の教育課程の建前では小学校に入学してから開始することになっているから、一字も知らないのが、ある意味では当然である。事実学校では、子供は文字を一字も知っていないもの、はじめから学習するものとして授業をはじめるのである。しかし建前はそうであり、組織的な、正規の学習はまだ開始されないとしても、子供がもし知的・身体的に成熟していたら、それまでの生活そのものから、多少の自然の習得をしているはずである。

入学前の文字習得の源泉として前に3条に分けてあげておいたが、農村よりは都市の方が文字記号にふれる機会が多い。農民や工員などの家庭よりもサラリーマンの家庭などの方が、絵本を買って与えとか、それを子供といっしょになって読むとかいう条件にめぐまれていることもたしかである。兄や姉がいて、それが学校に通っているというようなことも、この場合有利な条件にちがいない。

これ等の問題については、後にさらに研究するが、そうした環境要因の差違によって、すでに入学の当初に個人差が生じて来ているのである。

3. 習得の地域差

われわれの調査結果を、東京と農村と、それに中間都市とに分けてみると、そこに明かに段階が認められる。

もちろん、これで東京を代表させ、中間都市を代表させ、純農村を代表させるには、学校数が不足であるし、第一、中間都市という規定もおかしなものであるが、これでだいたいの傾向を知ることではできるのであろう。

農村にも、ごくすぐれた少数の児童はいるのであるが、40人、50人の学級というよりことになると、全体的には都市に劣って来る。それは少くとも前

項にあげた環境的要因にめぐまれていないのであるから、当然である。

次に掲げるのはその三つの地域の読字数平均の比較表であって、そこからいろいろのことが導き出されるが、特に注目されるのは、東京と農村とをくらべた場合に、ひらがな清音の読字力については農村は東京の80%であるのに、書字力については、60%で、つまり、都市・農村の差違が書字の方によくあらわれているということである。

そしてこれについて二つのことが考えられる。第一は、テスト対象そのものの性格から来ることで、あいいうえお46文字の読みはやさしい。そしてそれを完全に習得してしまった者が、農村の方にも相当数存在する。そのために差が出ないのである。第二は、読字よりも書字の方が文字習得の完成的段階として、それだけ組織的学習の諸要因の強い支配を受ける。したがって、ここに都市と農村との差がはっきりあらわれる。

この第二の点をさらにもう一步進めると、読字力よりも書字力の方が、少くとも小学校の低学年において、国語学習の全体の能力を代表するということが見出されそうである。

ただし、読字力とこのこうした関係は、小学校入学当初だからであって、小学校高学年から中学校生徒の一般的傾向としては、むしろ農村の方が読字力と書字力との開きが少い。それは、農村ではその後読書が進まず、読字量がふえないからである。

地域による読字数平均の比較（東京と農村）

学校名	項目 テスト 実施月日	人 数	ひらが な清音	ひら濁 音 かな 半濁音	かたか な清音	かた濁 音 かな 半濁音	漢字	数字
		人 数	字	字	字	字	字	字
東京都新宿区 四谷第六小学校	4, 18	48	26.4	10.2	6.2	3.3	4.5	7.1
東京都杉並区 方南小学校	4, 20	60	33.6	13.8	5.4	2.8	6.2	8.7
都二校の 平均字数		計108	30.0	12.0	5.8	3.05	5.35	7.9

長野県上水内郡 神郷小学校	4, 13~17	147	28.0	8.9	4.4	1.8	4.1	7.3
兵庫県氷上郡 幸世小学校	4, 18	155	24.4	8.1	1.7	0.9	4.2	6.4
神奈川県中郡 比々多小学校	4, 20	35	18.2	6.1	4.8	2.7	4.9	5.7
農村三校の 平均字数		計337	23.8	7.2	3.6	1.8	4.4	6.5

地域による読字数平均の比較（地方中間都市）

学 校 名	テ ス ト 実施月日	人 数	ひらが な清音	ひらが な濁音	かたか な清音	かたか な濁音	漢 字	数 字
		人	字	字	字	字	字	字
小田原市 大窪小学校	4, 20~23	45	24.4	7.9	3.6	0.6	3.1	6.1
松代町 松代小学校	5, 1	50	29.4	8.4	1.3	0.4	3.1	9.0
横須賀市 沢山小学校	5, 25~26	60	25.5	9.4	6.3	1.0	4.4	8.5
小山町 小山第二小学校	5,	50	21.6	4.8	5.1	0.1	4.5	7.8
四校の平均		205	25.2	7.6	4.1	0.5	3.8	7.9
東京二校、農村三 校を合せて 九校の平均		650	25.8	8.6	4.3	1.5	4.3	7.4

地域による書字数平均の比較（東京と農村）

学校名	項 目	テ ス ト 実施月日	人 数	ひらが な清音	ひらが な濁音	かたか な清音	かたか な濁音	漢 字
			人	字	字	字	字	字
東京都新宿区 四谷第六小学校		4, 22	46	21.0	6.8	0.6	0.06	2.6
東京都杉並区 方南小学校		4, 27	60	25.4	7.8	2.4	0.0	3.3
東都二校の 平均字数			106	23.2	7.3	1.5	0.48	2.9
長野県上水内郡 神郷小学校		4, 27~ 5, 2	147	16.8	4.4	0.6	0.25	0.8
兵庫県氷上郡 幸世小学校		4, 18	155	13.6	3.6	0.25	0.01	2.3
神奈川県中郡 比々多小学校		4, 21	35	11.4		2.1		2.9

農村三校の 平均字数	337	13.9	4.0	0.98	0.13	2.0
---------------	-----	------	-----	------	------	-----

地域による書字数平均の比較（地方中間都市）

学 校 名	テ ス ト 実施月日	人 数	ひらが な濁音	ひら濁 音かな半濁音	かたか な清音	かた濁 音かな半濁音	漢 字
		人	字	字	字	字	字
小田原市 大窪小学校	5, 25～ 30	45	18.5	4.3	0.5	0.2	2.5
松代町 松代小学校	5, 1	50	21.7	5.0	0.5	0.2	2.5
横須賀市 沢山小学校	5, 25～ 26	60	22.0	7.4	1.7	2.1	3.8
小山町 小山第二小学校	5, X	50	12.1	3.0	1.3	1.4	1.8
四校の平均		205	18.6	4.9	1.0	0.95	2.3
東京二校・農村三 校と合せて 九校の平均		648	18.1	5.3	1.1	0.64	2.4

4. 習得の男女差

言語発達のごく初期には女兒の方が発達が早い。（女兒はおしゃべりである。）が小学校の全期間を通して余り大した差違はなく、小学校5、6年から中学校2年生の間では女子の方がややすぐれているということは、これまでの諸家が報告しているところである。（ただし愛育会の昔の調査では学齢前児童で男子の方がむしろよかったという。）実験学校の48名については、当初は女子の方が平均してよい点を示していたが、そのうちに男子の方の学業不振児が2名転校して男子の方には不振の者は少くなり、女子の方には依然として3名ばかりの不振児がいる。それですべてのテストを通じて男子の方が優勢になってしまった。

入学当初におけるひらがな清音・濁音・半濁音の読み書きについて、実験学校、協力学校などの合計29学級、男女各700名ばかりについてみると、女

子の方が績がはるかによく、男子の方が成績がよいのは、読み書きとも、わずかに2地点2学級だけである。しかし、ひらがなの読み書きのようにきまったものでなく、その他の方については、男子の方がすぐれている。

男女別による読字率の比較

学 校 名	テ ス ト 日	学 級 数	人数		ひ ら が な				か た か な		濁・半 濁音		漢 字		数 字	
					清 音		濁・半 濁音		清 音							
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
神郷小学校	4, 13 ~17		人	人	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
四谷第六 小 学 校	4, 18		123	25	53.5	60.9	40.8	40.8	17.6	9.3	18.4	8.8	9.4	8.5	79.0	65.0
幸世小学校	4, 18		474	81	47.2	58.9	29.2	35.2	3.0	4.3	2.8	4.2	9.2	7.6	62.0	66.0
池上小学校	4, 18		124	24	25.4	43.9	14.0	25.2	5.0	6.5	3.6	5.2	5.8	6.8	-	-
方南小学校	4, 20		130	30	66.5	79.3	48.0	62.0	12.8	10.6	12.4	9.6	12.6	12.2	91.0	82.0
比々多 小 学 校	4, 20		115	20	46.5	30.7	20.2	27.4	10.2	10.4	11.4	9.8	10.2	9.4	54.6	58.5
大窪小学校	4, 20 ~23		121	24	58.7	38.5	36.8	26.0	12.0	3.5	4.8	2.4	8.2	4.0	68.0	53.0
二子小学校	4, 27 ~30		122	25	31.5	37.0	17.6	11.2	-	-	-	-	-	-	-	-
下松小学校	4, 28		821	184	82.4	87.4	62.4	72.0	24.3	21.1	23.2	23.2	17.8	14.6	91.3	49.0
松代小学校	5, 1		125	25	62.4	65.2	32.8	34.0	2.8	2.6	1.9	1.1	6.8	5.8	92.4	87.2
城内小学校	5, 6		264	61	82.0	83.9	58.8	54.0	10.4	14.8	12.0	14.4	17.0	18.4	-	-
新通小学校	5, 15		133	27	68.9	72.4	48.8	35.6	20.0	11.5	20.4	6.4	13.6	13.4	-	-
沢山小学校	5, 25 ~26		130	30	47.2	62.4	30.8	44.0	10.4	17.0	7.6	0.2	8.0	9.6	89.0	80.0
中田小学校	6, 17		132	25	85.9	90.9	70.8	71.2	28.3	30.2	28.4	31.2	18.4	22.0	-	-
小山第二 小 学 校	5,		128	22	46.7	47.4	20.0	18.0	12.0	10.2	0.4	0.2	9.4	8.4	80.7	5.0
計 総平均			28783	682	57.0	62.1	37.2	23.9	12.5	11.1	10.8	9.1	11.0	10.7	77.6	73.7

男女別による書字率の比較

学 校 名	テ ス ト 日	学 級 数	人 数		ひ ら が な						カ タ カ ナ				漢 字	
					清 音		濁・半濁音		清 音		濁・半濁音					
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		
幸世小学校	4, 18	4	74	81	23.9	35.2	12.0	16.8	0.1	8.6	0.04	0.04	5.2	4.0		
比々多小学校	4, 21	1	15	20	17.0	30.9	-	-	4.8	4.6	-	-	7.2	4.8		
池上小学校	4, 21	1	24	24	20.7	37.8	-	-	1.3	1.7	1.6	0.2	3.2	2.4		
四 谷 第 六 小 学 校	4, 22	1	23	23	40.7	50.7	27.6	27.2	1.7	0.7	0.5	0	6.0	4.6		
二子小学校	4, 24 ～25	1	22	25	17.4	23.0	8.8	9.6	-	-	-	-	-	-		
方南小学校	4, 27	1	30	30	47.2	63.3	27.2	34.8	4.8	5.4	3.6	3.9	5.6	9.6		
神郷小学校	4, 27 ～5, 2	3	68	79	28.0	48.5	12.0	22.4	0.2	2.1	0	2.0	1.4	1.8		
中央小学校	4,	1	28	24	68.3	72.4	47.6	50.8	-	-	-	-	-	-		
下松小学校	5, 1	8	219	184	71.5	70.7	48.4	58.0	4.6	4.8	3.2	3.1	7.4	6.4		
松代小学校	5, 1	1	25	25	44.1	50.3	17.1	22.6	1.3	0.6	0.3	0.5	2.2	2.5		
城内小学校	5, 6	2	64	61	57.2	57.8	34.0	34.4	0.1	0	0	0	7.2	7.8		
新通小学校	5, 6 ～10	1	33	27	20.2	25.9	12.0	14.8	-	-	-	-	-	-		
沢山小学校	5, 25 ～26	1	30	30	49.1	42.2	26.8	30.8	0.2	7.0	10.4	2.8	12.4	2.8		
大窪小学校	5, 25 ～30	1	21	24	41.1	34.3	18.8	15.2	1.3	0.7	1.2	0	6.0	3.8		
中田小学校	6, 17	1	31	25	66.3	75.0	45.6	49.6	8.5	3.7	4.8	7.2	19.6	20.2		
小 山 第 二 小 学 校	5,	1	28	22	26.1	26.5	12.0	12.4	3.5	1.7	4.8	6.4	2.8	2.8		
計 総平均		29	735	704	39.9	46.9	24.4	29.0	2.4	2.5	2.5	2.2	6.7	5.5		

上の表の合計をすると、入学当時における能力は、

ひらがな清・濁の読字力 男 (708名) 47.21% 女 (704名) 50.1%

ひらがな清・濁の書字力 男 (735名) 32.4% 女 (704名) 38.0%

である。

D どういう文字がおぼえやすいか

1. 習得の難易の条件

文字学習の難易については、ふつう二つの基準が考えられている。

(1) 使用率—たびたび使われている文字ほどやさしい。

(2) 字形—字形の簡単明瞭なものほどやさしい。

(1) の使用率については、ただ、たびたび使われているというだけでなく、生活の基本的な場でたびたび使われているという、場の限定を加えた方がよいであろう。また(2)の字形についても、ただ簡単なものがよいのではなく、特徴のある字形であれば、相当複雑でもおぼえやすい。もし正しく書くことは困難でも、読む方だけはかえってやさしいのである。またそこに、読むことと書くこととの間のちがいがあ

る。以上の原則は、主として漢字の学習について、わが国でこれまで研究されて来ていたことであるが、小学校入学当初におけるひらがなの習得についても、原則はほぼ同一であることが確認された。

以下に掲げるのは、実験学校におけるひらがな清音の文字別習得率である。

読む・書くを通じて「お」がやさしいのであるが、これは字形も複雑であるし、特に「あ」の字と似ていて、まぎれやすいのである。テストにおいて、両者を混同するものが時々あった。けれども、使用程度という点からいえば、断然多いのであって、そこがおぼえやすい理由の一つであろう。

「ほ」と「ぬ」が読みにくい、書きにくいというもの、やはり、字形の複雑さと共に、使用頻度によることと思われる。

「こ」「い」「し」などが書きやすいのは、主として、字形の簡単明瞭であることによるものであろう。ところが、「へ」は字形が簡単であるにもかかわらず

らず読みにくく、書きにくい方である。これは「く」との混同やもし助詞として出ても音価のちがうことなど、習得に不利な条件があるからである。

実験学校ひらがな清音文字別習得率

調査 月日	読 書	4,18 4,22	5,30 5,28	6,24 6,25	7,16 7,14	9,3 9,4	全 体 の 平 均
人	読 書	48 46	44 45	4 44	41 42	41 41	
あ	読	60.4 %	79.5 %	91.1 %	97.6 %	100 %	84.9 %
	書	54.3	71.1	79.5	92.9	87.6	78.4
い	読	60.4	77.3	86.7	95.1	97.6	82.6
	書	64.4	71.1	84.1	88.1	90.2	79.8
う	読	64.6	81.8	95.6	92.7	83.6	83.6
	書	56.5	71.1	80.0	88.1	77.5	77.5
え	読	62.5	77.3	86.7	90.2	100	82.6
	書	43.5	55.6	72.7	81.0	90.2	67.9
お	読	60.4	86.4	95.6	100	100	87.7
	書	63.0	77.8	95.5	95.2	100	85.8
か	読	60.4	81.8	93.3	95.1	97.6	84.9
	書	60.9	73.3	88.6	95.2	90.2	81.2
き	読	64.6	75.0	86.7	95.1	97.6	83.1
	書	63.0	71.1	88.6	95.2	95.1	82.1
く	読	56.2	70.5	75.6	95.1	100	78.5
	書	50.0	55.6	72.7	76.2	100	71.6
け	読	60.4	72.7	77.8	70.2	95.1	78.5
	書	41.3	64.4	65.9	73.8	87.8	66.1
こ	読	62.5	81.8	86.7	95.1	100	82.6
	書	71.7	77.8	86.4	90.5	100	84.9

調査 月日	読 書	4,18 4,22	5,30 5,28	6,24 6,25	7,16 7,14	9,3 9,4	全 体 の 平 均
人 数	読 書	48 46	44 45	4 44	41 42	41 41	
さ	読	62.5	79.5	88.9	97.6	95.1	84.0
	書	63.0	75.6	81.8	90.5	97.6	81.2
し	読	70.8	81.8	93.3	97.6	95.1	87.2
	書	69.6	80.0	95.5	92.9	92.7	85.8
す	読	70.8	81.8	88.9	95.1	100	86.8
	書	64.4	73.3	88.6	95.2	92.7	87.6
せ	読	50.2	81.8	95.6	100	97.6	85.4
	書	58.7	71.1	88.6	95.2	95.1	81.2
そ	読	50.0	52.3	71.7	80.5	92.7	68.5
	書	21.7	24.6	61.4	66.7	78.0	49.5
た	読	58.3	68.3	82.2	92.7	97.6	79.0
	書	52.2	66.7	75.0	90.5	92.7	74.8
ち	読	58.3	68.2	88.9	95.1	97.6	80.0
	書	50.0	51.1	79.5	9.5	100	73.4
つ	読	54.2	70.5	77.8	92.8	75.1	77.2
	書	49.8	60.0	77.3	81.0	92.7	71.2
て	読	54.2	61.4	84.4	90.2	95.1	76.3
	書	41.3	51.1	75.0	81.0	92.7	67.4
と	読	60.4	77.8	88.9	97.6	97.6	83.6
	書	58.7	57.5	84.1	95.2	95.1	77.5
な	読	58.3	68.2	77.8	90.2	95.1	77.2
	書	39.1	55.6	63.6	85.3	92.7	66.1
に	読	52.1	65.9	82.2	92.7	95.1	76.7
	書	47.8	57.3	77.3	85.7	85.4	70.2

調月	読	4, 18	5, 30	6, 24	7, 16	9, 3	全体の平均
査日	書	4, 22	5, 28	5, 25	7, 14	9, 4	
人数	読	48	44	45	41	41	
	書	46	45	44	42	41	
ぬ	読	45.8	50.0	48.9	70.7	82.9	58.9
	書	26.1	33.3	50.0	61.9	58.5	45.4
ね	読	54.2	72.7	82.2	90.2	90.2	77.2
	書	32.6	44.4	68.2	78.6	92.7	62.4
の	読	62.5	77.3	80.0	92.7	95.1	90.8
	書	54.3	60.0	79.5	83.3	95.1	73.9
は	読	62.5	79.5	91.1	97.6	97.6	84.7
	書	54.3	66.7	84.1	92.9	97.6	78.4
ひ	読	56.2	65.9	68.9	82.9	92.7	72.6
	書	50.2	60.9	70.5	73.8	85.4	67.4
ふ	読	54.2	63.6	73.3	95.1	92.7	74.9
	書	26.1	23.9	63.3	66.7	82.9	52.8
へ	読	52.1	59.6	60.0	73.2	78.0	63.9
	書	32.6	33.3	54.5	59.5	78.0	50.9
ほ	読	39.6	52.3	60.0	63.4	90.0	60.5
	書	23.7	45.7	59.0	59.5	82.9	53.7
ま	読	64.6	77.3	95.6	97.6	100	86.3
	書	60.7	77.8	95.5	95.2	95.1	84.4
み	読	64.6	81.8	93.3	97.6	100	86.8
	書	58.7	72.3	84.1	85.4	97.6	79.4
む	読	47.9	56.8	64.4	78.0	70.2	66.0
	書	19.6	17.8	50.0	64.0	70.7	43.6
め	読	56.2	68.2	80.0	95.1	92.1	77.6
	書	39.1	33.3	63.6	78.6	87.8	59.6

調月 査日	読 書	4, 18 4, 22	5, 30 5, 23	6, 24 6, 25	7, 16 7, 14	9, 3 9, 4	全 体 の 平 均
人 数	読 書	48 46	44 45	45 44	41 42	41 41	
も	読	56.2	95.0	86.7	97.6	97.6	81.7
	書	47.8	51.1	79.5	90.5	92.7	71.6
や	読	58.3	68.2	86.7	92.7	95.1	77.5
	書	52.2	53.3	81.8	88.1	92.7	72.9
ゆ	読	60.4	65.9	68.9	82.9	90.2	73.1
	書	23.9	26.7	61.4	73.8	80.5	52.3
よ	読	60.4	91.8	91.1	91.6	97.6	84.9
	書	52.2	64.4	84.1	92.9	95.1	77.1
ら	読	50.0	55.9	68.9	78.0	95.1	70.8
	書	34.8	51.1	65.9	73.8	87.8	61.9
り	読	56.2	77.3	82.2	90.2	97.6	79.9
	書	39.1	60.0	75.0	83.3	92.7	69.3
る	読	56.2	72.7	88.9	95.1	92.7	80.4
	書	47.8	55.6	72.7	83.3	90.2	69.3
れ	読	47.7	59.1	71.1	85.4	87.8	69.4
	書	23.9	31.1	54.5	66.7	30.5	50.5
ろ	読	56.2	63.6	75.6	85.4	92.7	74.0
	書	37.0	57.8	72.7	66.7	87.8	66.8
わ	読	50.0	56.8	75.6	87.8	95.1	72.1
	書	26.1	44.4	63.6	76.2	82.9	57.8
を	読	50.0	63.6	77.8	87.8	95.1	74.0
	書	13.0	22.2	59.1	71.4	61.0	46.6
ん	読	56.2	84.1	91.1	97.6	100	84.9
	書	58.7	75.6	93.2	97.6	100	84.4

調査 月日	読 書	4,18 4,22	5,30 5,28	6,24 6,25	7,16 7,14	9,3 9,4	全 体 の 平 均
人 数	読 書	48 46	45 44	45 44	41 42	41 41	
合 計	読 書	57.3 46.2	71.3 55.7	81.4 75.4	90.9 82.3	95.2 89.3	78.5 68.9

2. 読みやすい文字と読みにくい文字

ひらがな清音だけでなく、濁音・半濁音・それに漢字をも加えて、特に読みやすい文字と読みにくい文字とについて考えてみる。ここで「ま」が読みやすい文字にはいっているが、これは、「ました」という形や何かで頻出するからであろう。

「ぬ」「め」「わ」「れ」などは混同しやすいし、あまり出ないので読みにくい。

濁音・半濁音では「が」が読みやすい。また、「ぱぴぷぺぽ」の半濁音が読みにくい。ひらがなでは特にあまり提出される機会が少い文字である。

漢字では「一二三」から「子」が読みやすいのは、女子の名前に出て来たり、生活上頻出しているからであろう。

かたかなは、カリキヘヤなど、ひらがなと字形の似たものが読みやすい。

実験学校 読みやすい文字・読みにくい文字表 ()内は人数

4月18日(48人)	5月30日(44人)	6月24日(45人)	7月16日(41人)	9月3日(41人)	12月7日(35人)
読みやすい 1. し、す (48) 2. う、き、ま、み (41) 3. え、こ、さ、の、は (40) 4. あ、い、い、お、か、け、と、ゆ、よ (40) 5. た、ち、な、な、や、や (40)	1. お (44) 2. ん (44) 3. う、か、こ、し、せ、み、よ (40) 4. あ、さ、は (35) 5. い、え、と、の、ま、り (44)	1. お、せ、ま (43) 2. か、し、み (42) 3. あ、は、よ、ん (41) 4. さ、す、ち、と、る (40) 5. い、え、き、こ、も、や (39)	1. お、せ (41) 2. あ、さ、し、と、は、ま、み、も、よ、ん (40) 3. い、か、き、く、こ、ち、ふ、め、る (39) 4. う、た、つ、の、に、や (38) 5. え、け、て、な、ね、り (37)	1. あ、え、お、く、こ、す、ま、み、か、き、せ、た、ち、と、は、よ、り、な、に、の、や、ら、わ、を、ろ (38) 4. そ、は、ほ、む、ゆ (37) 5. ね、は、む、ゆ (37)	1. へ (32) 2. ほ、ひ、れ、そ (33) 3. ぬ、ね、む、る、ろ (34)
読みやすい 1. ほ (40) 2. ぬ (42) 3. む、れ (42) 4. そ、ら、わ、を、に、へ (44) 5. に、へ (44)	1. ぬ (42) 2. そ、ほ (42) 3. む、わ (42) 4. へ、れ (42) 5. て (44)	1. ぬ (42) 2. へ、ほ (42) 3. む (42) 4. ひ、ゆ、ら (41) 5. そ、れ (42)	1. ほ (40) 2. ぬ (40) 3. へ (40) 4. ら、む (42) 5. そ (43)	1. へ (42) 2. ぬ (44) 3. れ (40) 4. ね、ほ、む、ゆ (37) 5. そ、ひ、ふ、め、る (38)	1. へ (32) 2. ほ、ひ、れ、そ (33) 3. ぬ、ね、む、る、ろ (34)
読みやすい 1. す (42) 2. だ (42) 3. が、じ (44) 4. ご、づ、で、ど (42) 5. き、ぞ、び (42)	1. が (42) 2. す (42) 3. じ (44) 4. ご、だ (42) 5. げ、で、び (42)	1. が、び (40) 2. す (44) 3. で (43) 4. ご (42) 5. だ、ど (41)	1. が、じ (40) 2. ご、じ、で (40) 3. だ (43) 4. ぜ、ど (41) 5. げ、ぞ、ぶ (40)	1. が、で、ど (40) 2. ご、じ、ず、ぎ、げ (40) 4. び、ぶ (40) 5. ぜ、ぞ、べ (40)	1. じ、で、ご (40) 2. が、ず、だ、ど、び、ぞ (44) 3. き、ぐ、げ、ざ、ぶ、べ (42) 4. ば、ほ (42) 5. ぜ (41)

	4月21日(42人)	5月30日(44人)	6月24日(45人)	7月16日(41人)	9月3日(41人)	12月7日(35人)
読な み濁 に音 く・ い半 び濁 音が	1. ば (03) 2. ば、び、ほ (14) 3. ぶ (05) 4. べ (06) 5. ば (07)	1. ば (06) 2. ぶ、べ (08) 3. ば、ば、び (09) 4. ぞ、べ (20) 5. ざ、ち、ほ (21)	1. ば、ぶ (07) 2. べ (20) 3. ば (20) 4. ち、ば (23) 5. べ、び (24)	1. ば (03) 2. べ (06) 3. ぶ (08) 4. ば (20) 5. び (24)	1. ば (09) 2. べ (21) 3. ば、ぶ (22) 4. び (23) 5. ち (31)	1. ば (09) 2. ば、び、ぶ (21) 3. ち (23) 4. ぜ (31) 5. ば (32)
非字 数以上 の者が 読めた漢	一 (24)	一 (23) 二 (24) 三 (25)	一 (33) 二 (29) 三 (28)	一 (34) 二 (28) 三 (27) 四 (29)	一 (36) 二 (34) 三 (35) 四 (27) 十 (25)	一、(35) 七、(29) 六、(29) 二、(29) 下、(29) 手、(29) 三、(29) 小、(29) 九、(29) 山、(29) 上、(29) 川、(20) 十、(34) 目、(27) 木、(20) 子、(24) 大、(27) 土、(20) 四、(33) 人、(27) 八、(20) 五、(33) 中、(21) 日、(09)
三読 分の 一漢 字 以上の 者が	一 (24) 二 (20) 三 (09) 子 (07)	一 (23) 二 (25) 三 (25) 四 (17) 子 (09)	一 (33) 二 (29) 三 (28) 四 (07) 五 (08)	一 (34) 二 (28) 三 (27) 四 (29) 五 (07)	一 (36) 二 (34) 三 (35) 四 (27) 五 (09)	六 (14) 七 (15) 十 (24) 子 (25) 山 (06)

協力学校読みやすい字表

学 校 名	・ひらがな 清音	ひらがな 濁音・半濁音	カタカナ 清音	カタカナ 濁音・半濁音	漢 字
神 郷 小 学 校	いかとのよ	がじだいでど	カキリヤヤヘ	ガギゼベベパ	一二三子四
幸 世 小 学 校	のあかしい	がだぎぐご	キリヘヘカヤ	ガギゼベベ	一二三三三子
池 上 小 学 校	かおいうき	がござじで	ヘリヤニ	ベガギゼ	一二三三三子
方 南 小 学 校	みてあいお	ずござがぎ	リヘヘカキヤ	ガギゼズゼ	一二三三三子
比 々 多 小 学 校	のあいよえ	がずだづぎ	リヤヘヘカキ	ガベギゴゼ	一二三三三子
大 窪 小 学 校	おきままし	がどぎぐご	リカキニヘ	ガ	子山本一二
二 子 小 学 校	しくこすま	ずだがごじ			
下 松 小 学 校	おあきくし	がじぎげぐ	リカサヘヤ	ガギゼベベパ	一二三三三子
松 代 小 学 校	しおかみさ	がじでだぎ	カキリヘセ	ガギゼズ	一二三三三子
城 内 小 学 校	かみおきま	がじごだげ	ニリキカヘ	ガベギゴペ	一二三三三子
新 通 小 学 校	よあきひん	じずががぎ	カリキニヤ	ガベギゼペ	一二三三三子
沢 山 小 学 校	んおまのあ	ずだどが	キカアイ	ズガジベ	一二三三三子
中 田 小 学 校	みあいうお	がごじざげ	リカヘヘヤキ	ガギゼベペゼ	一二三三三子
小山第二小学校	おかのまあ	だがぎべ	カリヘヘキニ	グバビバ	一二三三三子
金 体 の 順 位	あおかきし	がごじざだ	カリキヘヤ	ガギゼベペ	一二三三三子

協力学校読みにくい字表

学 校 名	ひらがな清音	ひらがな濁・半濁音	カタカナ清音	カタカナ濁・半濁音
神郷小学校	なゆちれろ	びほぶべほ		
幸世小学校	ふれにぬを	ぶほほち		
池上小学校	をそぬやひ	ぶへほびち		
方南小学校	へれぬねむ	ほびぶべほ		
比々多小学校	わぬねふめ	ほべびぶざ	スワ	ジズゾダツ
大窪小学校	ぬほそねれ	べびほほぶ		
二子小学校	をそむめゆ	ばびぶべほ		
下松小学校	ぬほねれ	べほほぶび		
松代小学校	ぬねほむを	ぶばべほび		
城内小学校	つぬねへ	ほべほぶび	スソヲワヲ	
新通小学校	ぬほそへむ	べぶほほち	ケワヲ	ゲゾジデ
沢山小学校	をそほむけ	べほほほぶ	スヲ	ゾサダヒボ
中田小学校	ふをへぬね	ぶちほべ	スへヲロワ	ゾツデヒジ
小山第二小学校	ぬわねほむ	ほほびぶべ		
金体の順位	ぬねそれむ	ぶべほびほ	スワヲ	ゾジツダデ

3. 書きやすい文字と書きにくい文字

書きやすい文字・書きにくい文字は、読みやすい文字・読みにくい文字とだいたい似ている。しかし、書く場合には字形というものが、かなり重要になる。「こ」「い」「し」が書きやすかったり、「を」「ぬ」「む」「ゆ」などが書きにくかったりするの、その理由による。

書きにくい濁音・半濁音が、「ばびふぺぽ」だけでなく、「ち」「ぜ」「ぞ」などあることも注目される。

なお、これは読みにくさと関連するが、音価から来る問題がある。「へ」を「エ」と読む、「ず」=「づ」「じ」=「ぢ」という問題もこのこととからんでいる。

実験学校 書きやすい文字・書きにくい文字表

	4月22日(46人)	5月28日(48人)	6月25日(44人)	7月14日(42人)	9月4日(41人)	12月8日(36人)
書きやすいひらがな清音	1 こ (33) 2 し (32) 3 い、す (31) 4 ち、き、さ (29) 5 か、ま (28)	1 し (36) 2 お、こ、ま (34) 3 さ (33) 4 か、す、み (32) 5 あ、い、う、き、せ (32)	1 お、し、ま (42) 2 ん (41) 3 か、き、す (39) 4 こ (38) 5 い、と、は、み、よ (37)	1 ん (41) 2 お、か、き、す、せ、と、は、ま、よ (40) 3 あ、し、は、よ (39) 4 こ、さ、た、ち、も (38) 5 い、う、や (37)	1 お、こ、ち、ん、ん (41) 2 あ、さ、は、み、み (40) 3 き、せ、と、の、ま、よ (39) 4 う、し、す、た、つ、み、て、な、ね、も、や (38) 5 い、え、か、る、る (37)	
書きにくい清音	1 を (46) 2 む (9) 3 そ (10) 4 は、ゆ、れ (11) 5 ぬ、ふ、わ (12)	1 む (8) 2 を (10) 3 そ (11) 4 ゆ (12) 5 ふ (13)	1 ぬ、む (22) 2 へ、れ (24) 3 ま、を (26) 4 そ、ゆ (27) 5 な、ふ、め、わ、を (28)	1 へ、ほ (25) 2 ぬ (24) 3 む (27) 4 そ、ふ、れ、ろ、を (28)	1 ぬ (24) 2 を (25) 3 む (26) 4 そ、へ (29) 5 ゆ、れ (33)	1 ぬ (29) 2 わ (31) 3 い、そ、び、ふ、へ、ほ、ろ、れ (33)
書きやすい・半濁音	1 ず (24) 2 が、じ (20) 3 だ (10) 4 ご (17) 5 ぎ、づ (16)	1 じ (28) 2 が (24) 3 ご、ず (24) 4 き、で、び (21) 5 ぐ、だ (19)	1 ず (31) 2 び (26) 3 が (29) 4 ご、だ (27) 5 じ (26)	1 ず (34) 2 が (33) 3 ご (31) 4 じ、だ (30) 5 び (29)	1 ど (39) 2 じ (38) 3 が、ご、ず (36) 4 だ、び (35) 5 で (34)	1 ご、じ、は、え、た (39) 2 が、ぶ (35) 3 ぎ、ぜ、ど (34) 4 ぐ、げ、だ、で、は (33) 5 ぎ、ず、づ、び、べ (32)

	4月22日(46人)	5月28日(45人)	6月25日(44人)	7月14日(42人)	9月4日(41人)	12月8日(36人)
群・半 きに濁 く音 いひらが な濁音	1. そ、ち (4) 2. ぶ (5) 3. べ (7) 4. ぶ (9) 5. ぜ、ほ、び、 ほ (10)	1. ぜ、そ (9) 2. ぶ (10) 3. ぼ (11) 4. ち、ほ、ぶ (12) 5. げ、ざ、ば、 び (14)	1. ち (11) 2. ぼ (15) 3. ぶ (16) 4. べ (17) 5. げ、ほ (18)	1. ち (9) 2. ぶ (13) 3. び、べ、ほ (14) 4. ぼ (16) 5. ぐ、ぜ、づ、ほ (19)	1. ち (19) 2. ぶ (20) 3. べ、ほ (22) 4. づ (24) 5. ぐ (25)	1. び、ぶ (26) 2. ぞ、ぼ (28) 3. ち、べ (29) 4. き、ず、づ、び、べ (32) 5. ぐ、げ、で、ぼ (33)
半数以上の者が書けた漢字			一 (22)	一 (27) 二 (22)	一 (26) 二 (34) 三 (35) 四 (27)	二 (25) 人 (30) 川 (24) 十 (33) 中 (28) 木 (20) 子 (11) 五 (27) 月 (20) 一 (22) 六 (11) 八 (19) 大 (11) 目 (11) 七 (19) 四 (31) 七 (25) 下 (11) 上 (11) 三 (30) 小 (24)

協力学校書きやすい文字表

学 校 名	ひらがな清音	ひらがな濁音	かたかな清音	かたかな濁音・半濁音	漢 字
幸世小学校	あさきいぬ	ずげごがじ	キアカ	ガダ	一二三子中
比々多小学校	いかこしと		カサヘアイ		一二三山子
池上小学校	あいこしち		カヤヨラ	ベゴズドベ	一二三木山
二子小学校	おかくすい	ざぼでぼ			
方南小学校	こきかくし	ごがずぎじ	ヘリカコキ	ベガギゴゲ	一二三四五
神郷小学校	いかこさし	じだがぼぎ	アイカキハ	ガゴザゼド	一二三子中二
中央小学校	きんおいや	だちづでご			
下松小学校	おましあか	がぎぐげじ	カリキヘタ	ガギベブド	一二三中四
松代小学校	おしさかき	がじでぼげ	キカニオリ	ガギザ	二一三三四子
城内小学校	あおかい	がずでごぼ	カコタタリ		一二三山四
新通小学校	さあきんお	じずさがび			
沢山小学校	いしこおま	ずじがごぼ	アイキ	ズバ	一二三四
大窪小学校	こおいあん	がじだどぼ	カノフヘヤ	ガバビベバ	一二三本山
中田小学校	あおきくさ	べがずぼご	ソキリアカ	バズゲダブ	一二三中四
小山第二小学校	かあいこの	がだべじぼ	アイクタト	ガギベザダ	三一一二子四
金 体 順 位	おあかしこ	がじごずぼ	カキアリイ	ガギベザバ	一二三三四子

協力学校 書きにくい字表

学 校 名	ひらがな清音	ひらがな濁・半濁音
幸 世 小 学 校	を ろ わ む る	ち づ ぎ ぐ ぶ
比 々 多 小 学 校	を り ぬ ね む	
池 上 小 学 校	を ら む ふ も	
二 子 小 学 校	を む め ゆ よ	ぼ ぶ ぎ げ べ
方 南 小 学 校	ふ を ほ も ゆ	ば び ぶ べ ぼ
神 郷 小 学 校	を そ ぬ れ へ	ち づ ぐ ぶ び
中 央 小 学 校	を れ ほ め ら	べ そ ぶ ぼ
下 松 小 学 校	ぬ ほ む へ	べ ぶ ば ぼ ち
松 代 小 学 校	ふ む れ を ぬ	ぶ べ ぐ び ぼ
城 内 小 学 校	を わ ろ そ ら	ち ぶ ぼ そ づ
新 通 小 学 校	ろ れ を め む	ち づ ば ぶ べ
沢 山 小 学 校	を れ ほ む ゆ	ち ぶ び べ そ
大 窪 小 学 校	を そ ね む ら	び ぶ べ ぼ そ
中 田 小 学 校	を そ ろ ほ た	ち ぶ ぼ づ べ
小 山 第 二 小 学 校	ね ぬ ろ ら め	び ぶ べ ば そ
全 体 の 順 位	を む ほ ぬ ら	ぶ べ ち ぼ づ そ

E どのようにして調べたか

1. 実験学校と協力学校

われわれの「言語能力の発達に関する調査研究」は、昭和28年度において実験学校1校、協力学校14校を委嘱して出発した。

実験学校（東京四谷第六校）においては、4月5日から所員および補助員6名が毎日教室に参加し、運動場で子供たちと共に遊んで、子供たちと親しくなることに努力した。

入学当初の子供は、文字が読めないから、テストは口頭で、個々面接でなければならない。それに入学当初の微妙な神経の動きを考慮して、警戒心を解かせることが第一であった。

実験学校においては、観察記録・テストを全部、直接、所員の手によっておこなったのであるが、協力学校はこれをその学校の職員に任せるのであるから、それだけの熱意と研究能力とのある学校でなければならない。特に神奈川県中郡比々多校は、実験学校が東京の中心部の学校である関係から、純農村地帯の資料がぜひとも必要であるため、われわれが実験学校において実施した観察・記録・テストのほとんどすべてについて、全く同一ものを作ってもらった。その他の協力学校においても、担任教員、国語主任、学校長の協力によって、できるだけの研究項目を担当し、資料を送付してもらった。

その成果の一部分はすでに示したが、以下に掲げるのは4月第1回のテストの時の調査問題と、実験学校の集計の一部である。実験学校の個人個人については、この報告の中で触れられることがあり、この研究自体が個々の事例の研究を一つの重要な面と考えているので、個人別集計表を掲げる。

昭和28年度の正式の実験学校と協力学校とは次の通りであるが、この報告

漢字および数字テスト

石	大	国	白	五	土	花	左	右	十
足	上	口	四	空	月	中	火	九	耳
赤	色	三	下	先	小	出	八	本	山
青	二	木	字	生	立	七	日	冬	目
一	入	川	子	正	六	手	早	人	水
3	7	2	5	1	9	4	10	6	8

ひらがな・かたかな書字テスト

下記は参考すぎない、児童にわかる語であればなんでもよい、下記によると清・濁・半濁のすべてをつくしている、ただし次のように重出する、——お、う、つ、こ、と、り、る（2回）、き（3回）、ん（9回）。

- | | | | |
|--------|---------|---------|---------|
| 1 あさ | 9 セミ | 17 ふゆ | 25 どんぐり |
| 2 いぬ | 10 ぼん | 18 へび | 26 ざる |
| 3 えんぴつ | 11 つづき | 19 ほんばこ | 27 おじぎ |
| 4 おに | 12 べんとう | 20 まんが | 28 ぼく |
| 5 きをきる | 13 ともだち | 21 やね | 29 そう |
| 6 かぜ | 14 のり | 22 きれ | 30 でんわ |
| 7 けしごむ | 15 はなち | 23 げに | 31 てぶくろ |
| 8 すずめ | 19 ひよこ | 24 ぼんぶ | 32 へん |

○ひらがなで書いたら、ほかの字は知らないかと言ってかたかなを書かせる。

○お・をなど一方の字しか字かないときは、ほかのお（またはを）知らないか。と言ってきく。

漢字テスト

- いち、いっ（いっぼん）、ひとつ。
- あし、そく（えんそく、げそく）。
- あおい、あお（あおぞら）。
- あかい、あか。
- に、ふたつ、ふた（ふたり）。
- いし、こいし（いし、いしけり）。
- いれる、いる（いりぐち）、はいる、にゅう（にゅうがく）。
- さん、みっつ（みつこし）、み（みいろ）。

- 9 いろ(きいろ)。
- 10 うえ(うえした、うえの、うわばき)、あがる、あげる、のぼる、のぼり、じょう(じょうげ、じょうとう)。
- 11 し、よつつ(よつや)、よん(よんこ、よんほん)。
- 12 うまれる、いきる(ながいき)、せい(せいと、せんせい)。
- 13 おおきい、おお(おおさわぎ)、だい(だいすき、だいがく)。
- 14 かわ(たまがわ、おがわ)。
- 15 き(さくらのき、うえき)、もく(もくようび)。
- 16 ご(ごにん)、いつつ(いつか)。
- 17 くち(いりくち、でくち)。
- 18 くに(にほんのくに)、こく(がいく、こくご)。
- 19 こ(こども)、(はなこさん)、(こいぬ)。
- 20 せん(せんせい)、さき(ゆびさき)。
- 21 じ(かんじ、じをかく)。
- 22 した(うえした、くつした、したじき)、くだる(くだりでんしゃ)、おりる、さがる、げ(げそく)。
- 23 ろく、むつつ(むいか)。
- 24 しろ、しろい(しろいはな)。
- 25 そら(そらいろ、おおぞら)。
- 26 しょう(おしょうがつ)、ただしい。
- 27 たつ(たちあがる)、たてろ(はたをたてる)、りつ(くりつ)。
- 28 ちいさい、しょう(しょうがくせい、しょうがっこう)、こ(こいし)。
- 29 つき(おつきさま)、がつ(しがつ)、げつ(げつようび)。
- 30 つち、ど(どようび)。
- 31 しち(しちがつ)、ななつ、なな(なないろ)。
- 32 て(てあし)、しゅ(うんてんしゆ)。
- 33 でる(でくち)、だす。
- 34 なか(まんなか)、ちゅう(ちゅうがっこう)。
- 35 はな(もものはな)、か(かだん、かびん)。
- 36 はやい
- 37 ひ(おひさま)、び(にちようび)、にち(二十一にち)、か(ふつか)。
- 38 ひ(ひばち)、か(かじ)。
- 39 はち(はちばんめ)、やつつ(ようか)。
- 40 ひだり(みぎ、ひだり、ひだりがわ)。
- 41 ひと(ひらいひと)、にん(よにん、にんげん)、じん(アメリカじん)、(ひとり、ふたり)
- 42 ふゆ(なつ、ふゆ)。
- 43 ほん(ごほん)、(にほんのくに)、ぼん(いっぽん)、ぼん(さんぼん)、もと。

- 44 く、きゅう、ここのつ。
 45 みぎ(みぎひだり)、(みぎがわ)。
 46 みず(かわのみず)、すい(すいどう、すいようび)。
 47 みみ、じ(じびか)。
 48 め(めだま)、もく(ごもくならべ)。
 49 じゅう、とお、じっ(じっぽん)[土地により じゅう(じゅうぽん)]
 50 やま(おやま、ひとやま)、さん(ふじさん)。

3. 実験学校における集計表

読字力集計表(4月18日調査)

		読めた者 の 数	被 調 査 者 数	%
ひらがな清音 完全に読めた者	男	7	23	30.43
	女	8	25	32.00
	計	15	48	31.25
ひらがな清音 半分以上読めた者	男	12	23	52.17
	女	15	25	60.00
	計	27	48	56.24
ひらがな清音 平均読字数	男	565 ^字	23	24.57 ^字
	女	701	25	28.04
	計	1,266	48	26.37(57.3%)
ひらがな濁・半濁音 完全に読めた者	男	5	23	21.74
	女	5	25	20.00
	計	10	48	20.83
ひらがな濁・半濁音 半分(13字)以上読め た者	男	9	23	37.13
	女	11	25	44.00
	計	20	48	41.66
ひらがな濁・半濁音 平均読字数	男	334 ^字	23	10.17 ^字
	女	254	25	10.16
	計	488	48	10.17(40.7%)

漢字読めた字 平均字数	男	109 ^字	23	4.74 ^字
	女	106	25	4.24
	計	215	48	4.48 (11.2) %

書字力集計表（4月22日調査）

		書けた者の 数	被調査 者数	%
ひらがな清音 完全に書けた者	男	0 ^人	23 ^人	0
	女	0	23	0
	計	0	46	0
ひらがな清音 半分以上書けた者	男	9	23	29.13
	女	11	23	47.83
	計	20	46	43.48
ひらがな清音 平均書字数	男	429 ^字	23	18.65 ^字
	女	538	23	23.39
	計	967	46	21.02 (45.7%)
ひらがな濁・半濁音 完全に書けた者	男	0 ^人	23	0
	女	0	23	0
	計	0	46	0
ひらがな濁・半濁音 半分以上書けた者	男	7	23	30.43
	女	6	23	26.09
	計	13	46	28.26
ひらがな濁・半濁音 平均書字数	計	159 ^字	23	6.91 ^字
	女	156	23	6.78
	計	351	46	6.85 (27.4%)
漢字書けた字 平均字数	男	68 ^字	23	2.96 ^字
	女	53	23	2.30
	計	121	46	2.63 (6.3%)

調査日 28-4-18.

[illegible]

	25	(○)
読む計		11 12 14 13 13 12 12 14 11 13 17 16 12 10 14 11 12 12 13 13 10 9 13 15
書く計		11 13 13 8 13 10 12 9 6 12 16 16 15 17 3 12 11 9 9 11 9 9 4 7 12

[illegible]

	46	44
13131210 813151012131214131212141112101012	565	
1111 5 7 61212 5 71010 410 7 911 5 9 5 313		429

はひふへほまみむめもやゆよらりるれろわをん	読む計	書く計
	45	30
	45	35
	46	45
	40	27
	46	41
	46	33
	46	45
	12	6
	7	6
	46	44
	2	9
	46	42
	2	5
	11	13
	4	欠
	0	4
	46	16
	3	欠
	2	5
	44	37
	41	23
	43	17

號 ち 計 18171717161719151519171718151414171414161515131315

書 $\langle$ 計 14 18 13 12 16 18 17 14 13 21 13 16 16 10 7 12 12 13 10 16 9 13 8 8 13

読 心 29 29 31 30 29 29 31 27 29 30 30 34 34 27 24 28 28 26 26 29 28 25 22 26 30

書 子 計 25 31 26 20 29 28 29 23 19 33 29 32 31 27 10 24 23 22 19 27 18 22 12 15 25

個人別ひらがな濁音・半濁音 読字・書字成績

(○読めた字、●書けた字、◎読み書きできた字) 調査日 28-4-18

[illegible]

	30	20
	2	4
	46	31
17 14 14 15 11 18 16 13 15 14 16 15 16 12 15 13 12 15 14 14 15	701	
14 12 7 8 5 16 15 4 11 12 14 7 14 9 9 11 6 8 7 3 14		538
30 27 26 25 19 31 31 23 27 27 28 29 29 24 27 27 23 27 24 24 27	1,266	
25 23 12 15 11 28 27 9 18 22 24 11 24 16 18 22 11 17 12 6 27		967

[illegible]

(○読めた字、●書けた字、◎読み書きできた字)

[illegible]

[illegible]

女子	アイウエオ	カキクケコ	サシスセソ	タチツテト	ナニネノ
1		○ ○	○	● ○	
2					
3		○ ○	○	○	○
4					○
5		○			○
6					○
7	○	● ○		○	○
8					○
9		●			●

[illegible]

個人別かたかな濁音・半濁音 読字・書字成績

(○読めた字、●書けた字、◎読み書きできた字)

男 子	ガ	キ	グ	ゲ	ゴ	ザ	ジ	ズ	ゼ	ゾ	ダ	デ	ヅ	デ	ド	バ	ビ	ブ	ベ	ボ	パ	ピ	プ	ペ	ポ	読計	書計
1																										0	0
2																										0	0
3	○	○						○	○										○				○			6	0

[illegible]

[illegible]

[illegible]

25	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10
計	21	20	19	17	16	15	13	13	12	17	163

先	空	立	小	月	土	手	出	中	花	早	日	火	左	人	冬	本	右	水	目	山	耳	読	む	計	書	く	計
																							0	0			
																							0	0			
								⊙															10	6			
																							欠	欠			
																							0	0			
																							0	0			
																							1	0			
			○					⊙		○		⊙	⊙	○	○	○	○	○	○	⊙			23	11			
	⊙		⊙							○	⊙								●				14	15			
																							3	3			
										○						○			○	○			10	1			
																							0	0			
								○								○							7	4			
								⊙						○		○	○	○	○	⊙			15	7			
																							欠	欠			
																							2	3			
																							0	1			
																							1	1			
																							0	0			
																							0	0			
																							0	0			

																			0	0			
																			0	0			
																			0	0			
																			4	0			
																			0	0			
		⊙		⊙		⊙		⊙	○		○	⊙							18	11			
0	0	0	1	2	0	0	0	2	0	0	5	0	1	1	0	4	1	1	1	4	0	106	
0	0	0	1	1	0	0	0	2	0	0	1	0	1	1	0	3	1	1	0	2	0		53
0	0	1	3	4	0	0	0	7	0	0	9	1	1	3	0	8	2	3	3	8	0	215	
0	0	1	2	3	0	0	0	6	0	0	2	1	1	2	0	4	1	1	2	5	0	121	

Ⅱ 入学当初のその他の言語能力

A 発音の正確さ

1. 第一回の発音検査

小学校入学当初において語音を正確に発音し得ない者は何人ぐらいいるか、どういう子供ができないか、また、どういう音が発音しにくい音であるか。これらのことについて見当をつけるため、実験学校においては5月21日、その他の協力学校でもだいたい同日ごろ、模唱の方法で次のような検査をおこなった。

このテストは検査者の耳が根本問題であり、6人の異った検査者が5名ないし10名を受持って行ったものであるから、絶対正確とはいえないが、傾向だけはわかるはずである。

問題は、この期の児童たちに、まだ残っていると思われる幼児音、予想される発音上の困難や誤りをふくむ音等を含む語をなるべく児童の生活に親しいことばからえらんだ。

なお、清・濁・半濁音のすべての音は、一応出しておいた。促音、拗音の例も相当出しておいたが、第二回めには、拗音の不足の分をさらに補充した。

発音テストの問題

次の12の文を調査者が明瞭にゆっくり言って、児童に模唱させる。くりかえしてもかまわない。主として、(1) ガ行鼻濁音ができるか、(2) 拗音ができるか、(3) 促音ができるか、(4) 清音と濁音を混同することはないか、(5) ライネンをダイネンというように、幼児音あるいは訛音のため音をまちがえることはないかを調べる。誤った音については、その誤まった個所に誤まった音を記録しておく。(かなで表記する)。

1. ニューガク オメデトー。

2. イッテマイリマス。 イッテイラッシャイ。 タダイマ。
3. ボーシワ キチント カブリマショー。
4. アタラシイ ツクエノ ナカニワ ホント チョーメント エンビット オリ
ガミガ ハイッテイマス。
5. キョーワ ガッコーデ、センセート イッシヨニ、ペンキヨージマシタ。
6. ムコーカラ キシャガ ハシッテキマシタ。 バンザイ。
7. ワタクシノ ウチデワ イスト アヒルト ウサギオ カッテイマス。
8. オーキナ ハナ。 キレーナ チョーチョ。 アカイ ハナワ イツツ。 キ
ーロイ チョーワ ヒトツ。
9. ミズノ ナカラ オヨイデイル キンギョウ カゾエマショー。 ロッビキ
イマス。
10. スズメワ カワイイ コトリデス。
11. ジョーブナ カラダニ スナオナ ココロ。
12. ライネンニ ナッタラ ナンネンセーニ ナリマスカ。
13. ヤマデ ドングリオ ヒロイマシタ。 カゴニ、 イツパイニナツタノデ、
ユーガタ、 ゲンキヨク ウチエ カエリマシタ。
14. ソトワ、 かぜガ、 ビュービュー フイテ イマス。 アメモ、 ボツボツ
フッテ キマシタ。
15. チンドンヤサソワ、 タイコト ラップト フエ モッテ、 グルグル マチ
オ アルキマス。 ピーヒヤラ ドンドン、 プカプカ ドンドン。

実験学校に見出される発音の誤りの傾向
(数字は件数、かっこの中はその比率、調査人員45名)

ガ行音を鼻音化しない	77 (30.4)	ズ	ゼ	ゾ	9 (3.5)
ヒ → シ	45 (17.8)	ビ		ブ	8 (3.2)
ダ デ ド	23 (9.1)	ガ行音を鼻音化する			6 (2.4)
サ シ ス セ	15 (5.9)	ガ行鼻音ができない			6 (2.4)
ラ レ ロ	13 (5.1)	エ	……	イ	4 (1.6)
チ	ツ	揃		入	4 (1.6)
拗	音	混 乱,	促 音 化		1 (0.4)
脱	落	そ	の	他	5 (2.0)

個人別発音の誤り一覧表(第一回)

男 子	ガ行音を 鼻音化し ない	ガ行音を 鼻音化す る	ガ行鼻音 ができな い	ヒ ー シ	エ ー イ	ズ ゼ ゾ	ダ デ ド	ラ レ ロ
実 例	ニューガ ク ヘンジガ ウサギ	ケンゴム	ドンブリ (グ) ニューニ ャク	シトツ ニシキ シロイマ シタ ビーシャ ラ	ツクイ カイリマ シタ サイズッ テ	ミジュ ジョージ ユ ガジェ ガジョエ マジョー	カララ タライマ オメゼト ー オメレト ー ロンロン	ダイネン ナイネン カダダ ヒライマ シタ
1								
2						1	1	
3	2							1
4								
5	8			1			2	
6	3			1				
7								
8								
9			1	2				
10								
11								
12	4					1		
13		1						
14	2		1				1	
15								
16					1		3	
17	2			1				
18				2			1	1
19								2
20				1				
21	1			3				1
22				2			2	
23				2				
24	2				1			1
25	9							
	33	1	2	15	2	2	10	6

サ ス	チ	ビ	拗 音	混 乱	脱 落	挿 入	促音化	その他	誤りの数
シ セ	ツ	ブ							
ウシャ ギ ワタク チツナオ シエン シエー	ゴシソ ーサマ ウテイ ヒトチ ユ ボチュ (ツ)	エンペ エツ ロツペ ビカピ カ(フ*) フカフ カ(フ*)	ニーク ニユーク ギーニユ ー ジューニ ユー チー クショク	ワタシ ク	イッテ マリマ ス ヨーズ ニ サエズツ デマス アシッ テ	ドンク リヨ(オ) マチヨ (オ)	ゴッソ ーサマ	ニヤカ (ナカ) カムル (カブル) デケマ ス	
									0
1					1			1	6
									3
									欠
	1								12
									4
									0
									0
									3
									0
		1							欠
									6
									1
			1						5
									欠
		1	2					1	8
									3
1	1		1						7
	1							1	4
									1
1		2						1	9
	1		1						6
									2
		1							5
			1						10
4	4	5	6		1			4	95

女子	が行を 鼻音化し ない	が行を 鼻音化す る	が行鼻音 がで き な い	ヒ ー シ	エ ー イ	ズ ゼ ゾ	ダ デ ド	ラ レ ロ
実 例	ニュー グ ヘソジ ウサギ	ゲシ ゴム	ドン フリ (ダ) ニュー ニ ャク	シトシ ニシキ シロイ マ シタ ビー ジャ ラ	シタイ カイリ マ シタ サイズ ツ デ	ミジュ ジョー ジ ユ カジェ カジョ エ マシ ョー	カララ タライ マ オメゼ ト ー オメレ ト ー ロソ ロソ	ダイネ ソ ナイネ ソ カダダ ヒライ マ シタ
1	7			2				
2								
3	1			1				1
4		1		2		1		
5				2				
6							1	
7				1				
8							1	
9				3			1	
10	1	1				1		1
11		1	2			4	1	1
12						1		
13	1							
14	2			2				
15				2				
16	2	1	1	3	1		2	
17	11						1	
18				2			1	
19								
20	6			4			1	1
21	2	1						
22	6		1	1			2	1
23	3			2			1	
24				3			1	2
25	2				1			
	44	5	4	30	2	7	13	7
	77	6	6	45	4	9	23	13

サ ス	チ	ピ	拗 音	混 乱	脱 落	挿 入	促音化	その他	誤りの数
シ セ	ツ	ブ							
ウシヤ	ゴシソ	エンベ	ニ一ガク	ワタシ	イッテ	ドンク°	ゴッソ	ニヤカ	
ギ	ーサマ	エツ	ニユク	ク	マリマ	リョ(オ)	ーサマ	(ナカ)	
ワタク	ウテイ	ロツバ	ギニユー		ス	マチヨ		カムル	
チ	ヒトチ	キ	ー		ズ	(オ)		(カブル)	
シナオ	ユ	ビカビ	ジュニ		ニ			デケマ	
シエン	ボチュ	カ(フ)	ユーチク		サエズツ			ス	
シエー	(ン)	カ(フ)	クシヨク		デマス				
									9
									欠
						1			4
									4
									2
									1
									1
									1
	1								5
									4
7	4	1	3						25
			1	1					2
									1
	1				1	2			8
	1	1			1	1			6
	1		1		1				13
			1		1			1	15
									3
									欠
			1		2		1		16
									3
	1								12
									6
4	1	1			3				15
									3
11	10	3	7	1	9	4	1	1	
15	14	8	13	1	10	4	1	5	159

この調査から、が行音を鼻音化しない者が非常に多いこと、東京の子供であるためにヒとシを混同する者がかなりあることが知られた。その他にはグ、デ、ドが正確にいけないのである。

個人別一覧の方でみると、ひとりで25の誤りをおかしている者がある。この調査の限りでは女子の方が発音の不明瞭・不正確な者が多い。あまっ たれと言いかたも女子の方に多かった。

2. 第二回の発音検査

第二回の発音検査は、実験学校においては7月7日、協力学校においてもだいたい同日ごろおこなった。方法は第一回と全く同じで、内容として、第1回のに拗音の補充をした。

その結果の個人別一覧表を掲げると次のようであって、全体の誤りの件数は減り、全然誤りを犯していない者の数も増している。

中には、第一回のテストで誤りが零だった者が、このテストで誤りが4件も発見されている者がある。これは調査者の耳の問題であろう。それにもかかわらず、全体としてみれば、前回に誤りの多かつ者はやはり多く、だいたい同じ傾向を示している。また、女子よりも男子の方が全体として誤りの件数は少い。ただ、女子の方に誤りの零の者が多いということは注意すべき現象であろう。

個人別発音の誤り一覧表 (第二回)

男 子	促音化	挿入	脱落	混乱	拗音	ビ	チ	サシスセ	ラレロ	ダデド	ズゼゾ	エーイ	ヒーシ	できない が行鼻音が 音化する	音化する が行音を鼻 音化しない	実 例
					ま く い え な い (5)	ビ ー ビ ヤ ラ	ゴ シ ソ ー サ マ		カ タ ネ マ シ タ	ト ー カ ラ ラ ヤ マ と オ メ レ		サイ ズ ツ テ	ビ ー シ ヤ ラ ニ シ キ			
1																
2	欠															
3																
4	欠															
5	9								1	2						
6	3								1							
7	4															
8	2															
9												2				
10	4															
11	欠															
12	4															
13	欠															
14	7															
15																
16	1								1							
17	2						1					1				
18																
19																
20										1			3			
21	3								1				1			
22													3			
23							1						1			
24																
25	7															
男子計	46									5	2		10	1		

男 子	そ の 他	誤 り の 数	拗 音 の 補 充 テ ス ト			
			誤 語 数 の	拗 音 数 の	そ の 実 例	拗 音 以 外 の 誤 り ()内は例, 数字は誤った数
実 例	ナ↓ヘ ↓ダ ヌ↓ド ウハ					
1		0	1	1	リャクス(いいにくい)	
2						
3		0	2	2	コンナク、ビャクス	
4						
5	4	17	6	0		ロ(ニヨリヨ)1, 鼻濁音(ミヨーガ)2, メ、モ(キャラベル、オボチャ)2, セ(シエ ンシユ)1
6		4	2	1	ジュージ(ギョージ)	鼻濁音(ミヨーガ)1
7		4	3	0		鼻濁音(リューダー)3
8		2	2	0		鼻濁音(ミヨーガ)2
9		2	0	0		
10		4	0	0		
11						
12		4	4	0		鼻濁音(オギヤー)4
13						
14		7	5	1	ビヨイン	鼻濁音(ミヨーガ)4
15						
16		3	4	4	ニヨロノロ、ビャクス リユダー ビヨコー	
17		4	3	0		鼻濁音(ジューゴヤ)3
18						
19						
20		4	1	1	リューダー (いいにくい)	
21		5	4	2	サンマク、サンバクゴ ジュー	ヒ(シヨーン)1, 鼻濁音(ジューゴヤ)1
22		3	2	0		ヒ(シューシュー)2
23		2	1	0		シ(ヒーヒ)1
24		1	4	3	コンナク、サンマク、 リユコー	鼻濁音(オギヤー)1
25		7	4	0		鼻濁音(ミヨーガ)4
男子計	4	73	48	15		

女 子	促音化	挿入	脱落	混乱	拗音	ビ	チ	サシスセ	ラ	ダ	ズ	エ	ヒ	で 行鼻音が できない	音化する が行音を鼻 ガ行音を鼻	音化しない が行音を鼻 ガ行音を鼻	実 例
					ま く い え な い う	ビ ー ビ ヤ ラ (う)	ゴ シ ソ ー サ マ		カ ク ネ マ シ タ	ト ー カ ラ ラ オ メ レ		サイ ズ ツ テ	ビ ー シ ヤ ラ ニ シ キ				
1	11												3				
2										1			2				
3	4																1
4									1				1				
5																	
6										1							
7																	
8													1				
9	2						1	9		1			1				
10	4									1							
11							4				5				1		
12																	
13																	
14	1					1							1				
15							1						3				
16	1									1			4	1			
17	8								1	1							
18																	
19	2					1				1							
20	4						1			1			1				
21	1														1		
22	9												1				
23	6									1							
24	1						1			1			3				4
25															1		
女子計	54	4	1	21			2	9	8	2	3	1	4	1			
男女計	100	4	1	31	1	5	15	4	9	10	4	9	10	4	4	1	0

女子		拗音の補充テスト				その実例	拗音以外の誤り ()内は例, 数字は誤った数
		その他の	誤りの数	誤語の	拗音の誤		
実例		ナ↓ タ↓ ハ↓ ヌ↓ ジ↓ ヨ↓ ブ↓ ハ					
1		14	6	0			鼻濁音(ミヨーガ)2, ヒ(シヨーシ)1
2		3	2	0			ヒ(シュージュュー)2
3		5	0	0			
4		3	4	3	ニヨロノロ、ビヤクス、ロコー	ヒ(シヨーシ)1	
5		0	0	0			
6		1	0	0			
7		0	0	0			
8		1	1	0			ヒ(シュージュュー)1
9		5	0	0			
10		5	1	0			鼻濁音(ギャング)1
11	1 ネアレ	22	4	2	リアクス、ビー	鼻濁音(リューニユー)1, コ(リヨキヨー)1	
12		0	0	0			
13		0	1	0		シ(ヒョーヒ)1	
14		3	1	1	リアクス(いいにくい)		
15		4	0	0			
16	1 ネ→エ	9	4	0		鼻濁音(リューニユー)1, ヒ(シュージュュー)2 ロ(ニヨー)1	
17		9	2	0		鼻濁音(ミヨーガ)2	
18		0	0	0			
19		5	4	2	ヂャクス、ジューダー	ロ(ニヨリヨ)1, イ(ビョーエン)1	
20		7	0	0			
21		2	5	3	ニロニロ、ビヤクス、ロコー	鼻濁音(ジューゴヤ)1, シ(ヒョーヒ)1	
22		10	2	2	ドコー、ニヤング		
23		7	3	1	サンビヤク(ミヤク)	鼻濁音(リューダー)2	
24		11	7	3	リヤクス、リューダー、リヨコー (いいにくいといつていわない)	ヒ(シュージュュー)2, サ(シャンビヤク)1 イ(ビョーエン)	
25		1					
女子計		2	127				
男女計		6					

B 語 い の 能 力

1. 第一回の語い検査

小学校入学時において、児童は約5,000語を聞いて理解し、3,000語を使うことができるといわれている。しかし、どこまでを理解しているといえるかその限度の取りかたでその範囲はもっとせまくなり、あるいはもっと広くもなる。

この問題についてわれわれは、次のような方法で二回のテストを実施し、この問題が厳格に考えると実にむずかしい問題であるということを知った。そしてこれは非常に冒険であるが、2,000語の段階ならまあかなり正しく把握しているといつてよいということを知った。

第一回の語いテストは、実験学校においては4月27日、協力学校においてもだいたい同日ごろおこなった。

語 い 検 査 の た め の 語 表 (第一回)

阪本一郎氏「日本語基本語彙 幼年之部」1,000語代(1)~(5)、2,000語代(6)~(15)、3,000語代(16)~(20)、

かっこ〔 〕の中は、問いかたの実例、評価◎○△×。

- (1) てつだい 〔おてつだいってなに? きみはおてつだいする? どんなことをするの、いってごらん。〕
- (2) くやしい 〔くやしいってなに? どんな時くやしいの? くやしい時笑う? 喜ぶ?〕
- (3) せいよう 〔せいようって知ってる? どこ? 日本? そうでないの? アメリカやイギリスの方だね。そうよく知っていますね。〕
- (4) しょくじ 〔ごはん? しょくじにんのこと? まちがえること? なに?〕
- (5) くわえる(啜) 〔どうやるの? 犬がなにか、くわえるでしょ、どうやるの?〕
- (6) まちはずれ 〔まちの中のこと? にぎやか?〕
- (7) ちゅうがえり 〔どういうこと? だれがやるの? どこで?〕
- (8) しーんとした 〔おどろいたの? こまったの? 静かになったの?〕
- (9) にわさき 〔庭の中? 外? わき?〕
- (10) かすか(に)さげんだ 〔大きな声? 小さな声? 「かすかに見える」ってなに? よく見えるの? よく見えないの?〕

- (11) かんびょう 「どんな時、だれがするの？」
 (12) はなざかり 「たくさん咲いているの？ 少しなの？ 咲きはじめてころなの？」
 (13) せんし 「せんに死んだの？ いつ死んだの？ なんて死んだの？」
 (14) つまづく 「どうなるの？ つまづいたことがある？ どんな時？ やつてごらん」
 (15) せっせと 「せっせと笑った、せっせと声を出した、せっせと働いた、でどれがいいの？」
 (16) ほんのり 「どうなの？ こいの、うすいの？ たくさん、すこし？」
 (17) るすい 「るすをすること、どこかへ行くこと？ うちにいないの、いるの？」
 (18) しかめる 「何をするの？ 手をしかめる、肩をしかめる、顔をしかめる？」
 (19) こけ〔苔〕 「どこにはえるの？ 木？ 草？ 大きい、小さいの？」
 (20) けんぶつにん〔見物人〕 「みせもの？ 人のこと？ なにしている人？」

実験学校における被調査者は男女42名、語いは語表に示したように、「日本語基本語い——幼年之部」にもとづいて、1,000語段階から5語、2,000語段階から10語、3,000語段階から5語、計20語（名詞、動詞、形容詞、副詞等をふくむようにして）が選び出されているが、個々面接によって理解の度を調べ◎○△×の四段階に表示した。

◎だけの平均7.2語（最高15語——最低1語）

◎○合計の平均9.3語（〃 16語——〃 4語）

3,000段階の方ができが悪かったが、よくできた順は「てつだい」「つまづく」「しょくじ」……「こけ」「かすかに」である。次の表の下の方の数字は◎の人数である。

実験学校における語いテストの成績（第一回）

語	男	女	計	語	男	女	計
1 てつだい	17	19	36	11 かんびょう	1	3	4
2 くやしい	16	12	28	12 はなざかり	8	10	18
3 せいよう	3	3	6	13 せんし	2	1	3
4 しょくじ	13	17	30	14 つまづく	17	18	35
5 くわえる	14	15	29	15 せっせと	13	11	24
6 まちはずれ	3	3	6	16 ほんのり	1	1	2
7 ちゅうがえり	11	2	13	17 るすい	11	6	17
8 しーんとした	12	9	21	18 しかめる	2	1	3
9 にわさき	5	7	12	19 こけ	2	1	3
10 かすか	1	1	2	20 けんぶつにん	4	5	9

個人別語いテスト成績一覧表（第一回）

男 子	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	合 計				
	てつだい	くやしい	せいよう	しょくじ	くわえる	まちはずれ	ちゅうがえり	しーんとした	にわさぎ	かすか	かんびよう	はなざかり	せんし	つまづく	せつせと	ほんのり	るすい	しかめる	こけ	けんぶつにん	◎	○	△	×	
1	◎	◎	×	◎	◎	◎	◎	◎	○	×	△	◎	◎	◎	◎	×	◎	×	×	○	12	2	1	5	
2	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	×	×	×	◎	×	◎	◎	×	×	×	×	×	10	1	0	9	
3	◎	◎	×	○	○	×	◎	○	○	×	×	△	×	◎	◎	△	○	△	△	×	5	5	4	6	
4																									
5	◎	◎	×	◎	◎	×	×	○	×	×	×	○	△	◎	○	×	◎	◎	×	×	7	3	1	9	
6	◎	◎	×	×	×	×	◎	×	×	×	×	◎	×	◎	◎	×	×	×	×	×	6	0	0	14	
7	○	×	×	×	◎	×	×	◎	×	×	×	×	×	◎	×	×	◎	○	△	×	4	2	1	13	
8	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	×	○	◎	◎	◎	◎	×	◎	△	×	◎	15	1	1	3	
9	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	△	△	×	×	◎	◎	○	×	×	◎	○	11	3	2	4	
10	◎	◎	×	◎	◎	×	△	◎	×	△	×	○	×	◎	×	×	◎	×	×	○	7	2	2	9	
11	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	0	20	0	0	
12	△	◎	◎	◎	◎	×	×	◎	×	×	×	△	△	○	×	×	△	×	×	◎	6	1	4	9	
13																									
14	◎	◎	○	◎	◎	×	◎	◎	○	×	×	◎	×	◎	◎	×	◎	×	◎	○	11	3	0	6	
15																									
16	◎	△	×	◎	◎	×	△	◎	◎	◎	△	×	×	×	◎	×	◎	△	×	○	8	1	4	7	
17	◎	◎	×	◎	◎	×	◎	◎	◎	×	×	◎	×	◎	×	×	×	×	×	×	8	0	0	12	
18	◎	○	×	×	◎	×	×	×	×	×	×	×	×	◎	×	×	×	×	△	×	3	1	1	15	
19	◎	◎	×	×	○	○	△	×	×	×	×	◎	△	◎	×	×	×	×	×	×	5	2	2	11	
20	◎	◎	×	◎	△	×	◎	×	◎	×	△	○	×	○	◎	○	◎	△	×	○	6	4	4	6	
21	○	◎	△	×	×	×	◎	△	△	×	◎	○	×	◎	◎	×	◎	◎	×	◎	8	2	2	8	
22	◎	◎	×	×	◎	×	◎	◎	◎	×	×	◎	×	◎	◎	◎	×	○	×	×	10	1	0	9	
23																									
24	◎	△	×	◎	△	○	△	○	×	×	×	△	×	◎	◎	×	◎	×	×	◎	6	2	4	8	
25	◎	◎	×	◎	◎	△	△	◎	×	×	×	×	×	◎	◎	×	◎	○	×	○	8	2	2	8	
男子計	◎	17	16	3	13	14	3	11	12	5	1	1	8	2	17	13	1	11	2	2	4	156			
○	3	2	3	2	3	4	1	4	4	1	2	5	1	3	2	3	2	4	1	8		58			
△	1	2	1	0	2	1	5	1	1	2	4	3	3	0	0	1	1	4	3	0			35		
×	0	1	14	6	2	13	4	4	11	17	14	5	15	1	6	16	7	11	15	9				171	

女子	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	合 計			
	てつだい	くやしい	せいよう	しょくじ	くわえる	まちはずれ	ちゅうがえり	しーんとした	にわさき	かすか	かんびょう	はなざかり	せんし	つまづく	せつせと	ほんのり	るすい	しかめる	こけ	けんぶつにん	◎	○	△	×
1	◎	○	○	◎	◎	◎	×	◎	◎	×	×	◎	×	◎	○	○	○	△	×	◎	9	5	1	5
2	◎	◎	◎	◎	×	○	×	◎	◎	×	○	◎	◎	◎	◎	×	○	◎	×	◎	12	3	0	5
3																								
4	◎	◎	◎	◎	◎	△	×	◎	×	△	×	◎	×	◎	◎	×	×	×	×	×	9	0	2	9
5	◎	◎	×	◎	◎	○	×	×	×	×	×	◎	×	○	×	×	○	△	×	◎	6	3	1	10
6	◎	◎	×	◎	◎	×	◎	◎	◎	×	◎	◎	×	◎	◎	×	×	×	×	◎	12	0	0	8
7	◎	◎	×	◎	×	◎	×	×	△	×	×	◎	×	◎	◎	◎	×	×	×	×	8	0	1	11
8	◎	◎	×	○	◎	×	×	×	△	×	×	○	×	◎	◎	×	○	×	×	×	5	3	1	11
9	◎	×	×	◎	◎	×	×	◎	◎	×	×	×	×	◎	△	×	◎	×	×	△	7	0	2	11
10	◎	×	×	◎	×	×	×	○	△	×	◎	◎	×	◎	×	×	×	×	×	×	5	1	1	13
11	◎	◎	×	◎	○	×	○	◎	◎	◎	×	◎	×	◎	◎	×	◎	△	×	×	10	2	1	7
12	◎	×	×	◎	◎	△	×	△	×	×	×	×	×	◎	△	×	◎	×	×	○	5	1	3	11
13	△	×	×	×	◎	×	◎	○	△	×	×	×	×	◎	×	×	△	×	×	×	3	1	3	13
14	◎	×	×	◎	◎	×	×	×	○	×	×	◎	△	◎	×	×	△	×	×	×	5	1	2	12
15																								
16	◎	◎	×	◎	◎	×	○	◎	◎	×	×	×	×	◎	◎	×	×	×	×	×	8	1	0	11
17	◎	◎	◎	◎	◎	×	×	◎	◎	×	×	△	×	◎	◎	×	◎	×	×	×	10	0	1	9
18																								
19	○	△	×	×	○	×	×	×	×	×	×	△	×	△	×	×	◎	△	×	○	1	3	4	12
20	◎	◎	×	◎	◎	×	×	×	×	×	×	×	×	◎	×	×	○	×	×	×	5	1	0	14
21	◎	×	△	◎	◎	○	×	×	×	×	×	△	×	×	△	×	○	×	×	○	3	3	3	11
22	◎	◎	×	×	◎	×	×	×	×	×	×	×	×	◎	◎	×	×	×	×	×	5	0	0	15
23	◎	◎	×	◎	◎	△	×	◎	×	×	○	◎	×	◎	◎	×	◎	×	×	◎	10	1	1	8
24																								
25	◎	○	×	◎	○	◎	×	×	×	×	◎	×	×	◎	◎	×	△	×	◎	×	7	2	1	10
女子計	◎19	○12	△3	◎17	◎15	△3	△2	◎9	◎7	◎1	◎3	◎10	◎1	◎18	◎11	◎1	◎6	◎1	◎1	◎5	145			
○	1	2	1	1	3	3	2	2	1	0	2	1	0	1	1	1	6	0	0	3		31		
△	1	1	1	0	0	3	0	1	4	1	0	3	1	1	3	0	3	4	0	1			28	
×	0	6	16	3	3	12	17	9	9	19	16	7	19	1	6	19	6	16	20	12				216

2. 第二回の語い検査

第一回の語い検査の時の検査語いが阪本一郎氏の読み物の調査に基づいていたため——その中から話しことばを考慮してえらんだのであるが——第二回にはこれよりも多少語い量を増して、話しことばの語い調査の中からえらぶことにした。

それについては、岡山師範の語い調査を基本として、成城学園と長野師範との語い調査を参考に、小学校新入学児童にだいたい共通してできた 2,000 語の表を作り、その中でも一番困難と考えられるものを 80 語選び出した。つまりこの選り出された 80 語が 2,000 語の境界線にあるという趣向であった。

そして実験学校においては 7 月 15 日に実施し、協力学校でもだいたい同日ころ行われた。

語 い 検 査 の 語 表 (第二回)

家施法(例)「ゆうだち」ということばを知っている? きいたことがある? 先生がいうからどれがいいか答えなさい。今いったのでどれがいい?

選択肢は 1, 2, 3, の順番でなく適宜組み合わせ出してください。

部門	検査する語		選 択 肢
自然	(1) ゆうだち	1 にわか雨	2 ゆうがたの雨 3 ゆうがた
	(2) あぜみち	※ 1 たんぼ道	2 いなかの道 3 うら通り
5 語	(3) めんどり	※ 1 めすのとり	2 にわとり 3 かわいいことり
	(4) しだれ柳	1 枝のさがった柳の木	2 かれかかった柳 3 柳の木で作ったすだれ
	(5) さくや(昨夜)	※ 1 きのうのよる	2 きのうのよな 3 きのうか
家と身体	(6) ながしもと	※ 1 台所の水を流すところ	2 台所の入り口 3 水の流れるもと
	(7) あまがさ	※ 1 雨の時にさすかさ	2 こうもり 3 からかさ
7 語	(8) ふでたて	1 えんぴつやペンを立てておくもの	2 ふでばこ 3 ふでの竹
	(9) おにぎり	1 おむすび(ごはんをかためたもの)	2 おすし 3 ごちそう
	(10) ぎゅうにく(牛肉)	※ 1 うしのにく	2 にく 3 とりのにく

	(11) おきゅうじ(お給仕)	1	ごはんをよそったりすること	2	給食のこと	3	ごはんのこと
	(12) おくば	1	おくの方の歯	2	むし歯	3	ぬけかわる歯
文化と社会	(13) ばんそうこう	1	きずなどをした時ははりつけた薬	2	ラジオの音楽の伴奏	3	子どもぎんこうのこと
5 語	(14) おさいせん	1	お寺やお宮におまいりした時にあげるお金	2	こまかいお金	3	赤い羽根の時に出すお金
	(15) すもうとり	※	1 おすもうさんのこと	2	すもうをとること	3	すもうの写真
	(16) じごく(地獄)	※	1 悪いことをした人が死んでから行くところ	2	えんまさまのこと	3	火を吹き出す山のこと
	(17) みょうじ	※	1 うちの名まえ	2	じぶんの名まえ	3	えらい人の名まえ
動作	(18) あとしまつ	※	1 あとをかたずけること	2	おもちゃをかたづけること	3	あそんだあとのこと
8 語	(19) あとずさり		1 あとにさがる	2	あとをみる	3	あともどりする
	(20) 行きかけ		1 行く途中	2	かけて行くこと	3	いつも行くところのこと
	(21) あつらえる	★	1 洋服や靴をあつらえる	2	このさかなはおいしくあつらえる	3	いじわるをしたことを先生にあつらえる
	(22) すげる	★	1 こうもりの柄がぬけたからすげる	2	山の上から下の方へすげる	3	ぼうやがおかあさんにすげる
	(23) しばりあげる	★	1 おまありさんが来て悪者をかたはしからしばりあげる	2	犬を木の根にしばりあげる	3	きず口をほうたいでしばりあげる
	(24) くべる	★	1 たきびにくりの実をくべる	2	ぶらんこの上からするするとくべる	3	おいしいおみおつけをくべる
	(25) ねすごす	★	1 きのおそかったのでけさねすごした	2	きょうはつかれていて早くねすごすことにしよう	3	毎日ねすごすときもちがいい
感覚	(26) なまぐさい	★	1 さかなやさんのお店はなまぐさい	2	やおやさんのお店はなまぐさい	3	おかしやさんのお店はなまぐさい
5 語	(27) もったいない	★	1 ごはんをたべのこしてはもったいない	2	きょうはよくべんきょうしたからもったいない	3	だんだんあつくなまって毎日もったいない

- (28) ひとりでに ★ 1 この木はひとりでにはえた木だ 2 洋服をひとりでにたのんだ 3 カバンをひとりでにもってあるいた
- (29) ばったり ★ 1 歩いていたらばったりたおれた 2 きのはよくねたからあたまがばったりしている 3 雨がばったりおちて来た
- (30) ざくざく ★ 1 ざくざく音がした 2 ざくざくあつくなってきた 3 ざくざく見えてきた

評価法

- 1 語い量 できた総数(1に○のついた数)
- 2 語い範囲 同上部門別 自然____語 家:身____語 文;社____語
動作____語 感覚____語
- 3 語のとらえかた ※じるしのついた語がいくつできたか____語
- 4 語の使いかた ★じるしのついた語はいくつできたか____語

作										感		覚		計	自	家	文	動	感	※	★
20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	然	身	社								
動きがけ	あつらえる	すげる	しばらくあげる	くべる	ねすごす	なまぐさい	もったいない	ひとりでに	ぼったり	ざくざく											
—	—	—	—	○	○	○	○	○	—	○	19	4	4	4	3	4	8	6			
—	—	○	—	—	○	○	○	○	○	○	欠	3	3	1	2	5	5	7			
—	—	○	○	—	—	○	○	—	—	—	9	1	2	2	2	4	4				
—	—	—	○	○	—	○	○	—	—	—	8	1	2	1	2	2	4				
—	—	○	—	—	—	○	○	—	○	○	14	2	4	2	2	4	5				
○	—	○	—	○	—	○	○	○	○	○	欠	23	5	6	3	4	7				
○	—	—	○	○	○	—	○	—	○	○	17	1	6	3	4	3	6				
—	—	—	—	—	—	○	○	○	—	—	11	2	3	2	1	3	3				
○	—	—	○	○	—	○	—	—	—	—	14	2	4	4	3	1	3				
—	—	○	—	—	—	—	○	—	○	○	17	2	5	5	2	3	4				
—	○	—	—	—	○	—	—	—	—	○	9	0	5	1	2	1	3				
—	—	—	○	—	—	○	○	—	—	—	6	0	3	0	1	2	3				
—	○	—	○	○	○	—	—	—	○	○	19	3	6	3	5	2	6				
—	—	—	—	○	—	○	—	○	○	—	7	1	2	0	1	3	4				
—	—	—	○	—	—	○	○	—	—	—	11	0	4	3	1	3	4				
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	9	0	5	1	2	1	2				
—	—	—	—	—	○	—	○	—	—	—	6	0	2	1	2	1	2				
○	○	○	—	—	○	○	○	—	○	○	22	4	5	4	5	4	7				
4	3	6	8	7	7	12	13	6	8	10	235	31	71	40	44	49	80				
												13.06	1.72	3.74	2.22	2.44	2.72	4.50	4.44		

女

女子平均

男女計

男女平均

動		作			感			動			計	自	家	文	動	感	※	★
20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30								
行きがけ	あつらえる	上げる	しぼりあげる	くべる	ねすごす	なまぐさい	もったいない	ひとりでに	ばったり	ざくざく								
—	—	○	○	—	—	○	○	○	—	—	13	1	3	3	3	3	4	5
○	○	—	○	○	—	—	○	—	—	—	14	2	2	3	6	1	3	4
—	—	—	○	○	○	○	○	—	—	○	16	2	5	3	3	3	5	6
—	○	—	—	—	—	○	○	—	—	○	12	2	3	3	1	3	3	4
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	6	2	2	2	0	0	3	0
—	—	—	—	○	—	○	○	—	—	○	11	2	5	0	1	3	4	4
—	—	—	—	—	—	○	○	—	○	○	14	1	4	4	1	4	5	4
—	—	—	○	—	—	○	○	—	○	○	15	3	2	3	3	4	5	5
—	—	—	—	○	—	○	—	○	—	—	6	1	2	0	1	2	2	3
—	—	—	—	○	○	○	○	—	—	○	16	2	4	4	3	3	6	5
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	8	2	1	3	0	2	2	2
—	—	○	—	○	—	○	○	○	—	○	14	1	4	2	3	4	4	6
—	○	—	—	—	—	—	○	—	—	—	7	1	1	3	1	1	3	2
—	—	—	—	—	○	○	○	—	—	○	15	3	3	4	2	3	5	4
—	—	○	○	○	—	—	○	—	—	○	11	1	2	2	4	2	3	5
○	○	—	○	—	—	—	—	○	—	—	13	1	5	2	4	1	4	3
—	—	—	—	○	○	○	○	—	—	○	15	2	5	2	3	3	5	5
—	○	○	○	○	○	—	○	○	—	—	12	2	2	2	4	2	5	6
—	—	○	○	—	—	○	○	○	○	○	9	0	1	0	3	5	1	7
○	—	—	○	—	—	—	○	—	—	—	7	1	0	2	3	1	4	2
—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	10	2	5	0	3	0	5	2
—	—	—	—	—	—	—	○	○	—	—	9	1	3	2	1	2	2	2
—	—	—	—	—	○	—	—	○	○	—	16	2	5	4	3	2	8	3
—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	○	9	2	3	2	1	1	4	2
—	○	—	—	—	—	○	○	—	—	○	9	1	2	3	0	3	3	3
3	6	5	9	9	7	14	19	8	4	13	287	40	74	58	57	58	98	94
											11.48	1.60	2.96	2.32	2.28	2.32	3.92	3.76
7	9	11	17	16	14	26	32	14	12	23	522	71	145	98	101	107	179	174
											12.14	1.65	3.37	2.28	2.35	2.49	4.16	4.05

結果は平均 12.14 語で 50% にならないが、この第二回の検査は、あらかじめ選択肢を作り、判定の客観性を期したため、意味の余りに正確な区別を要求しすぎた面もある。もしこれをもう少しゆるめたら、結果はずっとよくなるであろう。しかし、これでこの年齢における語い内容の把握はそれほど正確なものでないことがわかった。

なお、協力量校方面における語いテストの成績については、次の文法意識のテストの成績といっしょに掲げる。

C 文 法 意 識

小学校入学時において、ことばの正確な使い方がわかっているかどうかと
いうことを検査するため、助詞、形容詞の接続、自動他動、可能、敬語等につ
いて、子供のいい誤りやすいものと正しいのとを調査者がいってみせ、ど
ちらが正しいか判定させた。これは実験学校においては4月27日、協力学校
においても同日ごろ実施された。実験学校における結果では、平均正答率は
76%で、完成正答者は15名(42名中)である。誤りは敬語の使いかたおよび
可能の方に多かった。問題と正答者数(実数)を示すと次のようになる。

(1) 鳥ないた	}	41	5問できた者	15名
鳥がないた				
(2) 赤い花	}	41	4問 "	17名
赤いの花			3問 "	10名
(3) 湯をわいた	}	38	以下	0
湯をわかした				
(4) ……たべられない	}	32		
……たべれない				
(5) ねこが……くった	}	22		
ねこが……めしあがった				

第五問は「ねこが……くった」と「ねこが……めしあがった」とどちらがいいかとい
うのであるが、子供の中には「ねこが……たべた」といって、どちらともいわない、
どちらかわからないと答えた者もあった。この問題については、その点を考慮して結
果を正しく解釈して行かなければならない。

個人別文法意識テスト成績一覧表

男子	1	2	3	4	5	○ 計	△ 計	無 答
1	○	○	○	△	△	3	2	
2	○	○	○	△	○	4	1	
3	○	○	△	○	○	4	1	
4								
5	○	○	△	○	○	4	1	
6	○	○	○	○	○	5	0	
7	○	○	○	○	△	4	1	
8	○	○	○	○	○	5	0	
9	○	○	○	○	△	4	1	
10	○	○	○	○	△	4	1	
11	○	○	○	△	△	3	2	
12	△	○	○	○	△	3	2	
13								
14	○	○	○	△	△	3	2	
15								
16	○	○	○	○	○	5	0	
17	○	○	○	○	○	5	0	
18	○	○	△	○	○	4	1	
19	○	○	○	○	○	5	0	
20	○	○	△	△	○	3	2	
21	○	○	△	○	○	4	1	
22	○	○	○	○	○	5	0	
23								
24	○	○	○	○	△	4	1	
25	○	○	○	○	○	5	0	
計 ○	20	21	16	16	13	86		
△	1	0	5	5	8		19	

女子	1	2	3	4	5	○ 計	△ 計	無 答
1	○	○	○	△	△	3	2	1
2	○	○	○	△	△	3	2	
3								
4	○	○	○	○	△	4	1	
5	○	○	○	○	△	4	1	
6	○	○	○	○	○	5	0	
7	○	○	○	○	○	5	0	
8	○	△	○	○	△	3	2	
9	○	○	○	○	○	5	0	
10	○	○	○	○	○	5	0	
11	○	○	○	○	○	5	0	
12	○	○	○	○	△	4	1	
13	○	○	○	○	non	4	0	
14	○	○	○	○	○	5	0	
15								
16	○	○	○	△	○	4	1	
17	○	○	○	○	△	4	1	
18								
19	○	○	○	○	△	4	1	
20	○	○	○	○	△	4	1	
21	○	○	○	△	△	3	2	
22	○	○	○	○	○	5	0	
23	○	○	○	△	△	3	2	
24								
25	○	○	○	○	○	5	0	
○ 計	21 0	20 1	21 0	16 5	9 11 1	87	17	1
○の男女合計	41	41	37	32	22	173	36	1

協力学校の語い・文法意識テスト正答率

学 校 名	語実 い施 テ月 ス日	級 数	人 数	語 い				文 法 テ ス ト 実 施 月 日	文 法	語実 い施 テ月 ス日	人 数	語 い
				◎	○	△	×					
	月 日		人	%	%	%	%	%	%	月 日	人	%
幸世 小学校	4.27	4	148	16.4	13.8	11.6	58.2	5.14	77.9	9.15	150	52.2
久木 小学校	5.7 } 13	1	51	47.8	4.8	3.3	44.1	5.7 } 30	71.8	不明	51	85.7
方南 小学校	5.9	1	60	31.1	17.0	9.3	42.6	5.11	79.0	7.23	60	60.5
比々多小学校	5.13	1	34	26.5	9.3	2.7	61.5	5.13	70.6	7.28	34	52.5
松代 小学校	5.29	1	46	30.4	10.7	9.4	49.5	5.30	72.2	9.8	48	47.8
小山第二小学校	不明	1	49	29.2	15.5	14.0	41.3	不明	74.9	不明	47	54.8
沢山 小学校	5.27	1	60					5.27	76.0			
池上 学校校	5.8	1	48	39.4	10.2	3.1	47.3	5.11	67.3			
大窪 小学校	5.15	1	45	29.6	2.6	1.7	66.1	5.11	67.3			
神郷 小学校	5.18 } 22	3	144	22.8	8.2	5.3	63.7	5.18 } 22	62.7			
下松 小学校	5.29	8	384	38.4	5.2	3.9	52.5	5.25	72.2			
二子 小学校	5.20 } 21	1	47	21.8	8.7	5.2	64.3	5.26	64.8			
計・総平均		24	1116	30.8	9.7	6.4	53.1		72.4			

Ⅲ 入門期における言語能力の発達

A 発達段階と入門期

1. 発達段階の区切り方

「入門期」という用語については、現行昭和26年試案の「学習指導要領国語科編」に、

入門期においては、文をことばとして読ませ、

一字一字読ませることは避ける。(92ページ)

とある。ここに「入門期」という語がはっきり出ている。また「入門期の国語学習指導」について論じた専門の書物もある。学校で広く「入門期」といえば、「学校にはいりたての時期」「学校にはいったばかりでまだほんとうの学習のはじまらない時期」である。そうするとそれは4月の入学当初の二週間であるとか、4月と5月であるとかいうことになるかも知れない。学校生活に落ちつくまでの時期である。ところが、国語教育の方では、入門期というと、いわゆる「読み方学習準備」(Re-ading readiness) と結びつき、特に、入門書(プリマあるいはプライマPrimer および、プレ・プリマあるいはプレ・プライマーPre-Primer) と結びついている。「指導要領」にも、1年生の読むことの能力として、

簡単な入門準備書または、入門書的な読み物を

娯楽のために読むことができる。(55ページ)

とある。戦後小学校一年生の国語教科書だけは三冊の建前となって、(二年

生以上は文部省教科書およびたいていの検定教科書が二冊である) 文部省教科書でいえば、

- (1) プレ・プリマ……………「まことさん はなこさん」
- (2) プリマ……………「いなかの いちにち」
- (3) リーダー巻1……………「いさむさんの うち」

という構成になった。このプレ・プリマが入門準備書(あるいは第一入門書)であり、プリマが入門書(あるいは第二入門書)である。しかしこの用語は混同され、両方とも入門書とも入門準備書とも呼ばれることがある。入門期はこの二つの入門書の終るまでの時期であるが、それがいろいろである。いったい発達段階の区別はむずかしいもので、昭和22年度試案の「学習指導要領国語編」において、「読むことを学ぶ心がまえ」(つまり「読み方学習準備」)を重くみているが、その基礎としての「話しかた」の教育計画において「1年前期」と「1年後期」とを分けている。1年生の中間、10月半ば項に区切りをおいた例である。——ところが、かんじんの読み方の教育計画の方は「1年から2年中期まで」を低学年前期としていっしょにして、1年生の前期・後期を分けていない。これは恐らくアメリカの読みの入門期から来ているものと思われる。

アメリカの読みの入門にはもう少し時日がかかる。たとえば、ルイジアナ州で出している「どのように成長するか」(How They grow, State Department of Education, Louisiana, 1946, Bulletin No.606)では、

- (1) 前読方期における読方準備(第一学年の最初の4ないし8週間)
- (2) 読み方学習の初歩的指導(第一学年の残りと、恐らく第二学年のはじめの部分)
- (3) 基礎的読み方態度の急速な進歩(第二学年・第三学年)
- (4) 経験の拡大と読み方能率の増加(第四・五・六学年)
- (5) 読み方の態度・習慣および趣味の精練(第七・八学年)

というように読みの発達段階を分けている。これについては英語と日本語とのちがいを考慮しなければならない。アメリカのプレ・プリマおよびプリマ

という二つの読み方入門書は、200語ばかりの「目で見てわかる語」(Sight Vocabulary)——そうしたものとしては、ドルチ Dolch の220語の語表が有名である——を授け、リーダーを読んで行く力をつけておこうというのである。このうちプレ・プリマの方で50語ぐらい出し、プリマの方であとの残りを出す。この二冊の本が終るのは、今の「どのように成長するか」の区分では、第二期である。「恐らく第二学年のはじめ」と記されている。第一期の一年生入学の当初は全然教科書を使わない。200語以上についてその語形をおぼえるのにはそのくらいの時日を要するのである。

日本の、かな習得およびかな文字による読み物の読みを主とした国語学習指導においては、これとよほど事情がちがう。

かなの一応の学習は一年生の第1学期末に終る。完全な習得ということは11月12月になるが、それより遅れることはない。(特殊児童を除き)

そうして、かなを習得してしまえば、一方に経験的、心理的な成熟は必要であるが、文字面が読めないということはない。アメリカにおける見てわかる語い、200語の習得以上の準備ができているのである。

2. 入門期を決定する方法

入門期を特に、読み方学習の入門期、つまり、読みの本格的学習にはいれるまでの時期と考え、発達段階の上からいってそれがいつであるかということをしめることは、教科書の編集にも、学習指導の実践にも、ぜひとも必要なことである。

その時期の決定は、読みということが、全身心を働かせての活動である以上、いわゆる精神的・身体的・社会的な全体の発達の考察の上に立たなければならないわけである。しかしわれわれは、まず、学級の大多数の者(つまり、特殊な児童を除いたあとのふつうの者)が、ひらがなが大体読め、かなで書かれた文を読む力が出て来るのはいつごろであるかということを知り、

そうした時期において全心身の発達はどうなっているかを究めようとした。

このことについてわれわれは、次の三つの方向から接近しようとした。

- (1) 学級の 80 パーセント以上の者がひらがな清音が完全に読めるようになるのはいつか。
- (2) 学級の 80 パーセント以上の者が、ひらがなで書いた二三行の文章を自力で読めるようになるのはいつか。
- (3) 学級の 80 パーセント以上の者が、拗音や促音の表記を読みとれるようになるのはいつか。

(1)はリーダーにはいる資格そのものであり、(2)はすでにリーダーを読むだけの力のついた者を見出すことである。(3)は文を読む資格を特にそうした徴候に求めようとしたのである。数を学級の80パーセント以上としたのは、ほんとうは学級の全員とするべきであるが、ふつう20パーセント近くは広義の読みの障害を持った児童がいるといわれているからである。

さて、(1)のひらがながだいたい読めるようになる時期はいつかという実験学校において、80パーセントの者がひらがな清書が読めるようになったのは、ちょうど10月中旬である。ただしこの時完全に書ける者の数は50パーセントにならない。これらのことについては後にその数表を示すつもりである。

(2)の短文の読みについては、4月当初に次の文を読ませて、すらすら読めるか、拾い読みか、全く読めないかを評価し、この種の検査をその後も続けた。第一回の時の文は、

きのうは えんそくで、やまへ のぼりました。

まちが、 みえました。 がっこうが みえました。

きしゃが、 たくさん つながって とおりました。

である。それ以後もだいたい同じ程度の文である。これについて、実験学校においては4月18日に検査を実施し、次のような結果を得た。

すらすら読める

拾い読み程度の者 16

全然読めない者 23

このすらすら読めた者8名は全員48名に対し16.66パーセントにあたる。

その数字は、第二回（5月30日）には、27.27パーセント、第三回の6月24日には、44.40パーセントと上昇を示したが、第四回の7月16日には、12.20パーセントと減ってしまった。これはこの時に問題を変えて多少高度になったことにもよる。元来、「すらすら読む」と「拾い読み」との間にはっきりした限界がつけられない、調査者によって判定が動揺しやすいのである。そこでこの検査の結果については、「全然読めない者」の数を調べた方が客観性が高い。そうして、学級としての読み方学習準備の完成の時期も、全然読めない者の数が20%以下になるのはいつかという点からみることが妥当である。実験学校における成果では、それは、

4月	7月	12月
50%	37%	17%

であって、このことから見て、10月中旬から下旬にはだいたい20%になっているであろうと思われる。

またこの数字を他の協力学校について調べてみると、

4月	7月	12月
比々多 66.0%	43.5%	19.0%

であるから、東京より少しおくられている。

(3)の拗音・促音の読みの完成については、実験学校においては6月28日、他の学校においてもだいたい同じころに次の問題について読めるかどうかを検査した。

促音 まっか いった

拗音 やきゅう きしゃ ちょきん

これを読ませて、一読してすぐ正しく発音できたもの、最初の一読は文字の

拾い読みでたとえば「マツカ」と読み、すぐに自分で「真赤」と気づいて訂正した者を正答とした。その結果、実験学校で男女とも正答率のよかったのは「きしゃ」であり、他はだいたい同じで、完全正答者はわずかに5名、11パーセント（被調査者45名）であった。

第二回の拗音・促音の表記の読みの検査は、7月になったが、こんどの問題は、

ちゅうちょう かった しゃしん きゅうこう しっかり

で、実験学校における成果（7月16日実施）は、完全正答者6名であった。

（被調査者41名）すなわち約15パーセントで、成績は上昇している。こんどはむずかしいのは、「しっかり」「ちょろちょろ」で、他はやさしかった。特に「かった」（「買った」よりも「勝った」と読んだ者が多かった）はやさしかった。

これらの二回のテストを通して、拗音・促音の表記を正しく読みとれるということが、読みの習熟の度合いを示すということは、理論上まちがいはないが、実施上困難があり（自発的な訂正をどのくらいの時間待つかなど）、その読める、読めないは、それが表記している語そのもの、事物・事件そのものの親近性によることであることがわかった。

この検査はその後もずっと続け、12月7日のテストでは被調査者36名について、正答者数でいえば、

しゃしん	27
いっさい	28
びょうぶ	28
きゅうり	20
かっぱ	26
りょうし	22
まっくら	22

ちゃん 30

という結果を得た。完全正答者は15名であるが、半数以上できている者は31名で90パーセント近くなる。実際読みの入門としてはその辺で差しつかえないのかも知れない。そうして、これが80%の時期ということになると、10月11月のころということになる。なお問題を拗音・促音の読みの発達に限って言えば、この能力は他よりもおくれて、終りごろに急に完成するものであって、前記の7月の検査で半分以上読めた者は14名、36パーセントである。同時期においてひらがな清音が半分以上読める者は95.12パーセント、濁音半濁音は75.61パーセントに達している。

拗音・促音は、よほど読みに習熟しないとすらすらと読めないのである。

が、以上の(1)(2)(3)の三つの点からみて、10月の中旬から下旬までを入門期と考えることには一応の根拠があるといえる。もちろんそれは大多数の者、100人いれば80人の者、あるいは100人中第80番目の者の完成の時期であって、そこには非常な個人差があり、また、地域差もある。何名かは入学の当初にすでに読みの準備が完成しており、何人かは12月過ぎてもまだ完成しないのである。

なお、今の場合われわれは80パーセントの完成をめやすとしたが、これが50パーセントでよいのであったら、その時期はもっとずっと早くなる。第一学期の終りには50パーセントの者がひらがなが完全に読めるようになっている。また、このことは、現在の学校教育の建前（教育計画）、教科書の組織、学習指導の実際と密接にからんでいる問題であって、こうした発達の事態も、それと関連してよく分析してみるの でなければ正しくない。これについては後にふれることにする。

B 入門期における読字力・書字力の発達

1. 一般的傾向

まず実験学校における成果を掲げてこれを概観し、次に協力学校の成果をも参考にすることにする。

次の数表と図表からいろいろのことがわかるが、特に図表(1)についてみると、入門期における読字力・書字力の発達の順序、完成の順序は、

- (1) ひらがな清音の読み
- (2) ひらがな清音を書くこと
- (3) ひらがな濁音・半濁音の読み
- (4) ひらがな濁音・半濁音を書くこと

である。これは半分以上に達した者の数によるのであるが、もし全体完成者の数でいけば(2)と(3)の順序が変る。このことから二つの重大な事実がわかる。

1. 書く力の完成は読む力の完成よりも困難である
2. 書く力は5月、6月のころ急速に伸びるものである

図表からこれにもうひとつ加えることができである。

3. 読む能力と書く能力とはだいたい平行しており、一般的にいて読める字の80%が書けるというのは、ここでもほぼ同様である
4. 漢字を読む力は二学期末になると急速に増す

この4のことは、このグラフには示してないが、拗音・促音の表記を読みとる能力についても同様であることは、前節で考察した。つまり、二学期を境目として、ひらがなの時期が終り、より広い読みの時期にはいるのである。

なお、「夏休み」は読字力・書字力の発達にどういう影響を与えるかというと、図表(1)においてひらがな清音を完全に書いた者の数が減っているのが目出つが、その他のところはだいたい順調である。夏休みが小学校一年生

実験学校における読字力の発達数表

		4 月 18 日			5 月 30 日			6 月 24 日		
		読の めか たず 者	被の 調か 査ず 者	%	読の めか たず 者	被の 調か 査ず 者	%	読の めか たず 者	被の 調か 査ず 者	%
ひらがな清音	男	人	人		人	人		人	人	
	女	7	23	30.43	7	20	35.00	9	20	45.00
完全に読めた者	計	8	25	32.00	8	24	33.33	11	25	44.00
	計	15	48	31.25	15	44	34.09	20	45	44.44
ひらがな清音 半分以上読め た者	男	12	23	52.17	15	20	75.00	18	20	90.00
	女	15	25	60.00	15	24	62.50	21	25	84.00
平均読字数	計	27	48	56.24	30	44	68.18	39	45	86.67
	計	字	字		字	字		字	字	
ひらがな濁、 半濁音	男	565	23	24.57	661	20	33.05	749	20	37.45
	女	701	25	29.04	782	24	32.59	937	25	37.48
平均読字数	計	1,266	48	(57.3)%	1,443	44	(71.3)%	1,686	45	(81.5)%
	計	26,37			32,80			37,47		
完全に読めた者	男	5	23	21.74	7	20	35.00	7	20	35.00
	女	5	25	20.00	6	24	25.00	5	25	20.00
ひらがな濁、 半濁音	計	10	48	20.83	13	44	29.55	13	45	28.89
	計	9	23	39.13	9	20	45.00	13	20	65.00
半分(13字)以 上読めた者	男	11	25	44.00	13	24	54.17	16	25	64.00
	女	20	48	41.66	22	44	50.00	29	45	64.44
平均読字数	計	字	字		字	字		字	字	
	計	234	23	10.17	253	20	12.65	309	20	15.45
完全に読めた者	男	254	25	10.16	312	24	13.00	370	25	14.80
	女	488	48	(40.7)%	565	44	(51.0)%	679	45	(60.4)%
漢字読めた字	計	10,17			12,84			15,09		
	計	字	字		字	字		字	字	
平均字数	男	109	23	4.74	137	20	6.85	171	20	8.51
	女	106	25	4.24	131	24	5.46	145	25	5.80
平均字数	計	215	48	(11.2)%	268	44	(13.2)%	316	45	(17.6)%
	計	4,48			6,09			7,02		

実験学校における読字力の発達数表

		7 月 16 日			9 月 3 日			12 月 7 日		
		読の めか たず 者	被の 調か 査ず 者	%	読の めか たず 者	被の 調か 査ず 者	%	読の めか たず 者	被の 調か 査ず 者	%
ひらがな清音 完全に読めた者	男	10	17	58.82	12	16	75.00	12	14	85.71
	女	12	24	50.00	18	25	72.00	19	21	90.48
	計	22	41	53.66	30	41	73.13	31	35	88.57
ひらがな清音 半分以上読め た者	男	17	17	100.00	16	16	100.00	14	14	100.00
	女	22	24	91.67	23	25	92.00	21	21	100.00
	計	39	41	95.12	39	41	95.12	35	35	100.00
ひらがな清音 平均読字数	男	730字	17	42.94字	719字	16	44.94字	641字	14	45.79字
	女	984	24	41.00	1076	25	43.04	952字	21	45.33字
	計	1714	41	(90.9)% 41.80	1795	41	(94.8)% 43.78	1593字	35	(98.8)% 45.51字
ひらがな濁、 半濁音 完全に読めた者	男	5	17	29.41	8	16	50.00	11	14	78.57
	女	4	24	16.67	9	25	36.00	11	21	52.38
	計	9	41	21.95	17	41	41.46	22	35	62.86
ひらがな濁、 半濁音 半分(13字)以 上読めた者	男	13	17	76.47	16	16	100.00	14	14	100.00
	女	18	24	75.01	22	25	88.00	20	21	95.24
	計	31	41	75.61	38	41	92.68	34	35	97.14
ひらがな濁、 半濁音 平均読字数	男	313字	17	18.41字	348	16	21.75字	336字	14	24.00字
	女	395	24	16.46	479	25	19.16	462字	21	22.00字
	計	708	41	(69.1)% 17.27	827	41	(80.7)% 20.17	798字	35	(91.2)% 22.80字
漢字読めた字 平均字数	男	156字	17	9.18字	188字	16	11.75字	342字	14	24.42字
	女	166	24	6.92	226	25	9.04	426字	21	20.29字
	計	322	41	(19.6)% 7.85	414	41	(25.2)% 10.10	768字	35	(63.88)% 21.94字

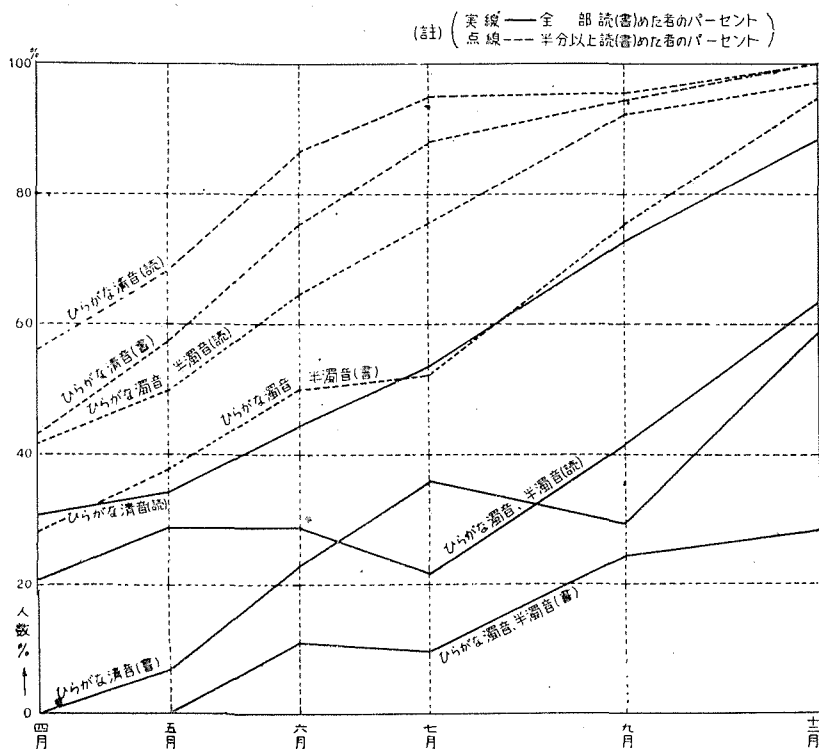
実験学校における書字力の発達数表

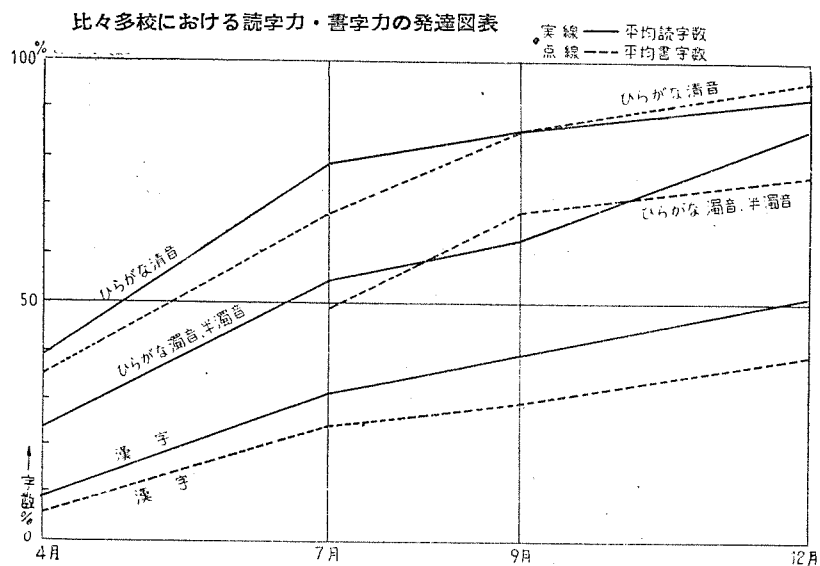
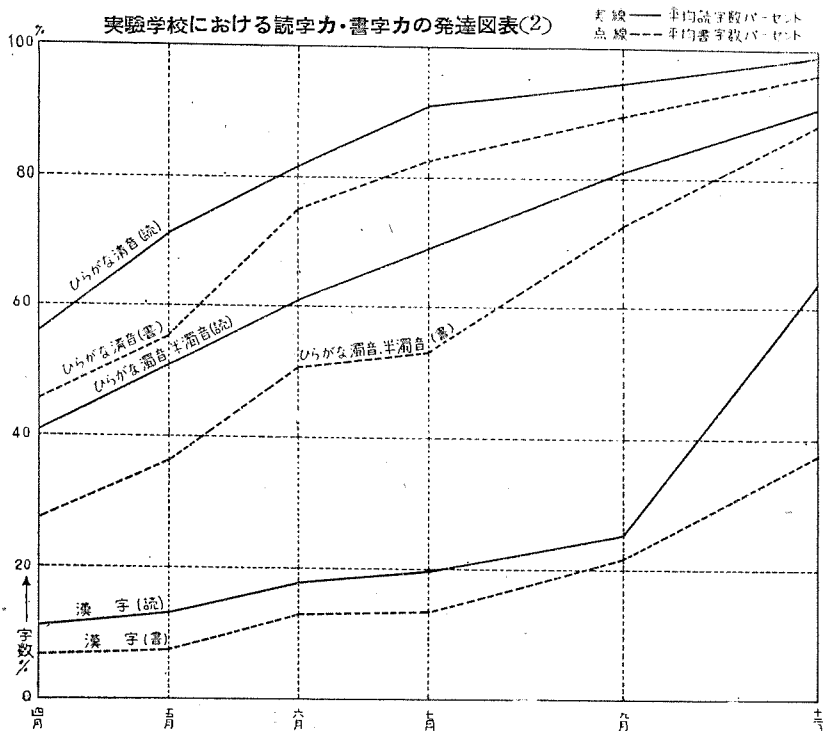
		4 月 22 日			5 月 28 日			6 月 25 日		
		書の被 けか調 たずか 者者			書の被 けか調 たずか 者者			書の被 けか調 たずか 者者		
		%			%			%		
		人	人		人	人		人	人	
ひらがな清音	男	0	23	0	2	21	9.52	5	19	26.32
完全に書けた者	女	0	23	0	1	24	4.17	5	25	20.00
	計	0	46	0	3	45	6.67	10	44	22.73
ひらがな清音	男	9	23	39.13	11	21	52.38	15	19	78.95
半分以上書けた者	女	11	23	47.83	15	24	62.50	18	25	72.00
	計	20	46	43.48	26	45	57.78	33	44	75.00
ひらがな清音	男	429字	23	18.65字	504字	21	24.00字	661字	19	34.79字
平均書字数	女	538	23	23.39	648	24	27.00	857	25	34.28
	計	967	46	(45.7)% 21.02	1152	45	(55.7)% 25.60	1518	44	(75.0)% 34.50
ひらがな濁、 半濁音	男	0人	23	0	0人	21	0	3人	19	15.79
完全に書けた者	女	0	23	0	0	24	0	2	25	8.00
	計	0	46	0	0	45	0	5	44	11.36
ひらがな濁、 半濁音	男	7	23	30.43	8	21	38.10	11	19	57.90
半分以上書けた者	女	6	23	26.09	9	24	37.50	11	25	44.00
	計	13	46	28.26	17	45	37.78	22	44	50.00
ひらがな濁、 半濁音	男	159字	23	6.91字	183字	21	8.71字	253字	19	13.32字
平均書字数	女	156	23	6.78	229	24	9.54	302	25	12.08
	計	315	46	(27.4)% 6.85	412	45	(36.4)% 9.16	555	44	(50.4)% 12.61
漢字書けた字	男	68字	23	2.96字	80字	21	3.81字	122字	19	6.42字
平均字数	女	53	23	2.30	47	24	1.76	98	25	3.92
	計	121	46	(6.6)% 2.63	127	45	(7.1)% 2.82	220	44	(12.9)% 5.14
算用数字	男				7人	21	33.33	11人	19	57.89
完全に書けた者	女				5	24	20.83	12	25	48.00
	計				12	45	26.67	23	44	52.27

実験学校における書字力の発達数表

		7 月 14 日			9 月 4 日			12 月 8 日		
		書 の け か た ず 者	被 の 調 か 査 ず 者	%	書 の け か た ず 者	被 の 調 か 査 ず 者	%	書 の け か た ず 者	被 の 調 か 査 ず 者	%
ひらがな清音 完全に書けた者	男	8	17	47.06	6	16	37.50	10	16	62.50
	女	7	25	28.00	6	25	24.00	11	20	55.00
	計	15	42	35.71	12	41	29.27	21	36	58.33
ひらがな清音 半分以上書けた者	男	16	17	94.11	16	16	100.00	16	16	100.00
	女	21	25	84.00	23	25	92.00	20	20	100.00
	計	37	42	88.10	39	41	95.12	36	36	100.00
ひらがな清音 平均書字数	男	660字	17	38.82字	688字	16	43.00字	714字	16	44.63字
	女	931	25	37.24	996	25	37.84	876字	20	43.80字
	計	1591	42	(82.4)% 37.88	1684	41	(89.3)% 41.07	1590字	36	(96.0)% 44.17字
ひらがな濁、 半濁音 完全に書けた者	男	0人	17	0	5	16	31.25	5	16	31.25
	女	4	25	16.00	5	25	20.00	5	20	25.00
	計	4	42	9.52	10	41	24.39	10	36	27.78
ひらがな濁、 半濁音 半分以上書けた者	男	10	17	58.82	14	16	87.50	16	16	100.00
	女	12	25	48.00	17	25	68.00	19	20	95.00
	計	22	42	52.38	31	41	75.61	35	36	97.21
ひらがな濁、 半濁音 平均書字数	男	241字	17	14.18字	321字	16	20.60字	358字	16	22.75字
	女	316	25	12.64	430	25	17.20	441字	20	22.05字
	計	557	42	(53.0)% 13.26	751	41	(73.3)% 18.32	799字	36	(88.8)% 22.19字
漢字書けた字 平均字数	男	108字	17	6.35字	146字	16	9.13字	334字	16	20.88
	女	111	25	4.44	205	25	8.20	344字	20	17.20
	計	219	42	(13.0)% 5.21	351	41	(21.4)% 8.56	678字	36	(37.66)% 18.83
算用数字 完全に書けた者	男	11人	17	64.71	12人	16	75.00			
	女	15	25	60.00	19	25	76.00			
	計	26	42	61.91	31	41	75.61			

実験学校における読字力・書字力の発達図表 (1)





にとってマイナスになっていない。ひらがな濁音・半濁音を書く能力は成長を示しているが、これは全体の数が非常に少いからで、ひらがな清音を完全に書く者の数が減ったということは、文字を書く力の発達は学校の正規の授業によることが多い（読む力の発達にとっては、学校の正規の授業も一要因であるが、その他にもいろいろの要因がある）という、これまでの諸調査からの推論と一致しているように思われる。

次に、協力学校における成果の数表を、対比上、実験学校のものをも添えて示す。

実 験 学 校 ・ 協 力 学 校 に

第1回 入学当初

第2回 一学期末

第3回 二学期初

学 校 名	テ ス ト			人 数			ひ ら が な		
	実 施 月 日						清 音 平 均 字 数		
	1 回	2 回	3 回	1 回	2 回	3 回	1 回	2 回	3 回
四 谷 第 六	4.18	7.16	9.3	48	41	41	26.4	41.3	43.8
方 南	4.20	7.17	9.3	60	60	60	33.6	39.9	43.2
中 央			9.5			47			43.4
小 山 第 二	4	7		50	47		21.6	42.5	
比 々 多	4.20	7.20	9.4	35	34	32	18.2	36.4	39.3
幸 世	4.18	7.15		155	149		24.4	42.6	
合 計 あ る い は 平 均				348	331	180	24.8	40.5	42.4

実 験 学 校 ・ 協 力 学 校 に

第1回 入学当初

第2回 一学期末

第3回 二学期初

学 校 名	テ ス ト 実 施 月 日			人 数		
	1 回	2 回	3 回	1 回	2 回	3 回
四 谷 第 六	4.22	7.14	9.4	46	42	41
方 南	4.27	7.21	9.4	60	60	60
中 央	4	7.15		52	43	
小 山 第 二	4	7		50	46	
比 々 多	4.21	7.28	9.4	35	32	32
幸 世	4.18	7.15		155	144	
合 計 あ る い は 平 均				545	500	133

おける読字力の発達

ひらがな濁音平均			漢字平均字数(パーセントでなく)			数字			短文(全然読めない者)			拗・促音	
1回	2回	3回	1回	2回	3回	1回	2回	3回	1回	2回	3回	拗	促
10.2	17.3	20.2	4.5	7.9	10.1	71.4	92.2	94.6	%	%	%	%	%
13.9	17.7	20.4	6.2	10.0	15.7	87.0	96.5	98.0	50	37	17	4.9	37.8
					15.9			100	25	30	6.7	44.0	44.0
4.8	17.6	21.9	4.5	12.9		77.5	96.5		50	8		42.4	50.5
6.1	13.7	15.8	4.9	11.4	14.7	56.9	92.0	97.0	66	43.5	19	23.7	27.8
8.1	18.9		4.2			64.0	98.0		55				
8.6	17.0	19.6	4.9	10.6	14.1	71.4	95.0	97.4	50.4	29.6	14.2	36.2	40.0

おける書字力の発達

ひらがな清音平均字数			ひらがな濁音・半濁音平均字数			漢字平均字数(パーセントでなく)		
1回	2回	3回	1回	2回	3回	1回	2回	3回
21.0	37.4	41.1	6.8	13.3	18.3	2.6	5.2	8.6
25.4	33.9	39.7	7.8	15.2	18.9	3.3	6.4	14.2
32.3	43.8		12.2	21.1			14.0	
12.1	35.7		3.0	14.0		1.8	9.7	
11.4	34.6	37.7		12.2	13.5	2.9	9.1	11.0
13.6	34.0		3.6	14.5		2.3	10.0	
19.3	36.7	39.5	6.7	15.1	16.9	2.6	9.1	11.3

2. 読字力・書字力の発達における個人差

ある者は書字力も読字力も零で入学し、ある者はひらがなの読み書きどころか、かたかなまで完全にすらすら読める者がある。

ところがその零で入学した者の中に、急速に伸びて、すぐに追いつき、さらに追い越してしまうものがあり、はじめはよくできるようであるが、その後あまり伸びない者もある。ここに四つの形態が考えられる。

- (1) はじめによくて、しまいまでよい者
- (2) はじめには悪くて急速に伸びる者
- (3) はじめにはよかったが、あまり伸びない者
- (4) はじめからしまいまで不振の者

次に、実験学校における各個人について、その発達の数表を示すことにするが、ここに四つの型が見られる。

(4)の型からいうと、女子で番号(16)(24)の者がそれにあたる。(19)もそれに近い。これは3人とも知能指数も低い。

(2)の型には、男子で(7)の者が目立っている。4月入学の当初にはひらがな清音が8字読め、5字書けたにしか過ぎないが、読字は9月に完成し、書字は12月以前に完成している。足どりが堅実である。男子の(24)は最初もそれほど悪くはないが、その後の発達は特にいちじるしい。これらはいずれも知能指数が高いから、学習能力は備わっていたのであるが、入学以前に家庭でそれほど教えこまれていなかったものであろう。

(3)の型の者は、一年生の段階ではまだ十分あらわれない。ふつうは3年生から4年生になって出て来るものである。しかし、1年生の段階でもそのきざしが見えないわけではない。たとえば女子の(25)は、はじめには非常に読字・書字力があり、漢字も18字も読めたのであるが、他の者が進歩発達したほどには伸びていない。

個人別ひらがな清音読字数・書字数の発達

男子	知能 指数	読む書く											
		4月	5月	6月	7月	9月	12月	4月	5月	6月	7月	9月	12月
1	101	4	12	28	41	45	46	1	12	20	30	39	44
2		6	19					5	11				
3	142	46	46	46	46	46	46	39	43	44	46	44	46
4													
5	100	5	8	26	33		44	5	5	22	29		41
6	94	4	27	42	44	43		3	13	24	32	30	41
7	115	8	24	36	45	46	46	5	6	16	37	44	46
8	139	46	46	46				31	31	46			
9	142	43	45	46	46	46	46	29	31	45	46	46	46
10	133	46	46	46	46	46	46	32	40	46	46	46	46
11		43						40					
12	84	13	38		45	46		6	19	33	33	39	
13	115	46	46	46	46	46	46	21	33	46	46	46	46
14	118	46	46	46	46	46		44	46	46	46	46	
15													
16	138	46	46	45	46	46	46	32	36	43	44	45	46
17	88	36	39	43	46	46	46	17	30	41	45	44	46
18		1	26	45				1	13				
19		2	1	3				0	1				
20	91	1	10	25	37	42		5	9	24		43	45
21	108	0		28		37	45	6		24	27	42	38
22	95	3		14	25			3	9	8	15		
23	84	32	45	46	46	46	46	21	29	43	46	42	46
24	124	42	45	46	46	46	46	39	41	44	46	46	46
25	144	46	46	46	46	46	46	44	46	46	46	46	46

(1)の型の者としては、たとえば男子(9)があげられる。これも(3)のように2年生3年生になれば相対的にさがって来るかも知れない。今のところでは、きわめて順調である。

このように個人個人でそこにいろいろな発達の型があり、発達の数表で見ても、ある月には急速に上昇しているし、ある月にはあまり上昇していない。それではこうした言語能力の発達の真の要因はなんであるかということは、われわれの次の問題である。

女子	知能 指数	4月	読 5月	6月	7月	む 9月	12月	4月	書 5月	6月	7月	く 9月	12月
1	111	45	45	46	46	46	46	30	33	46	46	46	46
2	114	45	44	46	46	46		35	45	45	45	44	
3		46	46	46	46	46	46	45	42	46	46	46	46
4	94	40	41	41	40	46	46	27	39	40	43	41	45
5	109	46	46	46	46	46	46	41	45	46	46	46	46
6	94	46	46	46	46	46	46	33	34	41	42	45	46
7	92	46	46	46		46		45	46	46	46	46	
8	86	12	23	38	44	46	46	6	13	31	39	40	42
9	115	7	22	37	44	46	46	6	10	22	36	43	46
10	118	46	46	46	46	46	46	44	42	45	45	44	46
11	95	2	19	32	43	44	46	9	11	23	28	40	45
12	114	46	46	46	46	46	46	42	43	46	46	46	46
13	80	2	13	26	38	42		5	12	21	24	30	
14	106	11	17	38	43	45		13	28	33	41	44	
15	104	4		46	46	46	46			42	44	45	
16	78	0	3	6	10	15	39	4	3	4	2	7	25
17	130	46	45	45	46	46	46	16	28	43	44	45	45
18	88	3	4	10	36	43	46		5	11	19	42	46
19	57	2	6	17	29	37	46	5	12	9	17	27	40
20	71	44	45	43	45	46	46	37	31	45	43	42	45
21	117	41	40	45	45	46	46	23	27	37	42	41	45
22	111	43	44	45	46	46	46	17	23	42	45	44	46
23	113	30	46	46	46	46	46	20	36	45	46	46	46
24	65	2	3	8	15	22	39	4	6	5	8	11	38
25	91	46	46	46	46	46	46	31	34	43	46	45	46

個人別ひらがな濁音・半濁音 読字数・書字数の発達

男子	知能 指数	4月	読 5月	6月	7月	む 9月	12月	4月	書 5月	6月	7月	く 9月	12月
1	101	0	0	3	12	20	25	0	0	1	7	16	21
2		0	2					1	1				
3	142	25	25	25	25	25	25	15	20	21	20	25	22
4													
5	100	2	1	4	6		19	1	1	2	3		17
6	94	0	0	8	15	16		0	0	1	8	6	17
7	115	0	0	15	20	23	25	0	0	5	9	20	25

男子	知能 指数	4月	読 5月	6月	7月	む 9月	12月	4月	書 5月	6月	7月	く 9月	12月
8	139	25	25	25				18	20	25			
9	142	21	25	25	25	25	25	14	13	25	23	25	25
10	133	25	25	25	24	25	25	17	21	24	24	25	24
11		21						22					
12	84	0	4		18	19		0	1	8	10	14	
13	115	24	25	25	25	25	25	7	16	25	22	25	24
14	118	25	25	25	23	25		21	20	23	24	24	
15													
16	138	22	24	22	23	25	25	7	11	16	17	21	21
17	88	1	6	15	19	21	25	1	6	14	15	22	25
18		1	6	23				1	3				
19		0	0	0				0	0				
20	91	1	3	2	7	19		2	2	4		19	24
21	108	0		5		13	19	0		0	4	12	17
22	95	1		2	2			1	1	2	2		
23	84	3	12	14	18	17	23	0	7	15	16	18	23
24	124	12	20	21	24	25	25	11	19	18	17	24	25
25	144	25	25	25	25	25	25	20	21	24	20	25	25

女子	知能 指数	4月	読 5月	6月	7月	む 9月	12月	4月	書 5月	6月	7月	く 9月	12月
1	111	20	25	25	24	25	25	10	16	24	24	25	22
2	114	16	20	22	23	25		14	17	21	19	24	
3		25	25	25	25	25	25	19	17	24	25	25	25
4	94	12	14	21	14	18	21	4	11	9	12	14	24
5	109	25	23	25	25	25	25	16	15	22	12	24	23
6	94	16	23	24	23	24	25	11	15	18	16	24	25
7	92	24	25	24		25		20	24	25	25	25	
8	86	1	2	13	20	19	21	1	1	6	5	7	19
9	115	1	3	8	17	19	22	1	2	4	7	18	24
10	118	25	25	23	22	25	24	10	16	18	11	21	25
11	95	0	4	7	16	13	18	1	1	4	5	11	21
12	114	25	25	25	25	25	25	20	23	25	25	24	24
13	80	0	1	4	8	16		0	0	6	6	9	
14	106	0	0	4	14	19		0	10	4	15	20	

女子	知能 指数	読				む		書				く	
		4月	5月	6月	7月	9月	12月	4月	5月	6月	7月	9月	12月
15	104	1		15	18	20	25			19	15	25	
16	78	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	7
17	130	14	18	18	19	22	23	1	5	4	14	17	24
18	88	0	0	0	2	19	25		1	1	0	18	25
19	57	0	0	1	3	13	23	0	0	0	0	8	18
20	71	14	21	18	21	21	25	4	8	8	12	12	20
21	117	1	1	5	8	9	16	1	10	2	3	11	24
22	111	8	12	14	17	21	25	4	4	11	15	18	23
23	113	1	18	23	24	25	25	0	9	22	23	24	22
24	65	0	2	1	2	1	14	1	2	1	2	1	21
25	91	25	25	25	25	25	25	18	22	24	25	25	25

個人別漢字読字数・書字数の発達

男子	知能 指数	読				む		書				く	
		4月	5月	6月	7月	9月	12月	4月	5月	6月	7月	9月	12月
1	101	0	3	3	5	4	23	0	0	0	0	4	20
2		0	0					0	1				
3	142	10	10	13	19	20	29	6	10	12	12	13	27
4													
5	100	0	0	0	0		14	0	0	0	0		13
6	94	0	0	3	3	3		0	0	0	0	1	12
7	115	1	4	4	4	6	22	0	0	0	2	5	16
8	139	23	29	36				11	12	26			
9	142	14	19	21	23	27	32	15	15	24	17	24	30
10	133	3	7	9	9	11	27	3	4	8	7	8	19
11		10						1					
12	84	0	1		6	7		0	0	2	5	2	
13	115	7	7	12	19	19	30	4	1	11	15	17	25
14	118	15	16	22	21	27		7	11	17	14	22	
15													
16	138	2	3	4	11	9	23	3	3	5	11	6	23
17	87	0	0	2	3	5	22	1	0	1	0	1	18
18		1	3	4				1	0				
19		0	0	1				0	0				
20	91	0	2	0	0	6		0	2	2		7	15

男子	知能 指数	読						書					
		4月	5月	6月	7月	9月	12月	4月	5月	6月	7月	9月	12月
21	108	0		1		1	11	0		1	1	3	7
22	95	0		0	0			0	0	0	1		
23	84	0	0	1	1	4	18	0	0	1	1	5	25
24	124	1	12	12	12	14	29	1	13	0	10	13	26
25	144	22	21	23	20	25	31	15	8	12	12	15	29
女子	知能 指数	読						書					
		4月	5月	6月	7月	9月	12月	4月	5月	6月	7月	9月	12月
1	111	3	5	5	8	5	23	3	0	0	4	5	16
2	114	11	12	13	13	15		8	10	8	8	14	
3		14	20	21	23	19	36	9	3	16	13	14	26
4	84	8	9	9	11	12	24	5	4	0	7	13	19
5	109	11	13	12	16	18	29	7	3	14	9	16	24
6	94	5	5	5	6	7	20	1	3	4	3	6	16
7	92	7	14	15		24		0	12	14	17	25	
8	86	5	4	4	5	13	18	0	0	0	2	5	16
9	115	1	3	1	3	6	15	1	0	0	2	3	14
10	118	3	7	8	7	11	23	3	4	4	5	12	21
11	95	0	0	0	2	3	19	0	0	0	0	7	19
12	114	9	7	12	13	17	29	2	6	10	9	16	30
13	80	3	3	4	4	4		3	0	3	0	4	
14	106	1	0	1	2	5		0	0	0	1	4	
15	104	1		4	6	8	14			0	4	7	
16	78	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	8
17	130	1	1	0	4	1	22	0	0	0	0	1	16
18	88	1	0	2	3	5	17		0	1	0	3	13
19	57	0	0	0	3	6	17	0	0	0	0	4	13
20	71	0	0	0	1	1	18	0	0	2	1	2	14
21	117	0	1	1	2	5	18	0	1	0	2	5	17
22	111	0	2	3	4	10	23	0	0	3	3	9	15
23	113	4	5	5	7	10	19	0	0	11	6	9	16
24	65	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0	5	7
25	91	18	20	20	21	21	26	11	1	15	15	16	21

C 文を読む力と文章意識との発達

1. 文を読む力の発達

ひらがなで書いた短文がすらすらと読める者が何人、読めない者が何人というような検査の結果については前に述べた。

入門期の終了を10月中旬とみて、その時期にテストを実施すればよかったのであるが、学校行事などをにらみ合わせて12月初旬に読書速度および読書理解のテストを実施した。実験学校では12月7日（他の協力学校においても同日ごろ）に実施した。

その時の問題と正答率とを示すと次のようになる。なおこれは二つのテストとも練習をして、やり方をわからせてからほんとうの問題にはいったのであるが、ここには、「れんしゅう」の問題やテストの指針は省き、すぐにその問題そのものを掲げる。

読書速度テストの問題

○ゆうべ わたくしが ずがを かいて いたら、きゅうに、「かじだ。かじだ。」と、いう こえが、きこえて きました。
「どこかが かじらしいね。」と いって おかあさんが にかいへ ありました。

【もんだい1】「どこかが かじらしいね。」と いったのは、だれですか。

- 1 おかあさん
- 2 どこかの おじさん
- 3 わたくし

○きんじょの ひとは、みんな そとに でて、「びょういんだ。びょういんだ。」と いって いました。

おおぜいの ひとが かじを みに はして いきました。

【もんだい2】かじは どこらしいのですか。

- 1 がっこう
- 2 おやくしょ

3 びょういん

○おかあさんが、「けいこたちは みに いっては いけませんよ。」とおっしゃったので、わたくしは おとうとと てを つないで、そらを みて いました。

ひろしが 「おねえちゃん、にげる したくを しよう。」と いったので、わたくしは うちの なかへ はいろうと しました。

〔もんだい3〕「にげる したくを しよう。」と いったのは だれですか。

1 おとうと

2 おかあさん

3 わたくし

○おかあさんが、「おこめやさんに うつつたら にげるけれど、まだ しんばい しないで も いい。」と いて、だいじな ものだけ ふろしきに つつんで いました。

おおきな ふろしきが 三つ できました。

〔もんだい4〕どこまで やけたら にげますか。

1 びょういん

2 おこめやさん

3 やおやさん

○そこへ しんるいの おじさんが きました。そうして、「あんなの ところは、おとこでが ないので、一つでも にもつを だして あげようと おもって。」と いいました。

しょうぼうじどうしゃが たくさん あつまって きて、やけないうちの やねにも みずを かけて いました。

〔もんだい5〕てつだいに きたのは だれですか。

1 しょうぼうの ひと

2 しんるいの おじさん

3 となりの おじさん

○それから、わたくしも にかいへ あがりました。あかい ひが すこしと、くろい けむりが たくさん でて いました。

おかあさんが、「もう だいじょうぶよ。よかったね。」と おっしゃいました。

〔もんだい6〕けいこさんの うちへ やけたのでしょうか。

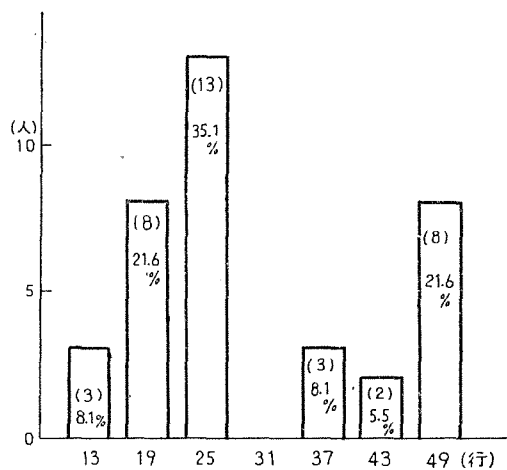
1 まるやけ

2 すこし やけた

3 やけない

実験学校における読書速度テストの成績

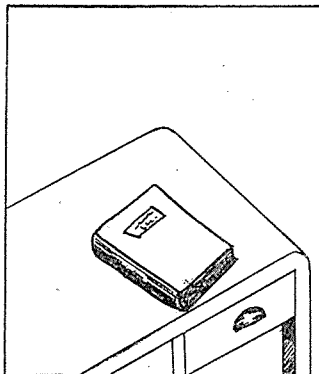
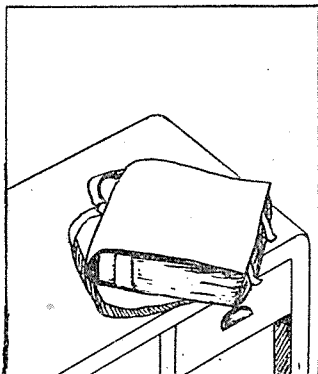
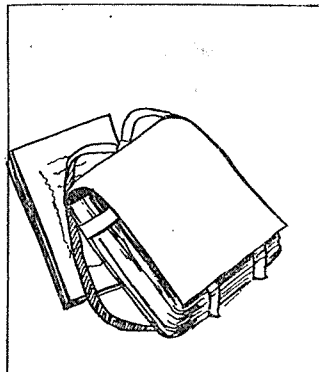
(3分間の行数と人数)



以上のように成績は上位群と下位群との二つに分れているが、一番多い35.1パーセントの者は、25行目まで読んでいる。

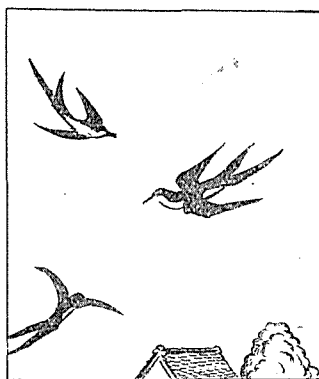
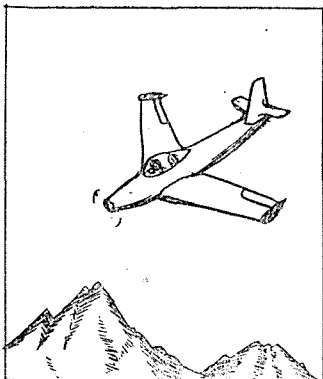
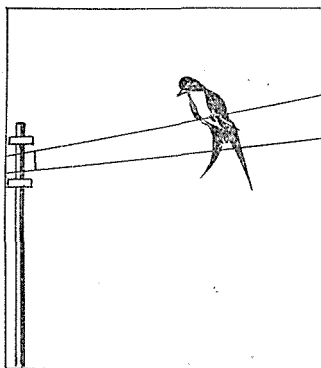
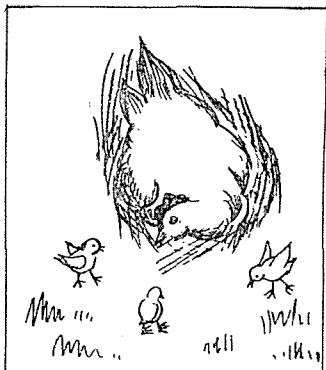
読書理解テストの問題

- 1 つくえの うえに よしこさんの かばんが あります。



(該当する絵に○をつけさせる)

- 2 つばめが とんで います。すいすいと とんで きて くる
りと まわります。

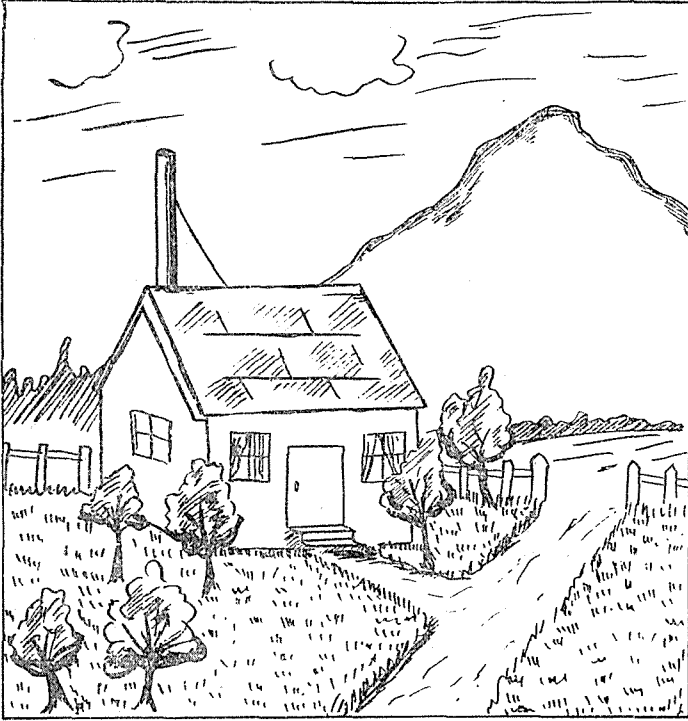


(該当する絵に○をつけさせる)

3 やまの うえに ○を つけなさい。

えんとつの うえに ×を つけなさい。

○と ×を せんで つなぎなさい。



4 せんせい

ぼくは、きのう、かぜを ひいて しまいました。

おかあさんは、ぼくが、おそくまで そとで あそんだからだと いいました。

まだ、あたまが、いたいので、きょうは やすみます。

みなさんに よろしく。 さようなら

かとう まさお

〔もんだい1〕

どんな おてがみですか。

- (1) みなさん あそびに きて ください
- (2) せんせい うちに きて ください
- (3) ぼくが かぜを ひいたから やすみます
- (4) おかあさんが きょう がっこうに いきます

〔もんだい2〕

かぜを ひいたのは だれですか。

- (1) せんせい
- (2) ぼく
- (3) おかあさん
- (4) みなさん

5 一びきの ありが おおきな にもつを もって、みちを あるいて いました。にもつが おもいので、ちょっと いしに つまづいたときに、「ごぶん。」と、かわに すべり おちて しまいました。

かわの なかを あひるが およいで いました。あひるは これを みて 「おもしろいな。があ、があ。」といって むこうへ いって しまいました。

ありは、いっしょうけんめいに きしに はいあがろうと しました。ながれが つよいので おぼれそうに なりました。

かわの きしに かえるが いました。かえるも これを みて だまって、いました。

すると、そらを とんで いた 一わの はとが、これを みつけました。そうして、「ありさん、がんばって。いま、はっぱを おとして あげるからね。」といって、一まいの きの はを おとして くれました。

ありは、その きの はに つかまって、やっと たすかりました。

〔もんだい1〕 しんせつなのは だれですか。

- 1 かえる
- 2 あひる
- 3 はと
- 4 あり

〔もんだい2〕 たすけられたのは だれですか。

- 1 かえる
- 2 あひる
- 3 はと
- 4 あり

実験学校における読書理解テストの成績

問題番号	1	2	3	4	5
正答率	59.5	75.7	67.6	68.9	54.1

上のように、これらの問題は必ずしも困難ではなかった。1の問題が2、3より成績が悪いが、これはそっかしい者が選択肢の(1)の絵に○をつけたからである。もうひとつ正答率の悪かったのは5の問題の、それも〔もんだい1〕の方であって、

		男子	女子	計
1	かえる	0	5	5
2	あひる	2	5	7
③	はと	11	6	17
4	あり	1	5	6

のように特に女子の答えが悪かった。(他の協力学校でも同様)

この二つ(問題1と問題5の〔1〕)とを除けば、他はどれも65パーセント以上である。

比々多校における読書理解テストの結果

	1	2	3	4	5
				もんだい1	もんだい2
男	8(名) 53.4%	11 73.3%	5 33.3%	9 60.0%	11 73.3%
女	12 66.6%	16 88.9%	3 16.6%	9 50.0%	15 83.2%
計	20 60.7%	27 81.9%	8 24.2%	18 54.6%	26 78.9%
				合計	合計
				66.8%	74.2%

なお、この二つのテストの結果については、個人個人の成績をも分析する

べきであるが、ここでは入門期の終わったころの全体の水準をさぐることが主であるから、ここにはそれを省く。

2. 文章意識の発達

7月の第一学期の終りに「ともだち」という題で作文を書かせ、12月の第二学期の終りに「わたくしのうち」という題で作文を書かせた。これはいろいろな方面から分析しているが、ここには文章意識が入門期にどれだけ発達するかという点について述べることにする。

実験学校における7月末の作文を、形式面から分類すると次のようになる。(40名)

- | | |
|-----------------------------|-----|
| (1) まとまった思想がある 文の終りに○がついている | 1名 |
| (2) 接続詞が使っている 文の終りに○がついている | 6名 |
| (3) 文の終りに○が使っている | 10名 |
| (4) 「ました」「です」で結んであるが、○がない | 11名 |
| (5) 名前の羅列だけ | 6名 |
| (6) 名前の羅列に意味不明の文字の混入 | 4名 |
| (7) 意味不明文字だけ | 2名 |

名前の羅列だけというのは、「ともだち」という作文の指示に、

「だれとお友達か、どういうことをして遊んだか、お話を書きなさい。お話の書けない人は、お友達の名前を書くだけでもよい。」

としたからで、叙述能力はあるのだが名前を羅列しただけの者もあったかもしれない。ただし、以上の実験学校の(5)の6名はどれもそうではないらしい。そこで、文章意識のある者を(1)から(4)までの28名とすると、それはちょうど70パーセントである。

これはかなり成績がいい。この学校では、4月の最初から「絵を書いてそれに文を書きそえる」という授業が相当おこなわれ、特に5月の終りごろか

ら自発的に「絵日記」を書いて来る者があって、それが学級に紹介され、背面黑板にもそうした類の児童作品がいつも掲示されている。そうしたことが文章の自覚、文章意識の発達を助けているにちがいない。

12月の終りの「わたくしのうち」の作文では、

- | | |
|--------------------------------|-----|
| (1) 「ました」「です」で結び、文の終りに○がついている者 | 34名 |
| (2) 「ました」「です」で結んでいるが○が使っていない者 | 3名 |
| (3) 文節に全部○をつけてしまった者 | 1名 |

(1)を形式上完成している者として、それは89.5パーセントであり、文字力の発達とだいたい照応している。

われわれの調書としては以上このほか、談話能力について絵を見て話させ、テープコーダーに記録して分析したものもあるが、それについては、次の報告にゆずる。

Ⅵ 入門期の言語能力の発達 を規定する要因

A 言語能力とその要因の概説

1. 入門期の言語能力の指標を何に求めるか

言語能力というのは、言語を使って表現し理解する力である。ふつうは、聞く力、話す力、読む力、書く力に分けて考えられている。子供は小学校入学以前に、ある程度まで聞く力、話す力がついており、小学校にはいって、（あるいは、小学校にはいるころになって）文字を通して読み、書く力を習得するものである。

われわれは、小学校入学当初からの、文字を読む力、書く力を主として、聞き取る力、発表する力、発音の正しさ、文法的自覚、語い力、さらに文（文字でなく）を読む力、文を書く力を調べたのであるが、ここにそれと、精神的、身体的、社会的、情緒的発達や環境との関係などを取り上げて考察しようとする時、そのどの面をとらえて来るか、その点数を総計するのがよいか、その間に比重のようなものは考えられないかという問題が生じる。あるいは、言語能力（国語能力）を、最もよく示すのはこの時期の児童にあっては、読む力であろうか、書く力であろうか、聞く力であろうか、話す力であろうかという問題である。

われわれが国立国語研究所で、この数年来手がけて来ている全国の学力水準テスト国語科の成果からいうと、国語テストの総合点（それは、開きとりテスト、話し方知識テスト、漢字の読み書きテスト、文章完成テスト、文章

理解テスト、文学作品鑑賞テスト、文法的判別テスト等をふくむ)と最も相関の高いのは、小学校六年生においては漢字を書く力であり、中学校三年生においては漢字を読む力と文章を読解する力であった。

経験的にいっても、小学校の段階では、漢字をよく知っており、文字を正しく、しっかりと書いている者は、たしかに、国語全体の成績がよく、また、全体の成績もすぐれている者が多いのである。

しかし、それは、それ自身としては言語能力、言語を使って意思を発表し理解する能力のごく一部分であり、そのきわめて外面的な部分を受け持っているにしか過ぎない。これに対して、たとえば文章の構成には思考や想像の力も参与するから、作文によって、その人の言語能力や、さらに全人的な能力が測られるであろうということはいうまでもない。ただ、文章の形式内容をふくめた総合的な、客観的な評価は相当困難であるばかりでなく、小学校入学当初から入門期の終りごろまでは、その方に活潑な、自由な活動が望めない。

また、談話能力・発表能力についても、小学校入学前の幼児について多少研究もされており、これも作文と同じように、創造作用をふくむから、深い全人的能力の表現であることは疑問の余地はないが、それだけ複雑である。特に幼児においては場面の制約その他、外的条件からの影響を受けやすい。

われわれの研究では、児童の文章能力や談話能力についての資料をとり、これについて分析も加えているが、入門期の段階で言語能力を表示するものとして、結局、その能力のふくむ要因の単純性と、何よりもその検査の客観性から、文字を読み書きする能力だけに限ることにした。

そこで以下、一般的に「国語能力」とか「言語能力」とかあるいは、「言語発達」とかかってこれに関連する統計調査の結果などを掲げる場合には、それは、読み書き(かな、漢字、数字)のテストの総計点によって示される能力である。ただしこれは、この段階における、またこの章における約束であって、いつもそうだというわけではない。

2. 諸要因の一般的叙述, および言語能力と暦年との関係

言語能力は、種々の要因によって規定されている。まず、視・聴覚の欠陥、発音障碍、腺分泌異状、神経組織の損傷、身体虚弱などの身体的要因がある。第二に、知覚、記憶、推理などの知的要因がある。第三には、情緒不安、社会的不適応などの性格的要因がある。

これら人格の各位相の他に、第四に人格の構成に影響する家庭や学校などの環境的要因がある。そして第五に、指導の原理・方法を中心とする教育要因があげられる。

これらの諸要因は、相互に密接な力学的関係をなしているのであって、要因の単なる加算的寄せ集めによって、児童の言語能力は規定されるものではない。

われわれは、本書の中で、特に知的要因、性格的要因、環境的要因をとりあげてみたいと思っているが、その前に一般的な概観をしておきたい。

もっとも、その前に言語発達に対する暦年というものの意味、関係について吟味しておきたい。というのは一般に入学当初から、低学年の間はすべての仕事に生れ月というものが大きな力を持っているように信じられている。学校で生れ月の順序に学籍簿を作製すると、番号のはじめの、4月生れの者の中に成績のよい者が多い。特に小学校入学当初において4月生れと12月、1月、2月、3月生れの者とは、その身体的発達はもとより、精神的仕事について全体的にいった場合に、相当のちがいが感じられている。

そうした点から、言語能力と暦年との間にも多少の関係が見出されそうに思っていたのであるが、われわれの実験学校の資料に関する限りでは、係数は0.21であって、関係がないことはないが、薄い。これには念のため相関表を掲げておく。

暦年と言語能力との相関

言語能力 暦年	75	77	78	81	83	86
	74	76	78	80	82	84
213	・		・	・		・
195						
194	・	・	・	・		・
177						
176		・	・		・	・
160			・			・
159	・	・	・	・		・
143		・	・			
142		・	・			
126						
125		・	・		・	
108						

(注) 言語能力は9月のテストにおける読み書き能力の総合点である。

暦年は28年7月現在の月数

において実に頻繁に見出された。

言語発達における身体的条件のうち特に視力、聴力、さらに運動能力については古くから気づかれていることである。われわれは、こうした身体的能力について、入学当初に検査をしておきたいと思ったが、間に合わなかった。ただ、読みの不振を個人的に見た場合、その者の身体的欠陥に落ちつくことが多かったということはっておきたい。

環境的要因としては、その地域の文化的・経済的背景から、家族数、旅行、経済が豊富か貧弱か、家庭における書物や文字への親しみ、さらに、両親の教養、家庭における学業への熱の入れかた、学校と家庭との連絡など、いろ

言語発達に影響を及ぼす知

的要因において近ごろ特に注目されて来ているのは、物の異同の識別である。アメリカ流にいうと b と d、u と n、あるいは big と dig、on と no というようなのを取りちがえるいわゆる「逆転」が、読みの進歩に重大な障害をなしていることについて、たくさんの事実が報告されている。われわれの実験学校、協力量校のテストやふだんの授業の中でも、逆書(「り」を「ㇿ」「う」を「い」と書く)や字形の混同(「あ」と「お」、「め」と「ね」)

は、未発達の者、未熟の段階

いろいろな点に注目されて来ているが、これ等については次に多少の調査結果を示すことにする。

言語発達の要因として無視できないのは、パーソナリティの面、社会性の発達とか情緒的安定の問題である。これは家庭の学習においても同様であるが、特に学校における国語学習は教室という特別の雰囲気の中で集団生活の中でおこなわれるものであって、情緒的な安定を持たず学校生活に適応できない者には自発的な、しっかりとした学習ができない。

実験学校における事例でいうと、男子（7）は入学当初の二か月は始終おどおどして、何をきかれてもほとんど答えられなかった。校庭でもひとりぼっちであった。知っている文字を書かせようとしても、1.5センチ角のますの中にはどうしても自分の名前も書けず、裏返して白紙にしたら、ふるえながらやっと書いたというような子供であった。しかし、クレヨンで図形を書かせたところでは非常に正確であって、知能は低くないことが証明された。それは学校生活、集団生活への適応がおくれているのであった。こうした事例についてはいずれ別に報告したいと考えている。

B 言語能力と知的要因

1. 言語能力と知能との相関

小学校新入学児童の知能を測定するため、武政、小見山、岡本の「低学年用新乙式団体知能テスト」によった。このテストは、(イ)10名内外の小グループごとに実施する集団テストであること、(ロ)幼稚園児・小学校新入学児を主なる対象にしたテストであること、(ハ)図形や絵画を測定材料として用い、文字不使用のテストであること——以上のような性格をもったものである。

ここに、実験学校における知能指数あるいは精神年齢と、各時期において検査された国語諸能力との相関を示すと次のようになる。

知能と言語能力との相関

	4 月	7 月	9 月	12 月
(1) 知能指数とひらがな清音読字数	0.58	0.43	0.32	—
(2) 知能指数とひらがな清音書字数	0.47	0.47	0.47	—
(3) 知能指数と漢字読字数	0.29	0.45	0.44	0.57
(4) 知能指数と漢字書字数	—	0.51	0.38	0.64
(5) 知能指数と発音能力	0.34	—	—	—
(6) 言語能力と知能指数	—	—	0.61	—
(7) 言語能力と精神年齢	—	—	0.74	—

この表で「言語能力」というのは、その時期における、ひらがな・漢字・数字など六つのテストの総計点である。(これについては細目は後に出る。)

この表でみると、言語能力と知能指数や精神年齢とは相当相関が高く、特に精神年齢の方が係数が高い。これは、精神年齢は実際にそこまで進んでいる成果そのものを示すものであり、知能指数は、それを暦年齢と比較した結果であって、いわば学習の可能性の方を示すものだからである。

そしてこの数値は、従来行われた諸外国における研究結果とだいたい一致している。たとえば、トラックスラーは、6種の黙読テストとA式(言語式)、

及びB式（非言語式）の知能テストとの相関を求めたところ、前者はいずれも0.5内外でさり、後者は0.7内外の相関値を示している。この他ボンド（Bond）やバート（Burt）の研究においても0.5～0.8位の相関値が普通である。

個人別暦年、精神年齢、知能指数、言語能力一覧表

男 子	年 令	精神年齢	知能指数	ひらがな清音	ひらがな濁音	ひらがな濁半音	ひらがな濁半	漢 字	漢 字	数 字	数 字	言語能力 (計)
				(読)	(書)	(読)	(読)	(書)	(書)	(読)	(書)	
1	7才1月	7才0月	101	45	39	20	16	4	4	8	9	145
2	欠			4								
3	7才0月	9才11月	142	46	44	25	25	18	13	10	10	191
4	欠			1								
5	6才10月	6才10月	100									
6	6才10月	6才5月	94	43	30	16	6	3	1	10	4	113
7	6才10月	7才10月	115	46	44	23	20	6	5	10	10	164
8	6才9月	6才5月	139									
9	6才9月	9才7月	142	46	46	25	25	27	24	10	10	213
10	6才9月	9才0月	133	46	46	25	25	11	8	10	10	181
11	欠											
12	6才7月	5才6月	84	46	39	19	14	7	2	10	8	145
13	6才8月	7才6月	115	46	46	25	25	18	15	10	10	195
14	6才6月	7才8月	118	46	46	25	24	26	20	10	10	207
15												
16	6才6月	7才0月	138	46	45	25	21	9	6	10	10	172
17	6才5月	5才8月	88	46	44	21	22	5	1	8	8	155
18	欠											
19	欠											
20	6才5月	5才10月	91	42	43	19	19	6	7	10	10	156
21	6才4月	6才10月	108	37	42	13	12	1	3	9	10	127
22	6才4月	6才0月	95	欠								
23	6才3月	5才3月	84	46	42	17	18	4	4	10	10	151
24	6才4月	7才10月	124	46	46	25	24	14	13	10	10	188
25	6才3月	9才0月	144	46	46	25	25	25	15	10	10	202

女	子	年	令	精神年令	知能指数	ひらがな清音		ひらがな濁半		漢字		数		合
						(読)	(書)	(読)	(書)	(読)	(書)	(読)	(書)	
1	7才	1月	7才	10月	111	46	46	25	25	5	5	10	10	172
2	7才	2月	8才	2月	114	46	44	25	24	15	13	10	10	187
3	欠					46	46	25	25	18	13	10	10	194
4	7才	2月	6才	9月	94	46	41	18	14	12	13	10	10	164
5	7才	2月	7才	10月	109	46	46	25	24	18	16	10	10	195
6	7才	0月	6才	7月	94	46	45	24	24	7	6	10	9	171
7	7才	0月	6才	5月	92	46	46	25	25	24	25	10	10	211
8	7才	0月	6才	0月	86	46	40	19	7	13	5	10	10	150
9	6才	8月	7才	8月	115	46	43	19	18	6	3	10	10	155
10	6才	8月	7才	10月	118	46	44	25	21	11	12	10	10	179
11	6才	7月	6才	3月	95	44	40	13	11	3	7	9	6	133
12	6才	7月	7才	6月	114	46	46	25	24	17	16	10	10	194
13	6才	7月	5才	3月	80	42	30	16	9	4	4	10	10	125
14	6才	7月	7才	0月	106	45	44	19	20	5	4	7	10	154
15	6才	7月	6才	10月	104	46	45	20	25	8	7	10	10	171
16	6才	6月	5才	1月	78	15	7	0	0	0	0	6	6	34
17	6才	6月	8才	8月	130	46	45	22	17	1	1	7	10	149
18	6才	5月	5才	8月	88	43	42	19	18	5	3	10	10	150
19	6才	5月	3才	8月	57	37	27	13	8	6	4	6	7	108
20	6才	5月	4才	7月	71	46	42	21	12	1	2	10	10	144
21	6才	5月	7才	6月	117	46	41	9	11	5	5	10	9	136
22	6才	4月	7才	0月	111	46	44	21	18	9	9	10	10	167
23	6才	4月	7才	2月	113	46	46	25	24	10	9	10	10	180
24	6才	3月	4才	1月	65	22	11	1	1	0	5	8	6	54
25	6才	7月	6才	0月	91	46	45	25	25	20	15	10	10	196

(注) 前掲の知能と国語能力との相関の表で9月の漢字書字力の相関が0.38というのは夏休みというものの影響があると考えられる。9月の漢字読字数の相関も0.44では低い。7月と12月との関連からいえば0.50ぐらいになっていなければならない。この問題について、7月と12月との漢字書字力を結んで9月の成績を推定し、それと実際のとをくらべてみる。

漢字書字力に及ぼした夏休みの影響

男 子	推定による 書字数	実際の書 字数	比 較	女 子	推定による 書字数	実際の書 字数	比 較
1	8	4		1	9	5	
2				2		14	
3	18	13	√	3	18	14	
4				4	12	13	○
5	5			5	15	16	○
6	6	1	√	6	8	6	
7	8	5		7		25	
8				8	8	5	
9	22	24	○	9	7	3	
10	12	8		10	11	12	
11				11	8	7	
12		2		12	17	16	
13	19	17		13		4	
14		22		14		4	
15				15		7	
16	16	6	√	16	3	0	
17	7	1	√	17	6	1	
18				18	5	3	
19				19	5	4	
20		7		20	6	2	
21	2	3		21	8	5	
22				22	9	9	○
23	11	5	√	23	10	9	
24	16	13		24	5	5	○
25	19	15		25	17	16	

上のように、比較の欄で、9月の成績が悪くその後の進歩の著しいものには √じるしをつけ、推定と実際とがだいたい同じものには ○じるしをつけた。

√ 男子 (3) (6) (16) (17) (23)

○ 男子 (9)、女子 (4) (5) (22) (24)

このうち女子 (24) は絶体数が少いので、問題にしない方がよいかも知れない

い。それを除いて、Vじるしの群と、Oじるしの群とを対立させてみると、Vじるしは自由奔放に勉強する型であり、Oじるしは堅実に勉強する型である。Oじるしのうち、男子(9)、女子(4)(5)などは家庭の管理が特によい方である。

とにかく、この9月の漢字書字力に変調があったのは、夏休みという管理されない時期が存在していたからであると考えられる。

2. 言語能力と知能遅滞児との関係

この研究を、言語能力に関する六つの調査の合計点によつて、上・中・下の三つのグループに分けて、おこなつた。すなわち、それぞれのグループの得点範囲は、180点以上、150—179点、149点以下とし、これらの各グループについて、知能遅滞児（こゝでは、知能指数90点以下、すなわち「平均知の下」およびそれ以下の知能段階のものとした）が何パーセント含まれているかを調査することにした。結果は次の通りである。

言語能力と知能遅滞児との関係

言語能力グループ	知能遅滞児 (I. Q. 90点以下) が、 その群に含まれるパーセント
上のグループ	0%
中のグループ	25%
下のグループ	50%

この表で明らかな通り、上のグループには知能遅滞者は一人もおらず、中のグループでは4人に1人の割合で、下のグループに到つては半数が知能遅滞児ということができる。ハリス (Haris) は読書能力と知能との関係を調査し、(イ)一般に知能と読書能力との間には平行関係がある。(ロ)まれには読書遅滞児の中にも知能指数115—125点のものもいる。(ハ)知能の低いものに読書能力のすぐれたものはほとんどいない——といている。ハリスの研究とわれわれの研究とを直接比較することはできないが、少なくとも(イ)と(ハ)については共通な傾向が見られるといえよう。

3. 読み方学習準備の完成は精神年齢何才であるか

アメリカでは、精神年齢6才半にならないと、読み方学習の準備はできない。したがって、読み方の学習にはいつてはならないという研究がある。

われわれもこの問題に対して接近を試みるため、次の二つの表を作ってみた。

言語能力150以上の者の精神年齢

精神年齢	～5才11月	6才～ 6才11月	7才～ 7才11月	8才～ 8才11月	9才～
人数	4	6	12	1	5
百分率	40. %	54.5%	85.0%	50.0%	83.3%

言語能力150以上の者の知能指数

知能指数	～89	90～99	100～109	110～119	120～129	130～139	140～
人数	4	5	3	10	1	2	3
百分率	44.4%	71.4%	60.0%	%	90.9%	66.7%	100.0%

この表から、精神年齢6才以上とか7才以上とかを区切ってそうでないと読み方学習準備としての文字習得に成功しないとか、成功しにくいとかいえそうでもない。しかし、この問題については、さらに研究を進めることによって、多少ははっきりしたものが出そうである。前述の通り言語発達と知能指数との相関は相当に高いのであり、個々の事例についてみても、実験学校の男子(6)、女子(13)(16)(19)(24)のように文字習得の遅れている者の精神年齢はそれぞれ、6才5月、5才3月、5才1月、3才8月、4才1月であって、6才以上というのはただ1名である。

C 言語能力と性格的要因

1. 言語能力と性格との相関

ここでは、国語能力の総合点と、次に掲げる質問紙による性格調査の総合点との相関係数を求めた。この性格調査は、(イ)児童をよく知っている、主に父母が記入する。(ロ)AからFまでの6項目42問題は、いずれも適応性に関する問題である。(ハ)採点は望ましい適応の仕方に反応した場合、各問1点ずつ与える。(ニ)無応答の問題には半点与える。——このような性格と採点方法をおこなったのである。

(イ)で述べたように、この性格調査は、他人評価によるものである。新入学児童では、まだ自己評価はできないし、他人評価といっても友人にはできない。したがって、児童を最もよく知っている父母に依頼した。この他性格調査の方法としては、教師及び常に児童に接しているわれわれ自身の観察による方法と、ロールシャッハ、T・A・Tなどのプロジェクト法 (Projective Technigue)がある。前者については新に「誰でしょうテスト」(Guess who Test)の形式を用いて実施しており、後者は特殊児童についてのみ近く実施する予定である。

性 格 調 査 の 質 問 紙

A

1	お子さんは、指をかんだり、目をばちばちしたりするくせがありますか	はい いいえ
2	お子さんは、時々こわい夢を見て、うなされたり泣き出したりしますか	はい いいえ
3	お子さんは、食べ物に好ききらいが多いですか	はい いいえ
4	お子さんは、時々かぜをひいたり、おなかをこわしたり、頭痛がしたりすることがありますか	はい いいえ
5	お子さんは、朝から元氣なくぐったりしていることがありますか	はい いいえ
6	お子さんは、つかれてぼんやりしていることが時々ありますか	はい いいえ

- | | | |
|---|--------------------|--------|
| 7 | お子さんは、戸外で活発に遊ぶ方ですか | はい いいえ |
|---|--------------------|--------|

B

- | | | |
|----|--|--------|
| 8 | お子さんは、自分のしなければならないことをするのに、たいがい親や家の人からさいそくされますか | はい いいえ |
| 9 | お子さんは、やり始めたら何ごと最後までやりつけようとする方ですか | はい いいえ |
| 10 | お子さんは、自分で正しいと考えたことは反対されてもやりとおそうとしますか | はい いいえ |
| 11 | お子さんは、勉強や仕事をする時に、すぐにほかの人に手つだってもらいますか | はい いいえ |
| 12 | お子さんは、自分の本やおもちゃを大切にする方ですか | はい いいえ |
| 13 | お子さんは、きょうめんで規則正しい方ですか | はい いいえ |
| 14 | お子さんは、あまり世話のやけない方だと思いますか | はい いいえ |

C

- | | | |
|----|---|--------|
| 15 | お子さんは、遊びに夢中になるとごはんやおふろによんでもいうことをきかない方ですか | はい いいえ |
| 16 | お子さんは、友だちなどからすすめられると、悪いと知りつつやってしまう方ですか | はい いいえ |
| 17 | お子さんは、おもしろい遊びをしている時でも、用事をいいつけられるとたいていしますか | はい いいえ |
| 18 | お子さんは、おもしろくない仕事でも、きめられたことはしますか | はい いいえ |
| 19 | お子さんは、朝起こされてもすぐには起きられない方ですか | はい いいえ |
| 20 | お子さんは、よくないことをして小言をいわれると、やり出したことでも途中でやめてしまいますか | はい いいえ |
| 21 | お子さんは、どちらかといえばがまん強い方ですか | はい いいえ |

D

- | | | |
|----|----------------------------------|--------|
| 22 | お子さんは、知らない人にもはにかまずにお話ができますか | はい いいえ |
| 23 | お子さんは、きょうだいや友だちに自分の持ち物を喜んで貸す方ですか | はい いいえ |
| 24 | お子さんは、呼びかけられてもすぐには返事ができない方ですか | はい いいえ |
| 25 | お子さんは、ほかのお友だちといっしょに仲よく遊びますか | はい いいえ |
| 26 | お子さんは、しかられるといつまでもぐずぐずしている方ですか | はい いいえ |
| 27 | お子さんは、「うちべんけい」で外ではいくじのない方ですか | はい いいえ |
| 28 | お子さんは、ほかの者や人からいわれたことをよく聞きますか | はい いいえ |

E

29	お子さんは、家の人にわがままなことをしたり口答えなどをよくしますか	はい いいえ
30	お子さんは、きょうだいどうし仲のよい方ですか	はい いいえ
31	お子さんは、家でよく役に立つ子だとほめられることが多いですか	はい いいえ
32	お子さんは、何かいわれると、うそをつくことが時々ありますか	はい いいえ
33	お子さんは、近所の友だちにいじわるされることがたびたびありますか	はい いいえ
34	お子さんは、近所に仲のよい友だちが多い方ですか	はい いいえ
35	お子さんは、家庭や家の近くに大きらいな人がいますか	はい いいえ

F

36	ちょっとしたことにお子さんは、思わずひどくおこったりらんぼうしたりすることがありますか	はい いいえ
37	お子さんは、何かのことで腹をたてると手がふるえ目つきがすごくなることがありますか	はい いいえ
38	お子さんは、ちょっとしたけがでも顔が青くなり大さわぎすることがありますか	はい いいえ
39	お子さんは、嬉しくなったり、かなしくなったり非常に気がかわる方ですか	はい いいえ
40	お子さんは、だまりこんでひねくれてしまうことが時々ありますか	はい いいえ
41	お子さんは、人の前に出るとかたくなり顔が赤くなりものが言えなくなる方ですか	はい いいえ
42	お子さんは、暗い所や毛虫など、物事を非常にこわがる方ですか	はい いいえ

以上の性格調査と言語能力と相関係数は、0.25であり、プラスの相関はあるが、比較的低い値である。

これは、それぞれ異なる父母の判断であるから、判定の基準がまちまちであり、かつ自分の子供に対してはどうしても判断に主観性がいりやすいという理由にもよると思われる。また、次に述べるように、特に読書能力の低い児童の父母が、質問紙に解答をよせないという理由にもよるであろう。これらの点を改善すれば、多少相関値は上昇すると考えられる。それにしても知能ほど高い相関関係は望めないだろう。性格の問題は一層複雑で、そのとらえ方がむずかしいからである。

2. 言語能力と各種の性格的欠陥児との関係

ここでは、前に述べた三つの言語能力グループについて、各種の性格的欠陥をもった児童がそれぞれ何パーセント含まれているかを調査した。ここでいう各種の性格的欠陥とは、前の調査項目のAからFまでのそれぞれの項目で、項目の評定が「下」のものである。各項目の名称および評定「下」の規準を次に示す。

性格調査の各項目の名称と評定「下」の規準

項 目	A	B	C	D	E	F
評定「下」の規準 そ の 名 称	神経質 徴 候	自立性	自律性	社会性	家庭近隣 関 係	異常傾向

言語能力と各種の性格的欠陥児との関係

国語能力グループ	神経質 徴 候	自立性	自律性	社会性	家庭近隣 関 係	異 常 傾 向	平 均
上 の グ ル ープ	23%	23%	23%	23%	23%	8%	20.5%
中 の "	27%	33%	40%	20%	33%	13%	27.7%
下 の "	25%	38%	25%	38%	38%	38%	33.7%
(未解答を欠陥児 と仮定した場合)	(75%)	(88%)	(75%)	(88%)	(88%)	(88%)	(83.7%)

これによって、次のことがわかる。

第一に概観的にについて言語能力上のグループには各種の性格的欠陥児は最も少く、中のグループがこれにつき、下のグループが最も多い。特に下のグループにおいて、未解答者をすべて性格的欠陥児と考えれば、その比率は非常に増大する。ロビンソン (Robinson) の読書遅滞児30名についての詳細な研究によれば、これらの児童に最も多いのは、社会的情緒的不適応と種々の視覚的欠陥である。また、ゲーツ (Gates)、ウィツティ (Witty) はじめ、多くの研究家も読書困難と性格的欠陥との密接なる関連性を事例研究によって確認している。なお、上のグループには一人も未解答者はなく、中のグル

ープにも僅かに一人しかない。

第二に、既述の言語能力と知能遅滞児の研究においては、上のグループと中のグループとの間に顕著な差が見られたが、性格欠陥児については、両グループの間にあまり著しい差が見られない。これは前述のように調査方法の特殊性にもよるであろうが、言語能力のすぐれたものにも、性格的欠陥者も少なからずいることを示すものであろう。

第三に、ただし言語能力上のグループに著しく少い唯一の性格的欠陥は、異常傾向である。このような特殊な性格的欠陥者が、言語能力上のグループに少いということは、前述諸家の事例研究に合致するものである。

D 言語能力と環境的要因

1. 言語能力と環境との相関

ここでは前述したひらがなおよび漢字の読み書きを中心とした、言語能力の総合点と、環境調査の総合点との間の相関的研究をおこなった。環境調査用紙は、児童をよく知っている父母がこたえを記入するもので、9項目から成り立っている。各項目とも1点から3点までの3段階得点に分れており、これら9項目の総合点をもって、その児童の環境点とした。各項目の詳細については、次にゆずり、言語能力合計点と環境点との相関係数を求めると、その値は0.41であった。この値は、すでに述べた言語能力と知能との相関 ($r=0.74$) より低いが、言語能力と性格との相関 ($r=0.25$) よりも高い。そして、ひらがなの書字力、漢字の読字力といったような、言語能力の分節部分と知能との相関値と、ほぼ等しい値である。

2. 言語能力と各種の環境的欠陥との関係

われわれは、さらに言語能力と環境調査の各項目との関係を分析して吟味してみた。

まず、言語能力の総合点によって、前と同様の上・中・下の三つのグループを構成した。次にこれらの各グループについて環境調査の各項目別に、項目の環境評定「下」のものがそれぞれ何パーセントいるかを求めた。各項目の名称及び評定「下」の規準は次の通りである。

環境調査の各項目の名称、及び評定「下」の規準

項目の名称	評定「下」の規準
(1) 家庭の教育程度	父母とも義務教育程度で、家族も主に義務教育程度の教育しかうけていない。
(2) 生育条件	次の8条件中、5条件ないしそれ以下しか満たされていない。 1. 安産 2. 熟産 3. 生れた時の体重600匁以上 4. 人工栄養でない 5. 離乳2年以内 6. 発語20か月以内 7. 重い病歴 8. 外歩15行か月以内
(3) 家庭の対人関係	次の3条件中、1条件ないし全く条件が満たされない 1. 主に世話をする人は父または母 2. 家族が全く留守勝ちまたは子供だけになることはたびたびはない。 3. 遊び相手は兄弟姉妹、または同年輩以上の友人
(4) 移行	次の5条件中、2条件以下乃至は特に偏っているもの 1. 泊りがけで行くことが1回以上 2. 日がえりが3回以上 3. 親しい近隣がある 4. 日曜日などによくつれて行く。あるいはたまにはつれて行く 5. この一年間につれて行った所や乗物に五つ以上 ○がついているもの
(5) 指導	つぎの8条件中、3条件以下、あるいは特に問題があるもの 1. お話をしてあげるのはたびたび 2. 本を読んであげるのもたびたび 3. 歌を歌ってあげるのはたびたび、またはたまにある 4. 色紙で何かつくってあげるのはたびたび、またはたまに 5. 字は教えた 6. 数も教えた 7. 主として教えた人がいる 8. 特別教育(ピアノ、うたなど)がある
(6) 家庭の文化環境	次の8条件中、5条件以下の場合。 1. 絵本などはたびたびまたはたまに買う 2. 持っている本の数は20冊まで

3. おもにもっている本の名が 4冊以上具体的にあげられている
4. おもちゃやたびたびまたはたまに買う
5. 使っているおもちゃが具体的に四つ以上あげられている
6. 自分の机がある
7. ラジオがあり、新聞をとっている
8. 芝居や映画を見たことがある

(7) 就 学 準 備

次の10条件中、6条件以下の場合

1. ひとりで本を読む、あるいは誰かに読んでもらうこともある。
2. 本は繰返してよむ
3. 学校へ行く前から本をみて楽しむ習慣があった
4. 入学前から本の字を見て読む習慣があった
5. 学校へ行くようになってから字を見て読むようになった
6. 学校へ行くようになってから本・絵本を見る態度が変り、よみたがるようになったり、字をたずねたり、絵ばかりでなく、字を読むようになったり、すらすら読めるようになった
7. この2か月間に読まれて本を具体的に2冊以上あげているもの
8. ラジオを聞く
9. ラジオの好きな番組を特に注意してきく
10. 新聞をみることもある

(8) 家庭の社会経済的
条件

次の5条件中、3条件以下の場合

1. 子供自身、または家族の中で過去及び現在においてとくにひどい病気をしない
2. 住居は、アパート、寮、間借り以外である
3. 現在住むのに使っている部屋の畳が15畳以上あるいは1人当り3畳以上
4. 勉強する場所は十分あるいはさしつかえない程度にある
5. 家庭でとっている雑誌が一つ以上ある

(9) 自 立 の 習 慣

次の6条件中、4条件以下の場合

1. 朝起きる時のきげんはよいまたはふつう
2. 歯をみがく事、顔を洗うことはいつもおこなう
3. 学校へ行く時のきげんはよいあるいはふつう
4. 学校から帰ってきてから本をよむことは少くない
5. 一しょに買物に行く、またはおつかいをするのはたびたびまたはたまにある
6. ねる時は一人でねる

言語能力と環境的欠陥との関係

国語能力グループ	(1) 家族の 教育程 度	(2) 生育歴	(3) 家庭の 対人関 係	(4) 移行の 経験	(5) 家庭の 指導	(6) 家庭の 文化的 環境	(7) 就学準 備	(8) 家庭の 社会・経 済的条 件	(9) 自立の 習慣
上のグループ	8%	23%	31%	31%	31%	23%	8%	31%	15%
中のグループ	13%	13%	25%	6%	0%	25%	19%	38%	13%
下のグループ	45%	45%	45%	45%	45%	76%	81%	54%	0%

(注) この表の見方——言語能力上のグループの列と家族の教育程度の欄との交わるくを見ると8%とある。これは、国語能力上のグループには、家族の教育程度の評定「下」なるものが8%おり、残りの92%は家族の教育程度の評定が「上」または「中」であることを示す。

上の表から次のことが明らかである。

第一に、概していえば、環境的欠陥者は言語能力上のグループに最も少く中、下のグループになるにしたがって、その比率が多くなる。このことは、言語能力と環境条件との間に一定の規則的な関係のあることを示すものである。

第二に、第一で述べた傾向が明らかに現れている項目は、(7)就学準備、(6)家庭の文化環境 (1)家庭の教育程度 (8)家庭の社会・経済的条件などである。また、このような傾向が全く見られないのは (9)自立であり、(3)家庭の対人関係 (4)移行 (5)指導 などである。この点について考察を加えてみよう。

まず、(1)家庭の教育程度 (6)家庭の文化環境などは、家庭の教育や文化に対する関心の度を示すものであって、これらが言語能力に影響するのは当然である。また、家庭の社会経済的条件が、広く精神発達全体と密接な関連のあることも従来指摘されていたところである。

(7)の就学準備は言語能力発達と密接な関係があり、(5)の指導はそれほどの関係がない。これは、就学準備のところでは、主に「児童自らの」自発的な勉強への「意欲」、勉学の「よき習慣」種々の経験に対する「興味」などを問題にしているのに対し、後者では単に親ないし家庭の人の「児童への単なる

働きかけ」を問題にしているからである。ここでは単なる働きかけよりも、「児童自らの働き」がより重要な意味をもつことがうかがわれるのである。このことは (4)の移行についても裏づけられる。ここでいう移行とは、保護者が種々の場所へたびたび児童を連れて行ったかどうかという単なる働きかけで児童の自発的にして自律的な行動や経験の多少ではない。

(3)家庭の対人関係が言語能力と密接な関係がないというこの調査結果は、多くの研究結果と一致しない。これは、本調査の欠陥によると思われる。すなわち、本調査では、家庭の対人関係中最も大切な親子の対立や親和の度合、兄弟、姉妹の相互的關係及び親に対する力学的關係、祖父母と両親との家庭における力關係等を、調査方法上の限界から除外したためであろう。

最後に、(9)自立の習慣が言語能力と関係がなかったことに対しては、やはり調査項目の不適切さにもよると思われる。すなわち、歯をよく磨くか、おしんに度々行くかといったような主観的判断が主なる決め手となったためである。

最後に、言語能力の発達に及ぼす教育的要因については、われわれも深い関心を持っているものであるが、これについては、第6章で取扱いたい。

V 入学前後の家庭における読書

A どんな本を読んでいるか

1. 調査の方法

子供たちのふだんの読書の傾向・状態を調査する方法は、高学年になれば読んだ書名を記入させるとか、読書ノートを書かせるとか、図書室の閲覧状態を調べるとか、あるいは読みたいもの、読みたくないもの、どちらかわからないもの等を、種々に列記した多くの書目名の中からえらんで書き出させる質問紙法など、いろいろな方法がある。しかし、入学当初の子供たちに対しては、無理であるので、六月初旬、調査用紙を各家庭に配布し、記入してもらった。その結果は、われわれが日常子供たちを観察していることと大差は認められず、大体において、信頼できるものと思われる。

以下、実験学校における成果を主とし、補足的に他の協力学校、特に神奈川県比々多小学校の成果を参照することとする。実験学校では用紙を配布したのは49名であり、そのうち回収されたのは45名であった。

家庭読書調査要項

1	お子さんに絵本・雑誌・本（教科書以外のもの・以下も同じ）を買ってあげますか	たびたび買う たまに買う 買わない
2	お子さんは全部で何さつぐらい絵本・雑誌・本をおもちですか	5さつまで 10さつまで 20さつまで 20さつ以上
3	おもにどんなものをおもちですか、詳しく書いて下さい（なるべく出版社あるいは著者の名も書いて下さい）	例 はなづくし（講談社） 小学一年生（小学館） だんごくしすけ（まんが）イソップ どうわ（浜田広介監修）
4	絵本・雑誌・本を買う時にはおもにだれが選びますか	お子さん うちの人 その時による

5	お子さんは絵本・雑誌・本を友だちから借りて来ますか	たびたび借りて来る たまに借りて来る 借りて来ない	
6	お子さんは絵本・雑誌・本を見たり読んだりするのにひとりですみますか	いつもひとりでよむ いつもだれかによんでもらう 両方	
7	お子さんは絵本・雑誌・本の文章をそらでおぼえるほど繰り返しますか	そらでおぼえるほど繰り返す 繰り返すがそらではおぼえない 買って来た当座よむだけですぐあきる ちょっと見るだけで興味がない	
8	学校に行く前から絵本・雑誌・本を見て楽しむ習慣がありましたか	はい いいえ	
9	学校へ行く前から絵本・雑誌・本の字をみて読む習慣がありましたか	はい いいえ	
10	学校へ行くようになってから字をみて読むようになりましたか	はい いいえ	
11	学校へ行くようになってから、絵本・雑誌・本を読む態度が変わって来ましたか	わからない 本を見たがるようになった 絵を見ていて分らない字があればたずねるようになった 絵だけでなく字も読むようになった すらすら読めるようになった	
12	このごろ(2か月間)このんで読まれる絵本・雑誌・本には、どんなものがありますか(借りた本でもよい)	本 の 名 例 ※うたの本※	出版者または著者の名 (本の名は同じでもいろいろありますから書き入れて下さい) 小 学 館
13	学校から帰ってから本をよむことは多いですか	ひじょうにすきで本ばかりよんでいる すきでよんでいることが多い たまによんでいる ほとんどよまない	

2. 読 ま れ て い る 本

まず、読まれている本の集計からはい。実験学校では次のようになって

いる。

	冊数	男	女
1. おとぎ話・童話の類	71	(38)	(33)
2. 雑 誌	61	(27)	(34)
3. 漫 画	40	(29)	(11)
4. 理科・社会等に関する知識	11	(6)	(5)

5. 探険・冒険記の類	6	(2	4)
6. 童謡・童詩	6	(2	4)
7. 伝 記	4	(3	1)
8. 社会美談	3	(3	0)

であって、男子が漫画本を多く読み、女子が男子に比して雑誌を読むことが多いというほか、目立ったことはない。次に書名を男女別に掲げる。

第一に、おとぎ話・童話では、

書 名	男	女
浦島太郎		1
舌きり雀		2
花さかじい		1
一寸法師		1
かちかち山	1	
牛若丸		1
かぐや姫		1
はごろも		1
万寿姫		1
きんのふね		1
安寿姫と厨子王丸		2
こがねまる	1	
夕鶴	1	
トッパちゃん	1	
いたずら小ぶた		1
ハルカゼフウセン	1	
おしょうとこぼうず	1	
ひろすけ昔話一年生	1	
善太と三平	1	
子供の四季	1	
風の中の子供	1	
あかづきんさん		1
青い鳥	1	2
あらじんのらんぶ		1
アリババ物語		1
家なき子	1	1
イソップどうわ	1	
イソップ物語	1	2
えばなしイソップ	1	

書名	男	女
イワンのばか	1	
うかればいおりん	1	
おおかみと七ひきの子やぎ		1
おやゆび姫		1
グリムどうわ	1	
乞食王子	1	
しあわせの王子	1	
ジャックと豆の木	2	
白雪姫	2	3
シンデレラ		3
世界童話		1
せむしの仔馬	1	1
象ちゃんババアルのおはなし	1	
白鳥の王子	1	1
パンドラのはこ	1	
バンビ		1
ピノキオ	3	
ピーターパン	1	
フランダースの犬	1	
ロビンフッドの冒険	1	
ジャングルブック	1	
まほうのなしの木	1	
ゆめのはしご	1	
世界少年少女文学全集	1	

日本のもの、外国のものとりまぜて53種、日本のもの21種に対して、外国のものが32種という比率は、少年少女のための名作童話が外国に多いから、当然であろう。

本を買う時、だれが選択するかという問いに対して、

	男 %	女 %	計 %
うちの人	13 (61.9)	14 (58.3)	27 (60.0)
その時による	4 (19.0)	8 (33.3)	12 (26.2)
子供	3 (14.3)	1 (4.2)	4 (9.3)
無記入	1 (4.8)	1 (4.2)	2 (4.5)

となって、父兄の選択が過半数を占めていた。（子供と答えたのは、すべて雑誌である）

なお、男子と女子とでは、その好む童話の種類にかなりの差が認められること、それぞれ自分に近い性のものが主人公や主題になっているものを好んで読むような傾向がみられる。

これに対して、比々多校の方は、

		冊	男	女
1	雑誌	30	(13	17)
2	理科・社会科等に関する知識	17	(7	10)
3	漫画	16	(6	10)
4	おとぎ話・童話	7	(3	4)
5	童話	1	(0	1)

というふうになって、おとぎ話・童話は第四位にさがっている。読まれている種類も東京に比べて非常に少い。すなわち、その内容は、おとぎ話・童話の類としては、

	男	女
桃太郎		1
花さかじい	1	1
かぐや姫		1
一休さん	1	
イソップ童話		1
おとぎ本（講談社）	1	

に過ぎない。

第二に雑誌は、四谷第六校で第二位であり、比々多校にいたっては、他のものをはるかにしのいで、第一位になっている。雑誌ばかりは東京も地方も、その読まれ方に地域の差があまり見られない。

四谷第六校

	男	女
小学一年生	10	7
キンダーブック	6	5
幼年クラブ	2	2
一年ブック		3
幼稚園	2	1
こどもクラブ		2
小学二年生	1	
小学三年生	1	1
よい子の友	1	
光の国		1
おもしろブック	3	2
漫画王	1	

比々多校

	男	女
小学一年生	4	10
一年ブック	3	
よい子一年生	2	
こどもクラブ		1
たのしい一年生	1	
一年生の雑誌	1	
幼稚園		1
幼稚園ブック		1
ふたば		1
小学二年生	1	
小学三年生		1
少年クラブ		1
おもしろブック	1	

一般に子供は単行本よりも雑誌に接する機会の方がはるかに多い。

童詩・童謡・童話・ことば遊び・理科・算数知識・劇・作文等々、種々の内容を盛りこみ、中には、「おかあさまへ」と呼びかけて指導の手びきがついているなど、最近の幼年向きの雑誌は編集にだいたい教育的配慮がなされるようになってきた。しかし、入門期の子供の力では、それを読みこなすことは覚束ない。雑誌を買ってやっても、漫画等のあるところだけしか読まないで、すぐ放り出してしまつて困ると報告した父兄があった。そして本を選択する場合、子供が選ぶと答えたものが買う本は、みな雑誌であったが、子供たちが雑誌を選ぶのは、その本文よりもむしろ附録によるものが多いのではあるまいかと思われるのもこのためである。

第三は漫画である。実験学校の分を分類して掲げると、次のようになる。

分類	書名	男	女
動物	ノラクロ	1	
	子蛙コロ助		1
	みけねこ三ちゃん	1	
	あわてみみちゃん	1	2
	コックリくん	1	
	三びきのこぶた	1	1
	バンビ	1	
	ゆかいな動物たち	1	
	七にんのこびと	1	
生活	サマエさん	5	1
	ヨウちゃん	1	1
	クリちゃん	2	1
	けんちゃん	1	
	ブロンデー	1	
名作	イソップ童話	1	
	グリムマンガ	1	
	ピノチオ	1	
	少年リンカーン	1	
	さるじぞう		1
	ジャングルブック	1	1
	空飛ぶ突貫王子	1	
科学	一千年後の時間	1	
冒・探 険	孤島の黒竜団	1	
	仮面の冒険児	1	
	太平洋×点	1	
時代	あんみつ姫	1	1
その他	漫画	1	2
	長篇漫画	20	

これに対して、比々多校では、ずっと種類が少い。

	男	女
さゞえさん		1
あんみつ姫		1
漫画	6	7
漫画（講談社）		1

生活調査の方で、新聞を見るか否かという質問に対し、見ると答えた者が

実験学校で46名中32人あったが、その新聞のどこを見るかという、27人(84.4%)が漫画であった。子供たちの漫画に対する興味がどれほど強いかを物語っている。そして家庭の調査の上に現れたのがこれであるから、実状はもっと上廻るものと思われる。

第四に、理科・社会科等に関する知識のものでは、

書 名	男	女
人形絵本		1
まゝごと		1
おじょうさん		1
こども絵文庫		1
あいうえお	1	
かずのえほん	1	1
日本一づくし	1	
世界一づくし	1	
中を見よう	1	
小学生ずかん	1	

「人形絵本」「まゝごと」等は、身近のものを絵を主にして教えるごく初歩的な絵本の類、「あいうえお」「かずのほん」はそれぞれ文字やかずを、「日本一づくし」「世界一づくし」「中を見よう」等は、社会科、理科等の知識をわかりやすく絵中心に教えようとしたもので、入門的な性質をもっているためか、この統計ではそのほとんどが入学前に読まれていること、(それらより高級な小学生ずかんだけが入学後も愛読されている)及び、男女の差がはっきり出ている。

さらに興味のあることは、こうした類のものが、比々多校には他の内容のものに比して意外に多いということである。

書名	男	女
おどり		1
およめさん		1
動物絵づくし	1	
動物絵本		1
世界の動物	1	
汽車	1	
乗物絵本		1
数しらべ	1	
その他絵本	1	5

第五に、探険・冒険記の類、伝記、社会美談等

実験学校の分を分類して示すと、

分類	書名	男	女
イ	リビング ストン アフリカ探検	1	
	ロビンソン	1	
	ガリバー旅行記		1
	宝島	2	
	トムソーヤの冒険		1
ロ	聖徳太子	1	
	エジソン	1	
	ナイチンゲール		1
	リンカーン	1	
ハ	愛の学校一年生	1	
	テスト付		
	美しい心・正しい人 一年生	1	
	子供読本	1	

空想物語のガリバー旅行記をこめて、探険物語・冒険物語は読書興味の発達段階からいうと、童話類に比して少し高い。これを読んでいる子供たちは、比較的読書力の上位のものであった。伝記類も大体上と同じようなことがいえる。

社会美談では童話期を脱して、社会・人生への目をひらくように書かれたものであって、絵本の域を脱したものの、なかには、読み放しにしないで、テ

スト付きになっているものもあり、相当高度のものである。これらを読んでいる子は、言語能力も精神年齢もともに上位であった。

そして、これらの類に該当するものが、比々多校には一つもなかった。

第六は、童謡・童詩の類

実験学校の分では、

書名	男	女
うたのえほん		2
童謡絵本		1
童謡画集		1
お山の子ぐま	1	
お月さまお星さま(散文も入っている) 1		

以上のように、全体として少いが、男子より女子の方に多い。

比々多校では、女子に一人、一冊だけであった。

B どう読んでいるか

1. 入学前の読書

入学前から本（絵本）を見てたのしむ、即ち読書に対する関心、意欲の有無をたずねたのに対し、実験学校では次の結果を示した。（パーセンテージ）

	男	女	計
入学前から本を見て たのしんだ	95.2	83.3	89.3
入学前から本を見て たのしまない	4.8	16.7	10.7

90%近くのものが、読書に対して、たとえばそれが絵であろうとも、関心をもっていることがわかり、一応の読書準備期に達していることを物語っている。しかし、それでは、字を見て読んだかの問いに対しては、

（パーセンテージ）

	男	女	計
入学前から 字を見てよんだ	42.8	58.3	50.5
字をみない	52.4	37.5	45.0
無記入	4.8	4.2	4.5

というように、ほぼ半減してくる。

もっとも、生活調査の方で、入学前に、名まえ以外の字を教えましたかの問いに対して、（パーセンテージ）

	男	女	計
教えたもの	30.4	45.4	37.8
教えないもの	69.6	54.6	62.2

字を教えないものが62.2%にのぼっているから、（このうち3人 18.66%は、カルタ・積み木等で、自発的に覚えた）本を見ても、字を読まないのは

当然である。

これを純農村である比々多校と比較してみると、

(調査人員36名) (パーセンテージ)

	男	女	計
入学前から字を見てよんだ	39.7	31.6	35.6
〃 字をよまない	60.3	68.4	64.4
無記入	0	0	0

というように、入学前の文字教育が東京より多少悪い。特に女子においてそうになっているのは注目すべき現象である。書物への親しみについても、

(パーセンテージ)

	男	女	計
入学前から本を見てたのしんだ	50.0	57.9	53.95
〃 たのしまない	50.0	42.1	46.05

であって、大都市と農村との大きなちがいを示している。なお、農村では書物への親しみは、かえって女子の方がよいという点もよく考えるとうなずかれるところである。

2. 持っている本の数

実験学校(45名)についてみると、

冊 数	男		女		計	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
30冊ぐらいまで	1	(4.8)	0	(0)	1	(2.4)
20冊以上	9	(42.8)	13	(54.1)	22	(48.6)
20冊まで	3	(14.3)	4	(16.7)	7	(15.6)
10冊まで	3	(14.3)	4	(16.7)	7	(15.6)
5冊まで	2	(9.5)	2	(8.3)	4	(8.9)
無記入	3	(14.3)	1	(4.2)	4	(8.9)

上の表に見られるように、無記入の4名を除いては、他はほとんどが最低3冊（ぐらい）から最高30冊ぐらいまでの本を持っている。一人あたり平均18.3冊の本を所有していたことになる。そして、「お子さんに絵本・雑誌・本（教科書以外のもの）を買ってあげますか」の問いに対して、

	人	（男	女）	%
たびたび買うもの	26	(11	15)	57.8
たまに買うもの	16	(9	7)	35.6
買わないもの	2	(1	1)	4.4
無記入	1	(0	1)	2.2

と答えている数字によっても裏づけられている。93.6%のものが自分の身近に本と接近する経験を持っていることがわかる。しかも、自分の家で本を見るばかりでなく、人から借りて見るということもある。

	人	（男	女）	%
借りてこないもの	25	(10	15)	55.0
たまに借りるもの	11	(7	4)	25.0
たびたび借りるもの	5	(3	2)	11.3
無記入	4	(1	3)	8.7

上のように、自分の本を見るだけでなく、さらに積極的に読書の機会をもっている。

これを比々多校について見ると、書物の手の入れかたについては、

	男		女		計	
	人	%	人	%	人	%
たびたび買う	6	(42.9)	5	(26.3)	11	(33.3)
たまに買う	4	(28.6)	10	(52.6)	14	(42.4)
買わない	4	(28.6)	4	(21.1)	8	(24.3)

のように、たびたび買うものは少い。買わないもののがかなりふえている。そこで、持っている本も、

	男		女		計	
	人	%	人	%	人	%
21 冊 以 上	3	(21.4)	1	(5.3)	4	(12.1)
20 冊 まで	1	(7.1)	5	(26.3)	6	(18.3)
10 冊 まで	3	(21.4)	7	(36.8)	10	(30.3)
5 冊 まで	6	(43.0)	6	(31.6)	12	(36.3)
無 記 入	1	(7.1)	0	(0)	1	(3.0)

一人あたり 8.4 冊である。

3. 入学後の読書態度の変化

入学前の本に対する接近の仕方、関心の度合は前述のとおりであるが、入学後、文字を教えられるようになってからは、文字を見て読むようになったものが増加し、実験学校では44.9パーセンテージ(男子52.4%、女子37.5%)比々多校では50.4パーセンテージ(男子42.9%、女子57.9%)になっている。

したがって、読む態度に対する家庭の評価においても、入学前に比べるとそれぞれ、進歩発達が見られる。(パーセンテージ)

	四 谷 第 六 校			比 々 多 校		
	男	女	計	男	女	計
すらすらよめるようになった	13.6	7.7	10.7	7.1	5.3	6.2
絵だけでなく字もよめるようになった	31.8	38.4	35.1	21.4	26.3	23.9
絵を見ていてわからない字があればたずねるようになった	18.1	23.1	20.6	14.3	15.8	15.0
本を見たがるようになった	27.3	15.4	21.3	42.9	36.8	39.9
わからない	9.1	15.4	12.3	14.3	15.8	15.0

それでは、どの程度の熱心さで読んでいるかというと、

	四 谷 第 六 校			比 々 多 校		
	男	女	計	男	女	計
	%	%	%	%	%	%
そらでおぼえるほど くりかえす	14.3	25.0	19.6	7.1	21.1	14.1
くり返すが そらで おぼえない	52.4	37.5	44.0	14.0	42.1	28.2
買ってきた当座読む だけですぐあきる	14.3	29.2	21.7	42.9	26.3	34.6
ちょっと見るだけで 興味がない	0	4.2	4.2	39.9	10.5	25.1
無記入	19.0	4.2	11.6			

で、実験学校では、50%以上のものが、一応ていねいに読んでい、比々多校では、買ってきた当座や、ちょっと見るだけというものが相当数いる。

また「お子さんは絵本・雑誌・本を見たり読んだりするのに、ひとりでしますか」という問いに対しては次の結果を得た。（パーセンテージ）

	四 谷 第 六 校			比 々 多 校		
	男	女	計	男	女	計
	%	%	%	%	%	%
ひとりでよんだり よんでもらったり	61.9	54.2	58.1	21.4	47.4	34.4
いつもひとりで よむ	14.3	33.3	23.8	42.9	47.4	45.2
いつもだれかに よんでもらう	23.8	12.5	18.2	35.7	10.5	23.1

実験学校と比々多校とでは、逆な現象がみられる。「いつもひとりで読む」という態度は、もっと読みに習熟するようになれば望ましい態度であるのはもちろんだが、今まで見て来た程度の文字力の習得の状況では、ひとりで十分読みこなせるはずがなく、これらの子供たちは、ごく少数のものを除いては、文字力・読書力が至って低いものが多い。こうした子供たちが、自分の興味のあるところだけちょっと見て、あとは放り出してしまうのは当然であろう。反対に「ひとり読んだり読んでもらったり」と答えたものの中に、概して言語能力の高いものがあり、この子供たちは、家人の協力・助言を得て

いっそう読書に親しむことができるのである。

4. 読書の時間

本を読む時間はどのくらいであるか。子供の一日の生活における読書の習慣の度合を調べたら、実験学校では、（パーセンテージ）

	男	女	計
非常に好きで本ばかりよむ	4.8	4.2	4.5
好きでよんでいることが多い	33.3	41.6	37.5
たまによんでいる	57.1	50.0	53.5
ほとんどよまない	0	0	0
無記入	4.8	4.2	4.5

という結果を得た。

男子に比べて女子の方が読書の時間の多いこと、及び、たまに読んでいる程度が、この期の子供としては、自然のすがたであるといえる。しかも、これが農村の比々多校になると、

	男 %	女 %	計 %
非常に好きで本ばかりよむ	0	0	0
好きでよんでいることが多い	21.4	36.8	29.1
たまによんでいる	50.0	47.4	48.7
ほとんどよまない	28.6	15.8	22.2

というふうに、ほとんど読まないものが相当ふえている。

5. 家庭読書点数

次に、個人別に家庭読書の内容をみよう。

実験学校個人別家庭読書点数										
	本の量	準備	"	入学後の変化	"	読みの深さ	読む人の数	本を読む時間の程度		
男	2020105	入学前から本をみてたのしんだい	入学前から字をよまない	入学後へ行くようになった	絵を見ていてわからなかった	本を見たらなるようになった	いろいろと見るだけで興味がない	いつもだれかによんでもらう	非常にすきで本ばかりが多い	ほとんどよまないとはいえない
子	冊冊冊冊	以ままま上	冊冊冊冊	冊冊冊冊	冊冊冊冊	冊冊冊冊	冊冊冊冊	冊冊冊冊	冊冊冊冊	冊冊冊冊
配点	(4)(3)(2)(1)	(1)(0)	(1)(0)	(3)(2)(1)	(5)(4)(3)	(2)(1)	(4)(3)(2)(1)	(3)(2)(1)	(4)(3)(2)(1)	
1	4	1	0	1	1		3	3	2	15
2	2	1	1	3	3		2	3	2	17
3	4	1	1	3	2		3	3	2	19
4	4	1	1	3	5		4	3	3	42
5	1	1	0	2	2			2	3	11 a
6	2	1	0	2	3			1	3	12 a
7		1	0	2	3		3	3	3	15 a
8	4	1	1	3	5		3	3	3	23
9	4	1	0	2	4		3	3	2	19
10	1	1	1	3	4			2	3	15 a
11										
12		0	0	2	3			1	2	8 a
13	4	1	1	3	4		3	3	2	21
14	2	1	1	3	2		3	3	2	17
15										
16	4	1	0	2	4		3	3	2	19
17	3	1	0	2	4		3	1	2	16
18										
19										
20	4	1	0	2	2		2	1	2	14
21	3	1	0	2	2		3	3	2	16
22		1	0	2	1		3	1		8 a
23	3	1		2	4		2	3	2	17 a
24	4	1	1	3	4		4	3	3	23
25	4	1	1	3	5		4	2	4	24

女子	配点	本の量				準備				入学後の変化				読みの深さ				読む人				本を読む時間の程度				計
		(4)	(3)	(2)	(1)	(1)	(0)	(1)	(0)	(3)	(2)	(1)	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)	(4)	(3)	(2)	(1)	(4)	(3)	(2)	(1)	
1		4				1		1		3			4				4		2			3			22	
2		3				1		1		3			3				3		3			2			19	
3		3				1		1		3			5				3		2			3			21	
4		4				1		1		3			4				2		2			3			20	
5		4				1		1		3			3				2		2			3			19	
6		2				1		1		3			4				4		3			2			20	
7		2				0		0		2			4				2		3			2			15	
8		1				0		0		2			2				3		2			3			13	
9		4				1		1		3			4				3		3			3			22	
10		4				1		1		3			4				3		3			3			22	
11		3				0		0		2			3				1		2			2			13	
12		4				1		1		3			2				3		3			3			20	
13		1				1		0		2			3				4		2			2			15	
14		4				1		0		2			4				3		1			2			17	
15		4				1		0		2			4				4		3			3			21	
16		4				1		0		1			2				2		3			2			15	
17		2				1		1		3			1				2		2			2			14	
18		3				1		1		3			1				4		3			2			18	
19						0				2			3						1						6 a	
20		4				1		1		3			1				2		3			2			17	
21		4				1		0		2			1				2		1			2			13	
22		4				1		1		3			3				3		3			3			21	
23		2				1		0		2			4				3		3			2			17	
24																										
25		4				1		1		3			5				4		3			4			25	

これは、家庭の読書の内容を、本の量、入学前後の読書態度、読書時間など、一応点数化のできるものをとりあげて点数化したものである。上欄にある①②③④⑤等の数字は配点である。

「読む人」の判定では、「いつもひとりで読む」と答えるものの方が、上位のわけであるが、小学校入学前後においては、それは必ずしも家庭における読書にめぐまれている状態ではない。むしろ逆である。そこで点数化については上表のようにした。これはその者の読字力の調査に基づいてそう判定したのである。

実験学校では、一番よいものは25点、一番悪いものは13点となっている。無記入のものは点数+2として示しておいたが正確にはわからないので一応除く。しかし、平常の国語力等から推察すると、この点数の低さが、大体その家庭読書の状態をそのまま表わしているようである。

このように、すでに入学当初において、その読書の状態に13～25という個人差があることがわかる。なお、総体的にいて女子の方が、男子より家庭において読書するということは今まで見てきた。

これを農村である比々多校に比較してみると次のようになる。

比々多校個人別家庭読書点数

	本の量	準備	"	入学後の変化	"	読みの深さ	読む人の	本を読む時間の程度	計
男	2020105	入学前	入学前	入学前	入学後	絵をみ	絵をみ	絵をみ	絵をみ
冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊
以	以	以	以	以	以	以	以	以	以
上	上	上	上	上	上	上	上	上	上
子	子	子	子	子	子	子	子	子	子
配点	(4)(3)(2)(1)	(1)(0)	(1)(0)	(3)(2)(1)	(5)(4)(3)	(2)(1)	(4)(3)(2)(1)	(3)(2)(1)	(4)(3)(2)(1)
1	4	1	1	3	4	3	3	3	22
2		0	0	1	1	1	1	1	5a
3	1	1	1	3	2	2	2	3	15
4	1	0	0	1	2	1	1	2	8
5	2	1	1	3	4	2	2	2	17
6	2	0	0	2	4	1	1	1	11
7	1	0	0	2	2	2	2	1	10
8	1	0	1	3	3	2	2	2	14
9									
10	4	1	1	3	5	4	2	3	23
11	1	1	0	2	2	2	2	2	12
12									
13	4	1	0	2	2	3	3	2	17
14	3	0	0	1	1	2	1	1	9
15	2	0	0	2	3	1	3	2	13
16	1	1	0	2	2	1	1	2	10

C 家庭における読書と言語能力との関係

1. 個 別 的 考 察

以上で、家庭における子供たちの読書の状態を、諸方面から見てきたわけであるが、それが言語能力の発達とどのような関係をもつものであるか考察してみよう。

実験学校個人別家庭読書点数と言語能力との比較

男子	家庭読 書点数	4月読 字力	4月書 字力	語い 力	女子	家庭読 書点数	4月読 字力	4月書 字力	語い 力
1	15	4	1	41	1	22	65	40	38
1	17	6	6	32	2	19	61	49	42
3	19	71	54	29	3	21	71	64	
4	24				4	20	52	31	29
5	11a	7	6	28	5	19	71	60	25
6	12a	4	3	18	6	20	62	44	36
7	15a	8	5	17	7	15	70	65	25
8	23	71	49	48	8	13	13	7	22
9	19	64	43	41	9	22	8	7	23
10	15a	71	49	27	10	22	71	54	18
11					11	13	2	10	35
12	8a	13	6	24	12	20	71	62	20
13	21	70	28		13	15	2	5	14
14	17	71	65	36	14	17	11	13	19
15					15	21	5		
16	19	68	39	30	16	15	0	4	26
17	16	37	18	24	17	14	60	17	31
18					18	18	3		
19					19	6a	2	5	13
20	14	2	7	30	20	17	58	41	17
21	16	0	6	26	21	13	42	24	18
22	8a	4	4	32	22	21	51	21	15
23	17a	35	21		23	17	31	20	33
24	23	54	50	26	24		2	5	
25	24	71	64	30	25	25	71	49	26

多くの本を、よい態度で、多くの時間読んでいれば、国語の能力がひとりでにつくであろうとは、だれもが一応考えることであろう。実際、実験学校におけるこの表にも示されているように、読書点数の高いものは相対的に言

語能力も高い。たとえば、実験学校の男子(25)は家庭読書点24点、入学当初(4月)に実施した平がな(清・濁)の読みは完全にできてい、書字力も64という好成绩を示している。その他

男子 (8)	家庭読書点23	読字71	書字49
女子 (25)	" 25	" 71	" 49
" (8)	" 21	" 71	" 64
" (10)	" 22	" 71	" 54
" (12)	" 20	" 71	" 62

などはそれである。(男子(4)は病欠で国語能力テストは実施できなかったが、入学当初に示した教室における国語の理解力・発表力からいえば、当然のこの中にはいる)

比々多校ではどうかというと、

比々多校個人別家庭読書点数と言語能力との比較

男子	読書点数	読字力	書字力	語い力	女子	読書点数	読字力	書字力	語い力
1	22	66	41	36	1	13	3	2	18
2	5 ^a	5	0	17	2	11	0	0	7
3	15	6	0	16	3	18	71	34	27
4	8	0	0	16	4	18	68	43	14
5	17	19	4		5	17	70	36	14
6	11	0	0	22	6	20	39	30	18
7	10	1	0	21	7	21	46	30	19
8	14	23	3	18	8	10	9	4	12
9					9		12	2	12
10	23	71	43	32	10	9 ^a	1	1	3
11	13	6	0	23	11	20	58	25	24
12					12	17	2	0	21
13	17	71	42	39	13	21	70	46	38
14	9	1	0	12	14	16	3	0	29
15	13	3	0	15	15	15	5	0	11
16	10	11	0	20	16	13	48	0	12
					17	16	57	29	14
					18	10	0	0	9
					19	15	2	1	20
					20	7	0	0	20

のごとくで、読字力・書字力の高いものは、一応読書点数も高い。

	家庭読書	読字	書字
男子 (10)	23	71	43
" (13)	17	71	24
" (1)	22	66	41
女子 (13)	21	70	46

したがって、反対に、読書点数の低いものは、国語の能力も劣っている。

実験学校の男子では、(5)(6)(12)(22)などは無記入の箇所があり、そのため+ aで表わされているから、総点数がはっきりしないが、無記入の箇所はおゝむねその子供たちにとっては積極的な点数にならないようなところで、大体それらの数字に近い点数とみて差し支えない。女子では、(11)(19)等がそれである。比々多校でも男子(2)(4)(7)(14)、女子(20)(10)等は同じ結果を表している。

しかし、必ずしもそう言い切ってしまうケースもいくつか見受けられる。

たとえば、実験学校における男子(21)、女子(9)(15)、比々多校の男子(15)女子(12)など総点数がかなりよいにもかゝらず国語の能力は非常に低く、反対に、実験学校男子(10)(17)、女子(7)(比々多校はこの現象はほとんどみられない)のように、読書点数が比較的低いにもかかわらず、国語の力は非常にすぐれているものもある。

2. 全 体 的 考 察

そこで全体的な点数と読字力・書字力との相関を見てみる。

四谷第六	読字力との相関	0.57
"	書字力との "	0.67
比々多	読字力との "	0.74
"	書字力との "	0.79

であって、四谷第六校・比々多校ともに書字力との相関の方が高くなっている。

るが、これは入門期における読字力と書字力の本質に関する今までの考察と合致している。

なお、もう一つ興味ある問題は、家庭読書と語い力との関係である。これも常識的に考えると、多くよく読むものは語いも豊富であるはずであるが、両者の相関を求めてみると、

四谷第六校	語い力との相関	0.22
比々多校	"	0.50

というふうに、両校とも、読字力・書字力に比して低い。

これを個人別にあたってみても、家庭読書点・読字・書字力の高いものが語い力では意外に低い数を示し、たとえば、実験学校の男子(25)女子(25)、反対に、家庭読書点・読字・書字力が非常に低いものでも、実験学校の男子(1)(22)(5)、女子(11)(16)、比々多校女子(20)等のように語い力の高いものもあって、必ずしも両者の間に深い関係が見られない。これは語い力のテストが語いの比較的正確な把握を要求したためであると思われる。

なお、子供の読みものの中には、この期の子供たちの話しことばや、耳にすることば——生活語とは縁遠い難解な語いが時々見受けられるから、子供たちは文脈の中で前後の関係から一応読んではいても、まだほんとうに理解して読みとることができないということも、一因としてあげられるであろう。

Ⅵ 入門期における国語学習指導の実態

A 入門期国語教科書のあり方

1. ページ数と使用期間

現行主要教科書6種について1年生用の各冊のページ数と使用期間とは次の通りである。

現行一年生用国語教科書の編成

	巻	ページ数	期間		巻	ページ数	期間
T	I	30	4月	K	上	30	4～5
	II	68	5～9		中	61	6～11
	III	84	10～3		下	79	12～13
	計	182			計	170	
I	上	34	4～5	Y	上	58	4～7
	中	60	6～9		中	70	9～12
	下	88	10～3		下	56	1～3
	計	182			計	184	
F	上	29	4～5	S	上	58	4～7
	中	72	6～9		中	78	9～12
	下	87	10～3		下	64	1～3
	計	188			計	200	

編修者が編修上意図している使用期間については、**I**と**K**には教科書自体に明示されている所により、他の四種は教材の配列から推定したものである。

T・I・Fの三種は9月までに二冊終る。**Y・S**の二種は12月までに二冊終る。**K**はその中間にある。

また第一冊のブレ・プリマについては、それとほぼ同様であるが4月のもの5月のもの、7月のものの三種類ある。

2. 文 字 の 提 出

ブレ・プリマは、どの教科書も、話し聞く学習に重点をおき、その資料としての場面をさし絵によって与えている。文字の提出のしかたはいろいろである。

T——この本は、他の5種と比べて著しく文字の提出が少ない。すなわち、7ページまでは絵だけで8・9ページになって初めて、よしこさん、おはよう、はるおさん、おはよう、と出てくる。

I——3ページから文字を出しているが、初めはもっぱら動物の鳴き声で、ここ、ここ。け、け、け、け。うう、わん、わん。とあり、8ページに至って、おはよう、という語が出るが、以後もやぎや牛馬の鳴き声がよく使われるのが目につく。

F——初めの9ページまでは絵だけで、10・11ページにくにお、さん、あか（犬の名）くにこさん、しろ（犬の名）と出てくる。そして他の本が初めのうちは、あいさつ語を多く使っているのに対して、形のとのった文にはいってゆくことが早い。

K——2・3ページだけが絵で、4ページでは、くろ、くろ。わん、わん。を二度繰り返しているのに始まって、文字提出の速度や量が大きい所に特色がある。

Y——12ページへ行って、しろ、しろ。こい、こい。と出るのが最初である。

S——4・5ページから、まことさん、はい、と出てくるが、初めのは文字の提出はごく少なく、上巻全体を通じて、繰り返しの韻文形式のものが多く、普通の散文形式のまとまった文というものが少ない。

ひらがなは、いつごろ出そうか。

Yと**S**では1学期の末、すなわち上の終りまでに46のひらがな清音が出そうといっている。**T**では中巻の終りにやや近い所であるが、これも1学期末である。**I**は上の終りで39字出て、中の半ばごろ、おそらく7月の月上旬に大体出そうことになる。**K**はわりあい早く、上の終り(5月末)に41字出るが、全部出るのは9月にはいつてからのようである。**F**も中の半ば、1学期末には大体出る。

「ぬ」「へ」「む」「め」「ゆ」などが、共通して提出がおくれやすい。

濁音・半濁音も大体2学期のあまりおそくならないうちに出て、拗音のいろいろな形も2学期末まではかなり提出される。促音「つ」、長音の「う」は提出が早い。

清音が出ないうちにそれに相当する濁音や、「は」「(ハ)」「へ」「(ヘ)」「つ」より先に「は」「(ワ)」「へ」「(エ)」「つ」(促音の)などが出ない方が望ましく、またそれをうたっているものもあるが、実際には必ずしも理想どおりはっていない点が見られる。

漢字はどうなっているか

プレ・プリマーに漢字を出しているのは、6種のうち**S**だけで、10字提出している。6月の終りごろからということになる。その他はみな第二冊目のプリマーになってからである。**F**と**K**は6月の初め、**T**は6月の半ばすぎである。

一年生全体としての漢字出数は次の通りである。

現行一年生用国語教科書の漢字提出数

	I	Y	T	F	S	K
上	0	0	0	0	10	0
中	11	20	12	17	23	24
下	23	20	31	30	16	43
計	34	40	43	47	49	67

くぎり符号はどうなっているか。

句読点（、・）は、**T**では巻一では使わず、巻二にはいってから用いている。**Y・I・K**では最初から使う。**F**では・は上の半ばから、、は上の終りに出る。**S**では上の巻末で初めて句読点を使っている。

対話の「」は、**K**だけがプレ・プリマーの最初から用い、**S・I・Y**では巻一には使っていない。**Y**は5月の上・中旬ごろ、**F**は5月の末である。

3. 語 い 量

次に、どれくらいの語数が使われているかを調べてみる。

どの本にも新出語表が付いている。どのようなのを新出語とみなすか、その基準の取り方によって、出てくる数に相当の差があるわけだが、今はその付表をもとにして概数を出すと次のとおりである。

F——350, **S**——460, **I**——500, **K**——630, **Y**——720,
T——730,

この数字は異語数である。いずれも助詞、助動詞の類は含んでいない。このうち**F**はすべての語をあげたものではないらしく、**S**もあいさつ語などあげていないようである。

B 入門期国語学習指導法の実態

1. 調 査 の 方 法

一般に国語学習の実態の把握には、実際に授業を参観すること、研究授業の指導案をみること、さらに、教師用書の学習指導の展開例をみることなどの方法がある。しかしそのどれも、その限り個人的なものであり、また、実態そのものよりも当事者の規範意識にかかわることが多い。

われわれは、この点を押えれば学習指導の実態を推測することのできると考へられるいくつかの問題をふくむ質問書を発して、その回答を整理することによって、そこに一つの傾向を見出そうとした。今は特に入門期の学習指導の方法形態であるが、29年の1月中旬に、

- (1) 最初の文字の提出とその完成の時期
- (2) 教科書の使い方
- (3) 文字を中心とした学習指導の方法
- (4) カリキュラム
- (5) 困難点

について、「入門期国語指導の実態に関する質問」という質問紙を、全国の協力学校その他の学校に配り、学校長、担任教員、国語主任の書任において回答してもらった。

以下に掲げるのは、その整理の一部分であって、今後こうした方法によって、単に入門期だけでなく、低学年・中学年、高学年さらに中学校・高等学校に至るまで、国語の授業としてどういうことがおこなわれているかという実態を明らかにすることができると思う。なお、学年の段階の進むにしたがって問題点が異り、質問事項も違って来るものであることはいうまでもない。

2. 入門期のカリキュラム

これについては、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことの四つの領域に分け、4月第一週から12月までの学習指導の重点の置きどころについて書いてもらった。重点のおき方を点数化して、農村的学校5校と都市的学校5校との合計を示すと次のようになる。この表で、書きこんでないのは全然重点が置かれなわけである。また、合計6点以上を特に太字にして目立つようにした。

農村の入門期国語カリキュラム

時 部門	4 月				5 月				6月	7月	9月	10月	11月	12月
	第1週	第2週	第3週	第4週	第1週	第2週	第3週	第4週						
聞くこと	5	6	8	8	4	4	4	4	3	2	2	3	5	5
話すこと	7	7	8	8	7	7	7	7	6	5	4	6	5	6
読むこと				2	4	5	9	9	10	7	7	7	5	4
書くこと							1	3	7	9	9	7	5	5

都市の入門期国語カリキュラム

時 部門	4 月				5 月				6月	7月	9月	10月	11月	12月
	第1週	第2週	第3週	第4週	第1週	第2週	第3週	第4週						
聞くこと	7	9	10	10	8	7	7	7	5	5	6	4	4	6
話すこと	6	7	7	7	9	9	9	9	9	9	9	6	5	5
読むこと	1	2	2	4	4	4	5	5	7	7	9	10	9	8
書くこと			1	1	2	2	2	4	5	6	7	7	9	9

この表からいえることは次の通りである。

- (1) 都市・農村を通じて、4月5月はだいたいにおいて話すこと、聞くことが中心である。
- (2) 都市・農村とも5月の末、あるいは6月にはいって、読むことが中心となり、書くことはさらにそのあとからはじまる。それは、6、7、8、

9、10、11月頃まで続く。

- (3) 聞くこと、話すことでは、都市の方が聞くことを重んじ、農村の方が話すことを重んじる傾向がある。（これは実際の児童生活に基づくものと思われる。）
- (4) 全体的には、都市の方が聞くこと、話すことを徹底させてから、読むこと、書くことにはいろいろとしているのに対して、農村では、かえって、早くから読み書きを教えているという傾向が見られる。
- (5) たゞし、いくつかの都市の学校では、相当早くから読み書きを教えている。（これも実際の児童の学習意欲をもりあげようとしたものと思われる。）

そのほかにも、いろいろのことがわかるが、これはほんとうの実態そのものではなく、回答者の頭の中を通したものであることを忘れてはならないであらう。

3. 入門期指導の困難点

これについては、次の8項に◎○×をつけ、なおその他にも書き加えてもらった。これを×を0点、無じるしを1点、○を2点、◎を3点として計算すると次のようになる。10点以上、合計20点以上を目立たせるために太字にした。

入 門 期 国 語 指 導 の 困 難 点

困 難 点	農 村	都 市	計
(1) 教師の話をよく聞いていない	5	6	11
(2) 発表しない	7	10	17
(3) 国語の教科書を読みたがらない	2	0	2
(4) 文字の書きかたが乱暴だ	10	5	15
(5) 児童に生活経験が足りない	5	5	10
(6) 学校に絵本その他の教材や教具が足りない	6	7	13
(7) 個人差がありすぎる	10	12	22
(8) 遅進児がいる	11	7	18

都市・農村の両方を通じて学習指導上最も困難を感じているのは、個人差がありすぎるという点である。農村では遅進児がいるという第8項にも点数が多いが、これも個人差の一面である。なお、都市の学校で、「幼稚園・保育園へ行かない児童が、行った児童におされてしまうため、劣等感を持ってしまって、いつも活動が鈍い。それを引き立てるのに苦労した」と書いて来た学校がある。

その次には、都市の方では「発表しない」ということ、農村では「文字の書きかたが乱暴だ」というのが多い。これについてわれわれは、昭和27年の学力水準調査国語科の付帯調査として、学校・学級調査の中に、国語の学習指導において困難を感じている点、指導上特に力点を置いている点を書いてもらったのであるが、その時には、小学校では漢字を知らない、中学校では発表しないというのが困難の最高であった。中学校ではその他に、個人差の問題と、教科書の教材が多すぎるというのが出ていた。

都市の子供は発表するし、農村の子供は発表しないでこまるのではないかとすると、そうではなく（少くとも指導者の意識としては）、都市の、ことに女子はやはり発表しながらないのである。これと関連して、やはり都市の学校で「知っていることをひとりで話してしまう児童がいるので、他の児童の学習意欲を阻害した」と書き加え来たものがあった。

都市・農村を通じて、国語の教科書を読みたがらないという傾向が少いこととは結構なことである。

4. 文 字 の 導 入

次は、最初に文字を捉出したのはいつかという問題であるが、これは4月8日から4月20日までになっている。その提出のしかたとしては、人名特に受持教師の名前（例 えんどうせんせい）が多く、次は生活経験（例 えほんをみた）というのが多い。また、国語教科書の名前や最初のページを書い

たというものもある。

その取り扱い、つまり最初の文字教授としては、(農村と都市とをいっしょにして、10枚について)

書いてみせただけ 3

教師が読んでやった 4

みんなにも読ませた 6

である。中でも「教師が読んでやり読める子には読ませた」というあたりが多いようである。

次に、文字カード(あいうえおの一字一字について絵や単語を書いたもの)を学校の正規の授業として使用したかどうかという問いについては、使った学校4校(都市3校、農村1校)使わない学校1校である。使った学校は4月中旬から5月、6月であり、いずれも有効だったといっている。

五十音図については、10枚全部が教室に掲示してあり、中1校は、文字のところは空けておいて、習った順に書きこむようにしてあると答えている。しかし、それを授業として使ったかどうかということになると、

使わない 5校

とあり、特に使わないけれども、児童が見ているからそれだけの効果はあると考えたところもあった。*使ったところは4月中旬から5月、6月であるがそれぞれの時期にふさわしい使いかたをしたのであろう、みな有効だったと答えている。

経験チャート(子供が経験したことを、黒板に書いて文字に慣れさせるという方法)の使用は、

たびたび使用した 6校

少し使用した 4校

全く使用しない 0校

であり、有効だったと報告されている。これは戦後の国語教育が主張する方

法の一つであるが、よく考えると、黒板にそうしたことを全く書かないということはないはずである。

さらに、固定文字板（単語や文章を大きな紙片に書いたもので示す方法）の使用については、

たびたび使用した 9 校

少し使用した 1 校

全く使用しない 0 校

で、たびたび使用したが断然多い。これにはその紙片の大きさを書いて来たところもあった、効果については一般に非常に大きいとされ、一学期中は特に多く使用したと報告して来た学校もあった。

5. 教科書の取扱い方

次に、国語の教科書を最初に取りあげた日時は、

4 月 9 日ごろ	1 校	4 月 16 日ごろ	1 校
" 10	2	" 17	1
" 13	2	" 18	1
" 15	1	" 27	1 .

となっている。28年4月13日と27日は日曜日であったが、これは何日ごろという問いであったから、記憶で書いたのであろう、全体として、農村の方が早く教科書を取り扱う傾向がある。

次に、それは国語の授業として何時間目であるかということ、4月9日のは第2時間目、10日、13日頃のは4、5時間目、17、18、27日のは18時間目になっている。この27日頃という学校は、最初は教科書も何もやらず、科目的にも分けず、生活訓練を主とするので、国語科としての授業もそれだけあとになり、4月の末でまだ18時間なのである、

その最初の教科書の扱いについては、

(1) 扱いかた、持ちかただけやる 1 校

- (2) それにさし絵や全体の概観をする 5校
- (3) 最初の単元の全部にひととおりふれる 1校
- (4) 最初の一ページあるいは二ページ 3校

となっている。だいたい、扱いかた、持ちかたをやり、そうして絵などを見させて意欲を起させ、それから第一ページのくわしい学習にとりかかるようである。

それでは、国語の授業にはいつも教科書を使うかどうかというと、

- (1) 国語の授業にはいつもたいてい使った 6校
- (2) はじめあまり使わず___月___日頃からたいてい毎時間使っている 3校
- (3) 必要のある時に使って、毎時間使うとは限らない 1校

(2)の何月何日からというのは、3校とも5月のはじめからといっている。

現に使用している使用教科書への注文はいろいろ書いて来ているが、題材が都市向きでありすぎるといような、題材の方面は除き、

文字が小さすぎる

文字の提出が早すぎる

文字の提出が多すぎる

漢字の提出のしかたが不自然である

漢字の提出が少なすぎる

といった批判があり、さらに、「6月の前半にことば遊びとして五十音を切り離して扱っているが、時期が早すぎるのではないか」といような一々の使用教科書に即した具体的な批判がある。また、「入門書の話し合いの間に五十音が全部出てくるようにしてほしい」という注文も出ている。プレ・プリマとプリマの二冊終って、第一学期が終り、あるいは第二学期中期にはいっているのに、まだ五十音の全部が提出されていないといようなものさえあるようである。

6. 入門期における国語学習指導の形態

入門期の国語学習指導は、児童の生活経験に基づいて、話したり聞いたりすることを通して、文字に親しませるとというのが、現今の大勢であり、それは多くの教科書の編修趣意書にも、公けの「学習指導要領」にも、また、教育学者の著作にも見られる。

われわれがここで、一般に国語学習指導の形態を、

- (1) 生活経験中心的
- (2) 教科書中心的
- (3) 基礎修練的

の三つに分け、入門期ではそれがどんな具合になるかということを上个回答から考えてみると、まず、最初に文字を提出した時に、教科書の名前や最初の文をとって、「かざぐるま」と書いたとか「まことさん、はい」と書いたという3校は教科書中心的学習であり、受持教師の名前を書いたり、みんなでしたことを書いたという7枚は、その限り、生活経験中心的であるといえよう。

次に、五十音図の作用については、使用した学校を仮りに基礎修練的とみる。経験チャートの使用はこれをたびたび使ったのは生活経験中心的とみる。固定文字板の使用は基礎修練的とみる。それから国語の授業にいつもたいてい教科書を使ったというのを教科書中心的の徴候とみる。これを合計して、それぞれ20点満点として示すと次のようになる。

生活経験中心的 $7 + 6 = 13$

教科書中心的 $3 + 6 = 9$

基礎修練的 $5 + 9 = 14$

これは、もっと多くの徴候をとらえて来るのでなければならないが、この限りでは入門期国語学習指導の一般的形態は、教科書中心的よりは生活経験

中心的であり、また文字の習得を主とするためにかなり基礎修練的なものであることがわかる。

7. 入門期はいつまでか

入門期、学級の80%以上の者がひらがな清書がだいたい読めるようになった時期を一つの目安とするため、それはいつかをきいてみた。

これについて都市5校では、

6月25日ごろ（それまでに要した国語の授業約50校時）

6月 末（約 50校時）

7月15日ごろ（約 70校時）

7月20日ごろ（約 90校時）

9月15日ごろ（約 90校時）

と回答され、農村5校では、

6月10日ごろ（約 40校時）

6月15日ごろ（約 48校時）

7月25日ごろ（約 65校時）

9月10日ごろ（約 88校時）

10月 中 旬（約140校時）

となっている。これは、「だいたい読めるようになった」というものの取りかたで、6月にも10月にもなるようである。またそれまでの国語の時間数についても、「国語の時間というものは厳密には数えられない」と書いて来たものが2校あったが、そうした点もあるようである。

ひらがな清書の全部の読みが完成するのは、むしろ、書くことがだいたいできる時期であって、その点からすれば、書くのがだいたい完成するのが読み方学習の入門期の終りであるといえる。そして、これについては、都市5校は、

7月20日 2校（所要時間数は省く）

9月10日

9月30日

10月末

であり、農村5校は、

6月末

7月上旬

10月18日ごろ

12月25日

12月末

というように回答の間に距りがある。これも「だいたい」という質問自身があいまいであるからであろう。質問のあいまいなことを棚にあげておいて、回答だけを論じるならば、入門期の終了に関する見方はそれほどはっきりしていない、厳密な調査を必要とする問題なのである。

C 入学当初における授業の実例

1. 第一週の授業

——絵本をみる・絵をかく・歌を歌う——

4月11日(土) 小雨

(4月9日入学式 7, 8, 9日授業 10日遠足)

授業前

(8時25分～8時40分)

かさの整理

名前の書いてあるのだけ出させ、教師が教室のうしろにならべてやる。

図書室へ絵本を取りに行く

師「先生がいいところへ連れ行ってやるから、ふたりずつ手をつないで……」

三階の図書室(書庫)へ行く。

師「鍵が合わない、鍵を取りに行行って来るから待ってて」

鍵を取りに行き2分ぐらいで帰る。

師「じょうずに待っていたかな」

師「ここなんの部屋か知ってる？」

児「知らない」

師「じゃあ見せてあげよう」

中に入れて、ひとりに2冊ずつ絵本(講談社の絵本)を持たせる。

師「もらった子は、こっちに行こうね」

歩きながら読みはじめる者あり。

師「お教室で見ようね」

「見ちゃあだめだって」などと呼ぶ者あり。

師「はい、見てもいいけど、お教室でゆっくり見なさい」

師「はい」「はい」といって渡す。

児童たちは大喜び。

廊下に出る。

師「さあ、さっきの順にならんで」

師「おやおや、そこで止まっちゃうとこまるなあ……だれかなあ……T君かな、S君かな」

教室にもどる。

遅れて来た児童2名あり。

「先生！この子、もらわないんだって」と叫ぶ者あり。

I 始業のあいさつ

(8時41分～9時)

師「お帽子をしまうことにしよう。……おはようございますをいうことにしよう」

師「ご本をじょうずに、いっしょに前におこう。……S君できないよ！……T君！
できた？……」

師「さあ、立っていよう」「いいおぎょうぎをしようね」

師「さあ、……おはようございます」

児「おはようございます」

一同席につく。

II 絵本を見る

師「本のない人はここにいらっしゃい」

遅れて来て本を持っていない児童に渡す。

児童たち絵本を見はじめ。

III 机間巡視

師「もう見ちゃったの？……(S君をさして)ぼくは口笛吹かないでね……見てしまったら、お友だちのところへ行っておかえてもらおう」

師「おもしろいなあ、なんの話だか知ってる」

T君遅れてはいつて来る。

師「どこへ行っていたの？幼稚園へ、(幼稚園が同じ校内にある)そう」

あたまをなでる。

師「T君にだれか本を貸してください」

「先生！見た」と叫ぶ男児あり。

教師に本を返す女児あり。

見たという本を教卓に集める。

教師机間巡視を続けながら、絵の話をしてやる。

「わあ！すごいすごい！」と叫び続ける男児あり。

「先生！2冊見ちゃった」と叫ぶ子あり。

教卓のところに乱暴に本を返す児あり。

師「おやおや、ご本が泣いてしまう。もう一回じょうずに出してごらん」

師「みんなじょうずにご本を見るね。そういうふうに見ると、ご本はいつまでもきれいでいいな」

「先生見た、ほかの本見せて」……次々と教卓に来る。

童謡絵本を歌いながら読んでいる女児あり。

師「おもしろいかな、とても好きな本あったかな……これがおもしろそうだな」

「先生！この絵ね、映画で見た」と叫ぶ男児あり。

師「おもしろい？」「わかる？」「何の絵？」

師「おうちにご本あるだろう……ない？じゃあ、よく見てごらん」

師「この字読めるの……どう読むの……そう……だんだん勉強しようね」

師「きれいな絵だな、なんの絵だろうな」

教卓のところに集まった本を片づけはじめた女児あり。

師「Hさんがいっしょうけんめいにご本を片づけている。えらいなあ」

師「それではわからない字があったら、先生がお話してあげるからきいてごらん」

「えい！こいつおもしろいぞ」と叫びながら本を見ている男児あり。

Ⅲ 教師板書

(9時～9時20分)

「絵本の絵を2冊、本の表紙に「えほん」と書く。

児童はその間本を見続けている。

本を取りかえるために教卓のところにどンドンかけて来る男児あり。

教師板書しながらうしろを向いて、

師「だれだろうな、とんとん音を立てて歩いているな。……じょうずに歩こうね」

またかけて来る男児あり。

師「A君だろう……A君じょうずに歩こうね」

V 机間巡視

師「ああ、おもしろそうだね……これなあに！ おおかみ？ ……よく知ってるね」

読んでしまった本を手でまるめている男児あり。

師「ご本をこうするとね。本がやぶけてしまうよ、こういうふうだね」

といって本のやぶれはじめたところを示す。

師「これは何の本だ？とり！ ぼくはこの中でなんのとりが一番好き？」

本をとりかえる教卓のところに、だんだんと強そうな男児が集る。

9時20分の状況

本をじっと見ているもの	32名
話し合ったりうしろを向いたり	8名
教卓のところにいるもの	5名

VI 休憩

(9時21分～9時30分)

師「さあそれではね、お便所に行きたい人もいるだろうね……ご本を机の上において、じょうずに静かに行って来よう」

教師入口のドアのところで見ている。

師「静かに行くお約束だったね」

絵本はだんだんと教卓のところに集められる。

「本かして」といって、絵本を集めてまわる男児あり。

師「そこへきちんとそろえてください」

師「じゃあ、このくらいにしよう。片づけるのはね。……ずい分じょうずに片づけられたね」

本は高く積んである。

師「四段ぐらいに分けてごらん」

師「いくつに分かれたかな？……さあ、ごくろうさま。じゃあお席につこう」

VII 話し合い

(9時31分～9時40分)

師「みんなの見た本がここに全部出て来た。いくつ見た？」

師「S君はみた？10箇所ぐらい？」

師「O君は？10箇所ぐらい？」

師「S君はおもしろい坐り方をしているね……M君は、」

師「一つ見た人、手を挙げて！」 (5・6人挙手)

師「二つぐらい見た人は？」 (10人ぐらい挙手)

師「じゃあこのぐらい見た子？いくつだな、ひとつ、ふたつ……(五冊)、もっとふやして、じゃあこのぐらい(8冊)？」(挙手7・8人ずつ)

師「じゃあとても好きだったお話？」

「チルチル ミチル」と呼ぶ男児あり。

師「Y君はどういう話が好きだった？」

師「またご本を見ようね。……きょうはご本を見てたのしかった？」

兄一同「はい」

師「きょうはこの本は図書室へあずけておこう。あした来たら見よう」

「あした休みだ」と呼ぶ男児あり。

教師ばらばらになったひと縊りの絵を示して、

師「今先生が持って来た時はなかったが、本がもう一冊できた。これはどうしたんだろう」

「らんぼうしたから」と私語する者あり。

師「みんな大事に本を見ようね」

VIII 板書を見る

(9時41分～9時45分)

教師、前に書いた絵本の絵のわきに、「きょうは、本を見たんだね」といいながら、

えほんをみました。

と板書。(音読している者数名あり)。

IX 話し合い

(9時46分～9時50分)

師「それじゃ、きのうみんなうちへ帰った時、ごあいさつができたかな？」

師「『ただいま』のよくできた人、手を挙げてごらん？」(一同挙手)

師「『いただきます』と『ごちそうさま』のじょうずにできた人？」(一同挙手)

師「『おやすみなさい』のできた人？」(一同挙手)

ON君とOT君は帽子はかぶっている。

師「『おやすみなさい』というとおかあさんはなんという、O君」(答えず)

師「とてもけんかのすきな人手をあけてごらん」(数名挙手)

師「けんかのきれいな人？」(挙手多数)

師「弱いからだろうね？そうか？」

「強いけどきれいだ」と叫ぶ男児あり。

師「Y君はけんかが強いけどきれいだって、えらいなあ」

師「きょうは雨が降ったけど、元気よく『行ってまいります』のできた人は手を挙げてごらん」(一同挙手)

師「雨の日と天気の日とどっちが好きだ？」

「天気」と叫ぶ者多し。

「雨が降らなければお米ができない」と叫ぶ者あり。

X 歌をうたう

(9時51分～10時5分)

教師オルガンに近づいて、「雨雨降れ」をひく。

みんな自然に歌い出す。

師「どこで習った、幼稚園？……ここへ出て来て歌ってもらおう、静かに」

10人(男児5名 女児5名)だけ出ないで他は教壇にならぶ。

師(席にいる10名の方を見て)「そこにいる子もいっしょに歌おう」

オルガンに合わせて歌う。終って席にかえる。

師「じゃあ、君お席でもう一度歌おう」(一同歌う)

師「いつ迎えに来てもらった？……幼稚園の時迎えに来てもらったの？……うれしかった？」

師「さあこんどは手を叩きながら歌おう」

みんな手を叩きながら歌う。

手を叩かなかった女児一名あり。

XI 絵を書く

(10時6分～10時45分)

師「雨が降っていたら、雨の歌をうたったので、さっき雨の絵を書きたいなあという子がいたけれど、書きたい人はうんと元気よく手を挙げてごらん」(挙手多数)

師「そう、じゃあ先生が紙を取りに行ってくるから、クレヨンを出していてごらん」
(教師廊下に出る)

教師わら半紙を持って帰り左の列からくぼる。

「雨の絵でなくて、好きな絵を書きたいな」と叫ぶ男児あり。

教師「好きな絵を書いてもいいよ」と答える。

絵を書かないといって紙をもらわない男女児数名あり。

紙をくぼり終る。

師「それでは、なんでも好きな絵を書いていいことにしよう。……絵を書きたくない子は、絵本を見たらどうだ……絵本を見たくないの？」

ふざけている男児3名あり。

師「O君、ご本見なさい。(『いやだい』と答える) そんなわがままはこまるなあ」

XII 机間巡視

O君教卓のところに飛びだして来て、「本読もう」という。

師「O君、本を見るようになったの、えらい！」

師「S君も見ろの、えらいなあ」

師「これはなんの絵？うさぎさんか……じょうずだな」

「先生！これ張るの」と問う児あり。

「あれ(背面に前回の自由画が掲示されている)をとってしまわないと張れないね」と答える。

「先生！書けた」と叫ぶ男児あり。

師「先生に見せて、ほう！じょうずだね、お名前も書いた？」

書き上げた絵を教卓のところに出した男児あり。

教師その児に向って、

師「Z君ここを片づけてください」

机間巡視をつづける。

「先生！書けました」と叫ぶ子あり。

師「これなんの絵、さくらが咲いてるの？」

師「おや、お名前がないと返す時に迷子になってしまう」

師「この絵だれだったな、お名前が白で書いてあるから、先生読みにくいなあ！色で書いてくれる？」

師「これはなんの絵？……これはだれ、わたし？ちがう？……なにしているところだろうな……これが出たところ、いい絵だなあ」

書き終って窓際に近づき外を見ている者数名あり。

師「さあ、できた子は、お道具をかばんの中に入ったら、ご本を片づけるのを手伝って」

10時45分の状況

絵を書いている者 7名

絵本を見ている者 6名

教卓で片づけている者 8名

他はじぶんの道具を片づけているもの、本を頭の上ののせてふざけているもの、よその机の方に行っている者。

XIII 帰りの仕度

(10時46分～11時)

師「いま、おうちへ持って行く手紙をあげるから待ってて」

教師廊下へ出て、やがてプリントを持って来る。

師「じゃあ、お帰りにしよう」

師「このお手紙をあげるから、濡れないように入れて行こうね」

端の方からプリントをくばる。

師「それではかばんをを机の上にきちんとおいて、……T君、帽子はまだかぶらないでかばんをそこへ出して、……みんな用意ができたかな」

教師、教室のうしろの雨具のおいてあるところへ行く。雨がっぱを取り上げて

師「じゃあ、先生が名前を呼んだ人だけ取りに来る、はいO子さん……」

師「それじゃあ、こうもりはどうしよう。……S君！大きな声で返事が出来たらりこうだぞ……」

雨具の始末が終って教師正面に帰る。

IV X 終業のあいさつ

師「では、かばんを机の上において……せっかくしょったけれどもおろしなさい！

S君！O君！ かばんが肩にくっついちゃったかな、もう一度おろそう。お約束だからね。S君もちゃんとおろしなさい」

師「それでは先生が大事なお話をしよう。……もういい……耳は大丈夫かな？……あしたは？」

「日曜」と叫ぶ者数名。

師「一年生になってはじめての日曜日だからね。……あしたが過ぎると、あさってはおかあさんがたが集る日だから……いいあんばいにこの雨もきようじゅうに止んで、あしたはお天気だそうだが。あしたの日曜にけがをしないように」

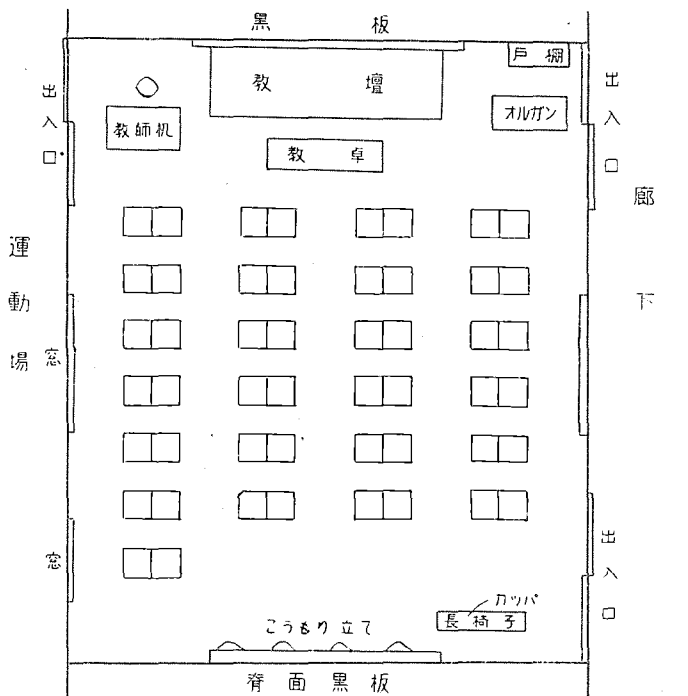
師「かばんをしょって、こしかけを入れて、……雨がっぱは先生が玄関で着せてやるから……さようならをしよう」

師「さようなら」

児「さようなら」

(11時)

教室の配置



板書

前日までの分——さくらの樹の絵……黒板の両側

「みなさん おはよう」……右の下の方

遠足に行く男児と女児の絵、……中央

「きょうは えんそく、……中央、絵の上の方

きょうの板書——絵本2冊の絵……中央、やや左手

「えほんを みました」……絵の下

掲示物

固定文字板——（「こくばん」「ほうき」「はたき」など）

k 自由画（背面黒板に）……ほとんど署名してある。

（自分の名前はだいたい書ける）

2. 第 二 週 の 授 業

—— 国語教科書の最初の取扱 ——

4 月 13 日（月）晴

（8 時 25 分—8 時 45 分）

朝 礼 前

登校した子供たちは席で絵本（学校図書館の本が教卓の上につんである、それを自由にとって行く）を見ている。

教師入室。 黒板に書いてあった

えほんを よみました。

を消して、板書。

みなさん おはよう

きょうも

げんきで

おべんきょうを

しょうね

師「お席について」

絵本を教卓に返させる。

ふたりずつ子をつないで、整列させる。

外に出て全校朝礼を見させ、再び入室。

I あいさつ

（8 時 46 分 —— 8 時 55 分）

手を膝の上におかせ、先生の顔を見させる。みんなに「げつようび」と言わせる

II 話しあい

師「日曜日にどこへ行ったの」みんなにたずねる。みんな勝手にしゃべっている。

・教師板書、「先生、何を書くの」という子あり

III 歌を歌う

(8時56分 — 9時5分)

日の丸の旗(絵)

みんなでひのまるの歌を歌う。

師「おてだけ叩いておゆうぎをしよう」といってもう一回歌わせる。終り頃、

「べんきょうしたい、本なんか持って来て損しちゃった」と叫ぶ者あり。

IV 運 動

(9時6分 — 9時20分)

講堂へ行く。

リズム運動

ひのまるの旗の遊戯。

「ねずみとねこ」をして遊ぶ。

V 休 憩

(9時21分 — 9時39分)

VI 絵本をみる

(9時40分 — 10時)

みんな教室にはいり、好きな絵本をじぶんの席に持って来て見ている。

教師 机間巡視により 個別指導

(「おもしろそうだね」「これなんの絵」などという。)

VII 教科書を出す

(10時1分 — 10時5分)

かばんの中から机の上に教科書を出させる。

きちんと揃えさせる。

社会、国語、算数の本など一冊ずつ出させて点検する。

国語の本をあけて、扉のところを出させる。

VIII 話しあい

(10時5分 — 10時45分)

(I) 扉の話し合い

「みんなも道具を入れるかな」

「ここのお花は何だな」

「何年生だろう。1年生か3年生かな」

- (2) 次の目次のページの上下のカットについての話し合い

「ここにあるのは何ですか」

「この花は何だろう」

「みんなが見たチューリップがあったら、指で押えてごらん」

(にわとり、はと、ひよこを見出させる)

教師、説明のためそれぞれの絵を板書。

- (3) 第一、二ページを開けさせる。

「何をしているところだろうな」

(児童「入学式」「学校に行くところ」などと答える。)

「泣いている子はいないかな」

「この小さい子は一年生になったのかな」

「じぶんのおかあさんに似ている人がいるかな」

「いなかの学校かな、東京の学校かな」

「どうしてわかったの」

(児童「海がある」「お山がある」)

「ここにある本は何だろう」

「ここに二つ棒が立っているのは何だろうね」

(児童「門」と答える)

「みんなでいっしょにいてみよう」

(児童「モン」)

「ここにある大きなうちは何だろう」

- (4) 第三、四ページを開けさせる

「お話してごらん」

(児童「みんなに先生がお話しているところ」)

「ここでお話している人は誰でしょう」

(児童「校長先生」)

「この学校の校長先生に似ているかな」

「このうしろにあるのは何だろう」

(児童「ひのまるのはた」)

「この学校でも校長先生のうしろに日の丸の旗があったかな」

「ここにいるたくさんの子は何だろうな。中学校にはいるのかな、幼稚園かな」

(児童「一年生」)

「ここにあるお花は何という花かな」

(児童「さくら」)

「こっちにいる人は？」

（児童「先生」）

「こっちは、こちらにいる人たちは誰だろう」

（児童「おかあさん」）

- (5) 第五、六ページを開けさせる

「何しているところ」

（この間に、じぶんの本がなくなってしまった——下へ落したため——といっ
て泣き出す子あり）

終りのあいさつ

- (6) 本をいっしょにして、机の中に入れよう。

- (7) あいさつをして外に出る。

3. 第十週の授業

—— 文字の読み書き ——

6月13日（土）晴

始業前

（8時35分——8時45分）

朝会、ラジオ体操を終えて入室。

絵日記や家庭からの手紙などを出させる。

I 板書

（8時46分——9時）

師「きょうは何曜日だね。知っている人」（といいながら、板書。

きょうは

□ ようび

II 話し合い

みんな「土曜日」「土曜日」という。「ど」の字をふだんわきに掲げてある
五十音図表から見せて、

ど

と書き込み、□を消す。

師「じゃあ あしたは 何曜日」という。

みんな「日曜日」「日曜日」という。

Ⅲ 板書と質問

教師前の文に続けて板書。

あした

にち

師「じゃあ、この空いているなかに書いてもらおう」（といってその左の方へ少し低く、

あした

にち

というのを、四つ、白、黄色、赤、線のチョークで書き、さらに、その上に

し ろ

きいろ

あ か

みどり

と小さく板書。

Ⅳ 黒板に出て書く

（9時1分 — 9時15分）

指名によりK君、N君、Hさん、O君の四名が黒板に出る。

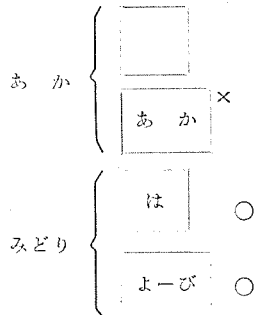
師「みんなよく見てね。字の書きかたを」

「ちがう、M子ちゃんの書き方」と叫ぶ児童あり。）

Ⅴ 批 正

師「それではね。あそこへ、いいのは○、こういうようにおまるを、悪いところへは×をしてもらおう」（といって、それぞれに分けて四名挙手指名）

し ろ	{	は	×
		ようび	
きいろ	{		×
		よ び	



師「じゃあ みんなで調べようね。……」

師「こっちを読んで」

右の方にある はじめに書いた

きょうは

どようび

あした は

にち ようび

をみんなに読ませる。

師「じゃあ この中のどれを書いたらいい。

といって は と ようび とを指させる。

師「じゃあ、合わせてみよう」

まず「しろ」の点検

Y君「『は』がちがう。ぼうが長すぎる」という。

師「じゃあ、ここを(はの左のぼうを)削って、これにしようね」

といって「は」のぼうを短くする。

次は黄色の点検

師「ここは何か足りないね」

みんな「う」と叫ぶ。

師「そう、えらいね。誰が書いた」

みんな「N君」

師「きょうはここを覚えようね。じゃあ、ここに書いてもらおう」

挙手指名により正しく書かせる。

次は「あか」の点検

師「じゃあ、この次のをなおしてもらおうO君」

O君「は」だけ書く。

師「じゃあ、ここを読んでもらおう。Y君に読んでもらおう」

Y君、「ニチアカ」と読む。

師「じゃあ、これを誰かになおしてもらおう」

といって挙手指名で訂正させ、その子に読ませる。

次は「みどり」の点検。

師「さあ、その次はね、こう書いてあるね」

といって、そのわきに

よーび

と書き、「このどれがいけないの」という。

みんな「まんなか」と叫ぶ。

それによって訂正する。

VI 読 む

(9時16分～9時20分)

教師こんどは最初にかいた向って右側の方を指して、

師「じゃあ、これを読んでもらおう。T君(ちょうどその直前にふざけていた)立ちなさい(T君立たない)。S君(やはりふざけていた)立ちなさい(同様に立たない)」

師「じゃあ、A君(きちんとしている)立って」(立つ)

師「先生のまねをして読んで」A君読む。

師「T君、立って」(立って先生について読む)

師「S君、立って」(同様)

師「はい、えらいね、こんどからそうやるんだよ」

師「Aさん立って」(立たない)「Hさん立って」(立たない)「Sさん立って」(立つ)

師「えらい、えらい、じゃあHさん立って」(立つ)Aさん立って(立つ)。……

えらい、えらい、じゃあ立った人とみんなでいっしょに読もう」

みんな先生についてよむ。

師「HGさん、立って(立つ)K君立って(立つ)Mさん立って(立つ)……」

そのうちに「ハイ、ハイ」と連呼するようになる。

師「S君、立って」(S君、「はい」といって立つ)

はい、はいの連呼つづく。

師「ちょっと待って、今、いいお返事ができたぞ」

といってS君の方を向いて「もう一度いって」、とS君「はい」と答える。

師「じゃあ、みんなもいっしょに立って、字をよく見て読んで行こう」みんな読む。

VII ノートに書く

(9時30分～9時45分)

師「じゃあ、みんなでお帳面を出そう」

「先生、社会ない、社会ない」という者多し。

師「国語のお帳面と鉛筆を出す」

この間、教師の最初の板書だけ残して、しろ、きいろ、あか、みどり、の児童の書いたものは消す。

師「さあ、きょう書くところを、人指し指でぽっとおさえてごらん、先生が見せてもらうから」

机間巡視

(そうそう……どこから……ここから書きなさい。……等々と指導して歩く)

VIII 書くことの指導

師「じゃあ、なんて書こうな、先生みんなが今書いた字を書こうと思うんだがね。

鉛筆を持って、あげてごらん、先生のまねをして鉛筆を動かしてごらん」

き (いっしょに整書させる)

師「これだけ先に書いてごらん」

みんな帳面に書く。

師「この『よ』はどちらの方へ書くの、まんなか、はじっこ、」

「右の方」と答える者あり。

教師まず を書いて次にその中に「よ」とかく。

よ

みんな「書きました」「書きました」と叫ぶ。

師「この次は何という字だ」

みんな「う」という。

教師「う」と板書。

「書きました」「書きました」という声が起る。

次に「は」を同様の方法でかく。

師「じゃあ、こんどは何とかく」

みんな「どうび」

師「こんどは四つ書くんだね。どうびって、四つ書くんだよ」

机間巡視

師「書けた？ さあこんどは『あした』だ。今、先生見たんだけど『どうよう』の時に、この『よ』を小さく『どうようび』と書いている人があるね。これははじめから大きく書くんだよ。小さく書いた人はなおしなさい」

師「じゃあ、あしたは って書きますよ、手を上げてください」

板書 セ

師「はい、ここまで書いたら手をおろすんだよ」

「書きました」という者あり。

師「ちょっと待ってください。よく見て、このどれが好きだ」

板書 セ 十 ナ ナ

みんな「こっち」「こっち」といって正しい方を指す。

師「そうだね。こう丁寧に書くんだね。じゃあ続きを書こう」

といって板書のえは、セに続けて、「第三筆はどの辺からだ」といいながら途中まで書き、「あとは、おひげかな、いばるかな」という。

「おひげ」「おひげ」という者多し。

教師書き終る。

師「じゃあ、それ（あ）と書いて」

書く。

師「じゃあ、その次を書くからね」

といって、次の「し た は に ち よ う び」を書く。そして、

師「もうこれでおしまいだから、ここのとこに何かつきたいね」

児童たち「マル」「マル」と叫ぶ。

師「そう、ここのとこに小さなマルをつけるんだ」

「先生、お便所」といって来る者あり。

師「そう、書けたらいっていらっしゃい」

だんだん便所へ行く。

教師その間に、机間巡視して、書けていない者に対して、指導する。

子供達が落ちついたところで、

IX ノートの点検

師「さあ、お席について、もう一度『きょうは どうようび、あしたは にちようび』って書いて、書けた人は、先生に持って来てください」

といって、赤チョークで板書

もういちど きれいに ていねいに かいてください

教師、教卓の前にすわり、ノートを点検。すぐにノートを持って来る子あり。

「もう一度書いて、持っていちゃい」といって返す。

できた子には「じゃあお道具をしまって」という。……「お丸をもらったら、お外へ出ていいよ」といってノート点検を続ける。

X 第一時終り

(9時40分)

4. 三つの授業例への批評

第一週の授業は次のような特色を持っている。(1)絵本をとりあげている。点、(2)絵本すなわち本の取扱いについて、こまかい注意と指導をしている。点、(3)文字への導入を試みている点、(4)図画をかかせたり、歌を歌わせたりして、自由な表現とたのしいふんいきを作ろうとしている点などである。

これらはいずれもこの期の授業としては大切なことであって、まことに結構な授業であると思っている。

入門期であるこのころにおいては、いきなり、文字や教科書の読みへはならず、まず自由にたのしく話し合うこと、人の話をよく聞くことが大切である。

絵本を見させることによって、子どもがひとりごとをいうか、となりの子どもに話すか、あるいは先生に話しかけるかするであろうが、どんな片言隻句でもよいから、それをとり上げて、育てて行くことが大切である。

絵本には若干の文字がその中にはいっていた方がよいが、第一週目の授業としては、読める子は別だが、一般的には、文字にはあまりふれない方がよいであろう。ことにいなかの子どもは、絵の理解だけがやっとなであろう。

次に、いなかでは図書室や学級文庫があまり完備していない学校もあるであろう。そうした場合は、何もこの授業のように、一人に一冊ずつ与える必要はなく、一冊の絵本を二三人ずつで見させてもよい。むしろこの方が話し合いができておもしろいかもしれない。

さらに、絵本がほとんどない場合は、教師が黒板や紙に絵をかいたり、他の教師の掛図や写真を利用したり、紙しばいをやったりしても、このような授業ができる。

要するに、絵本や絵を媒介として、話したり聞いたりする言語活動をさかんにやらせて、ことばを知り、やがて文字と結びつけようとしているのである。

なお、いなかの学校などで、幼稚園へも行かず、子どもが学校へなれずに
おどおどしている場合は、心ずしも第一週目から絵本にはいらなくともよく、
遊びや行動を通して、話す聞くことを活潑にやらせ、それからことばの指導
をやることもできる。

第二週の授業は、はじめて教科書へはいる時のはいり方であるが、この程
度なら、いなかの子どもにも扱えると思う、ただし、一度にこんなにかくさ
んのページを扱うのはどうかと思われる。

第一週第二週の授業を通じて、気になることは、先生が板書された文字
「えはんをよみました。」「みなさん おはよう きょうも げんきで おべ
んきょうを しょうね」というのである。これが文字板学習的の意味を持
ち、文字への一種の導入であり、親しみを持たせるためのものであるなら
ば、この文字は、むしろ、子どもの言ったことばをとり上げて書いてもらい
たい。その方が有効であろう。

第十週の読み書きを中心とした授業は、こういうやり方も、もちろんおも
しろいし、大へんよい授業であるが、こうしたやり方は、一般的には少し高
度に過ぎないかと思われる。

このやり方は、話し合いからいきなりはいって行くようであるが、これは
一種のテスト形式ともいえるやり方である。こういうはいり方でなく、やは
り教科書やまたは文章を先きに読ませて、よく読めるようになった後に、さ
あ書いてみようといって、書がせる。つまり一つの文章を先によく読ませ
た後に扱った方が自然であり、またその方が取扱上も、楽ではあるまいか。
もちろん□の中へ文字を入れさせたり、抜き出させたりすることは、結構で
あるが、この授業のように、いつも生活からばかりはいることはどうかと思
われる。もちろん書く必要感に立たせるという意味はわかるが。

文字の読み書きの練習は、それ自身取り出してこのようにやることもよい
が、単に学習の中で、いろいろの言語活動の中で適切にやるのが大切だと

思っている。要は、文字の読み書きは、授業者各自がもっともよい機会をねらって、もっとも有効適切な指導を考えるべきであると思われる。

さらに一言いえば、文字や表記の規則は一度には数えないで単純化した方がよい。この場合でいえば、「きょうは」の「よ」と「どうよう」の「よ」とは同じ、「よ」であっても、大きさのちがうこと、つまり拗音の「よ」とふつの場合の「よ」の大きさや位置のちがいを同時に教えることは困難であると思われる。本時のねらいがそこにあれば別だが。

総じて、この三つの教授案は、いなかの子どもを対象とした場合は、少しく高いと思われる。しかし、その精神はどこまでもまねるべきであり、参考とすべきであらう。

以上、協力学校 神奈川県比々多小学校長 宮川利三郎氏による。

Ⅶ この問題に対する研究の大勢

A 日 本 の 文 献

児童語彙の研究 浪柳政太郎・田中末広・長田新共著

大正8年5月発行 菊判 372ページ

調査は大正7年4月14日から6月20日までの間に、成城小学校の新入学男児25名を対象として、あらかじめ用意された語彙6867語について行なわれた。

その結果は

最多——5,162語

最少——3,500語

平均——4,089語

このほかに、数詞・助数詞を少なくとも50語以上知っている。

語彙取得の要因として、地理的環境・家庭の職業が語彙の種類に影響があるとし、語彙量においては兄弟の有無、ことに姉妹の有無が関係が深く、老人に保育されたものは取得数が少ないこと、友人の有無も影響があることなどを考察している。

生れ月による年令の差は認めにくい。

児童の個性と語彙量との関係は発見しにくい、最少の8名だけについては次のような共通性が見られる。

内気 従順 女性的 小胆 不活発 神経的 温順 遅鈍

語彙の多い子供は概して、快活・活潑・こっけい・わがまま・負けずぎらいである。

以上が前編の調査報告で、後編に「欧米における児童語彙研究の概観」がある。

新入学児童の語彙の調査 千葉県鳴浜小学校職員研究会著

大正13年11月発行 菊判 236ページ

大正11年4月13日から7月31日までの間に、鳴浜小学校の新入学児童、男14名女15名（男児は全数、女児は任意抽出）を対象として、選択した11,908語について行なわれた。成城のが大都市の児童を対象としたものであるのに対して、これは農村の児童について調べたものである点が特色である。

その結果を見ると、取得語数は

最多——男 5,777 女 6,072

最少——" 3,972 " 3,373

平均——" 5,002 " 5,036

男児においては、大体4,800—5,300語の者が最も多く、女児にあつては4,600—5,500語を有する者が最も多数である。そして、男女おのおの $\frac{2}{3}$ 以上の児童が共通して理解している語数は3,000—3,600語と報告された。

語彙取得の要因としては、成城であげられた兄弟の多少は鳴浜では量の上にはひびいて来ないで、家庭の貧富、教養の度が、語彙の種類・数量の上に大きな差異をもたらしているという。

児童の語彙と教育 岡山県師範学校附属小学校著

昭和10年11月発行 菊判 264ページ

昭和9年6月—7月に、岡山市及びその附近の新入学児男女各14名を被調査者として調べたものである。

この調査は、前二者が聴解語を主とするものであったのに対して、聴解語と使用語とを区別して、両者をそれぞれ調べた点に特長が見られる。

その結果の概要は

聴解語 最多——6,906
 最少——3,338
 平均——5,230
 最大頻数・中間数——5,100

使用語 3,132

成城・鳴浜と比べて平均語彙数が多いのは、調査語が28,661の多きに上り、その内に方言訛語幼児語を約2,800も含んでいるためであろう。

児童の語彙と国語指導 長野師範学校男子部附属国民学校教科研究会著

昭和19年3月発行 A5判 449ページ

これは小学校1年3年6年の男女児童各1名を調査対象とし、3年の児童は1年の児童が進級するのをまけて実施した。したがって調査の時期は

1年 昭和14年4月—昭和15年3月
 3年 " 16年4月—" 17年3月
 6年 " " "—" " "

この調査の特色は、児童の使用語（作文・唱歌等を含む）を徹底的に追求し捕捉しようとした点にある。

結果については、1年生の語彙量だけをここに紹介すると

男—5,135 男女共通—4,828
 女—5,081

5年前の岡山の調査その他から見ると、量において著しい増加を見せているが、この理由を調査者は時代の変化、すなわちラジオの普及や児童読物の盛行など児童をとり

ましく社会的文化的環境の進展に歸している。

形象と理會 卷一 垣内松三著 昭和8年4月発行 B6判 319ページ

「初学年児童の言語生活」「初学年児童の説方」などの章で、内外の実態調査（ミス、ドロイシグなど）に基くデータを紹介し、文の長さ、種類、語の長さ、眼球運動などについて論じ、指導上の注意を述べてある。また、小説本巻一についての徹底的な研究がある。

国語学習論 垣内松三著 [国語教育科学第4巻]

昭和9年5月発行 菊判 311ページ

「児童の言語能力の発達」「言語能力の発達の諸因子」など、われわれの研究に直接つながる点が多い。因子として、社会的、（家庭・社会環境）生理的（性・遺伝・身体・言語障害）心理的（知能など）の諸因子があげられる。

児童の言語 松本金壽 [教育科学第19冊所収]

昭和8年4月発行 菊判 38ページ

大体学齢ごろまでの児童語に関する、主として欧米の研究を、音声・語彙・文の諸方面について紹介している。

児童語の表現 松本金壽 [国語科学講座57]

昭和9年4月発行 菊判 61ページ

従来のがわ国における研究業績を主たる資料として、音声・文法・意味の点から児童語を考察したもので、「児童の言語」の姉妹篇と言うべきもの。

幼児の言語発達 牛島義友・森脇 要 [愛育研究所紀要]

昭和18年2月発行 B5判 132ページ

第1編 語彙頻数調査 1才—6才の子供約100人について、30分間ずつ3・4回自由に話す場面をとらえて記録し、語の頻数を調べたもので、その概括の一部をあげると、

1. 動詞の活用形の使用状態を見るに、連用形・未然形・終止形が数多く使われている。年齢発達の的には満2才児ごろから現われ、3才児に急激に増加して居り、その後は特に増加してはいない。
2. 助詞は1才児では少数のものが使用され始めているが、大部分の助詞は2才児から使用され始め、3才児には著しく増加してくる。しかしその後の増加は別に著しくない。
3. 子供の言葉を通じてその心性を知る事もできる。たとえば敬語の「お」は

3・4才児ではむやみに使用するが、男児の場合は年と共に減じて来て、男の子らしい乱暴な権力的な性質が現われてくる。

4. この調査の結果、われわれが選定した基本的な 1,500 語の語彙で絵本、小学読本、成人の会話における語彙を測つてみるに、基本語彙以外のものは、小学1学年では 10 % くらいで、4 学年まで徐々に増加し、5 学年から急に増加し 30 % くらいにまでなる。

成人の会話の中には平均 15.4 % 含まれている。即ち吾々の基本語彙で成人の会話の 85 % まで間に合うと言える。これに対して今日の幼児用絵本に使用されている語彙には 14.1 % も基本語以外のものが含まれて居て、余りに語彙が多過ぎると言わねばならない。幼児用絵本は 5 % くらいに止むべきであろう。

第2編 幼児の文章の構造 前と同じ材料によって、30分間に話された文の数、文章の長さ・種類などについて調べたものである。

その大要は

- (1) 一定時間に発せられる文 (remarks) の数は、3才児までは年令と共に増加するが、その後増加せず、ほぼ一定である。男女の差について言えばそれぞれの年令において男の方が多い場合と女の方が場合とがあり、いづれが多いとも決定しがたい。
- (2) 文章の長さについて言えば3才児までは年令と共に著しく増加するが、その後は大して増加せず、3才児より4才児へは増加がほとんどどなく、4才児より5才児には若干増加するにすぎない。男女を比較すれば、女の方がすぐれている。(而して外国の研究結果に於ても同じことが認められている)。
- (3) 発音 (articulation) は5才児において大体完成すると見ることができる。男女を比較すると、この研究結果からは、いづれがすぐれているとも決定し難く、この点外国における研究結果と異なる。苟 articulation において起きる欠陥は個々の音が発音できない場合だけでなく、個々の音は正しく発音できても、それらの音がある組合せをなす時発音できなくなる場合が多い。
- (4) 命令文は年令と共に段々に減少して行く。それは男女いづれについても言える。男女を比較すれば女の方が命令文が多い。
- (5) 疑問文は3才児まで年令と共に増加するがその後は増減せず。男女を比較すれば、それぞれの年令においてある時は男が、他の時に女が多くて、男女いづれが多いとも一義的に決定し難い。
- (6) 従属文はほぼ年令と共に増加するが、3才児が他の年令に比較して著しく多い。男女を比較すればいつの場合でも女の方が多い。
- (7) 不完全文の百分率は2才児以上は大して増減なく、男女間の一義的關係も確定し難い。

第3編 幼児語彙検査 2才から就学前までの幼稚園児 1,000 名について昭和15年

9月——昭和 16 年 7 月に調査したもの。そのまとめの一部をあげると、

- (1) 使用力と理解力との相関は 0.6 くらいである。
- (2) 性別との関係はあまりなく女兒の方が特に言語が発達しているとは言えない。
- (3) 知能との関係はあまりない。使用力の方は 0.45 くらいの相関があるが、理解力との相関は 0.18 以下である。
- (4) 親の職業と子供の語彙成績とは密接な関係があり、専門的職業と農業との差は偏差値で 15 点以上ある。
- (5) 親の年齢は父 30 才代、母 25—34才の者が最もよく、年配の進んだものの子供ほど悪い傾向がある。
- (6) 同胞数は一人子が一番成績よく、多くなるほど成績悪くなっている。
- (7) 友達がなくて親と遊んでいる者の方が成績よく、多くの友と遊んでおる者はよくない。また年長児と遊ぶ者の方が言語発達はよくなっている。
- (8) 以上の諸事実により 語彙発達には社会的な生活条件が著しく影響しておることを知る。

児童の言語 矢田部達郎著 昭和 24 年 9 月発行 B 6 判 329 ページ

目次だけを紹介すると、

- 1 言語と児童語、2 言語の習得、3 語彙と語彙検査、4 文の構造、5 言語発達を規定する諸条件

内外の資料によって平易に説いてある。

言語の発達 阪本一郎 [東京教育大学内児童研究会編「ことばの指導」

昭和 25 年刊 に所収] B 6 判 85 ページ

著者自身が調査し発表したものを引用しているが、それによると語彙量の発達は、わが国語の普通の語彙を 10 万と見て、推算すると次のようになる。6 才から 12 才までをあげると、

5,661 6,700 7,971 10,276 13,878 19,326 25,668

小学児童の作文における文章の長さを、語数と文字数で表わすと次表のようになる。

〔学 年〕	平 均 語 数		平 均 文 字 数	
	男	女	男	女
1	8.3	9.3	17.6	25.1
2	11.6	11.4	29.7	31.7
3	13.3	11.7	32.3	32.1
4	15.1	13.2	33.0	34.5
5	14.6	12.5	33.3	33.9
6	15.7	14.1	37.7	34.1

ひらがな・かたかなの習得の過程と指導法上の問題

神奈川県津久井郡串川村立中央小学校

昭和 28 年 5 月発行 プリント B 5 判 170 ページ

これは昭和 27 年度の文部省実験学校に指定されて、かたかな・ひらがなの学習について調査した結果の報告書である。

ひらがなは 1・2 年生、かたかなは 2・3 年生について、その習得の過程や困難点を詳細な数字によって示し、指導上の問題を考察している。今、1 年生のひらがなの習得状況を少し紹介しておこう。

この学校の地域は山間の寒村で文化的、経済的に恵まれず、家庭の職業は農を主とし、それも多くは兼業農家である。調査の対象となった児童は男女合わせて 2 組 50 名内外である。

調査は 4 回にわたって行われた。

回	調査の期日	児童数	期日までの国語の時間数
1	27—6—11・12, 18・19	53 (48)	46
2	27—9—12, 13	52 (51)	46
3	27—12—23	46	82
4	28—3—24	49	64

問題の資料としては、5 月末日までに使っていた東書（柳田本）の入門編に提出のひらがな 26 文字で、これをそれぞれ既修の単語と未修の単語の両面から読みと書きについて調べた。

既修単語——①はるおさん ②おとうさん ③おかあさん ④おはよう
⑤ せんせい ⑥さようなら ⑦ただいま ⑧しろしろ ⑨みんなでおはなし
⑩おやすみなさい

新単語——①よしおさん ②あたま ③たろうさん ④もち ⑤せみ ⑥とこや
⑦はやい ⑧だるま ⑨からす ⑩なでしこ

ただし第 2 回だけは、文部省指示に従って、ひらがなの清・濁・半濁 71 文字について 1 字ずつ調べた。その中から例の 26 字だけを取り出して比較したものである。

第 1 回と第 4 回の既修単語の読みの正答率を見ると、

① 98% (第 1 回) —100% (第 4 回) ② 88.1—100
③ 90.6—100 ④ 69.8—98.0 ⑤ 92.5—100 ⑥ 73.6—100
⑦ 79.2—98 ⑧ 88.8—100 ⑨ 67.9—98.0 ⑩ 81.1—100

となって、学年末にはほとんど完全に読めることがわかる。

新単語について、同様に第 1 回と第 4 回とを比較してみると、

① 58.5—77.1 ② 50.9—100 ③ 49.1—95.8 ④ 58.5—100
⑤ 67.9—97.9 ⑥ 58.5—100 ⑦ 64.1—97.9 ⑧ 58.5—93.9
⑨ 58.5—89.6 ⑩ 58.5—100

第1回の結果を1文字ずつに直して、これと第2回の一字読みの調査と比較してグラフに書いてみると、大体相似形をなしている。このことは、文字の持つ抵抗度が一字一字の場合と未修の新単語とは、ほとんど同様の困難さを示すことを表わしているという。

第1回と第4回との調査において、示された語形カードを何人が拾い読みするをみると、

第1回	既修単語	53人中	9人
	新単語	"	32人
第4回	既修単語	49人中	5人
	新単語	"	2人

国語学習の心理 阪本一郎編 [教育心理学講座9]

昭和28年5月発行 A5判

この中に次のような研究がある。読書のレディネス 大西誠一郎(57ページ) 読書能力の発達 依田新・岡本奎六(57ページ)

入門期の国語教育 猪股辰弥著 昭和24年4月発行 B6判 219ページ

著者が国定教科書編修に携わった経験をもとにして、書名のとおりの入門期の指導一特に読みを中心として一について説いたものである。

著者は言う。『入学してくる児童たちが、もし普通の発達をとげている児童であれば、「聞く」とことと「話す」とことはどうやら身につけているものである。……一般的にいて「読む」とことと「書く」とことはまだできない。……入門期の国語教育においては、筋肉の発達という身体的条件から考えても、「書く」ということは、まだ無理な取り扱いである。まして自分の考えを文字で書くこと、いわゆる日記をつけたり、作文を書いたりすることなどは、とうてい望んでも得られるものではないのである。この期においては、「書く」とことの前に、まだ「読む」という困難な仕事が残っている。「読む」とことよりも一層やさしいと思われる「話す」とことすらも、入門期の児童はまだ十分に習得しているとはいわれない。名前を呼ばれてもはっきり返事のできない子供がいるし、また自分の思っている考えをうまく言えない子供も多い。「話す」ということも、入門期の児童にとっては大きな教育の対象となるものである。』

次にアメリカの代表的な教科書の一つを選んで、その1年生用を分析している。この教科書はブレ・プリマー4冊、プリマー2冊、第1読本1冊から成っている。

その単語負担と新語の分布をまとめると下表のとおりである。

		新語	旧語	総用語数	反復度数	新語の1ページ あたり最大数	新語のページ あたり平均数
ブ	1	22	0	318	14	2	0.49
レ	2	30	19	490	10	3	0.67
ブ	3	42	27	740	11	3	0.93
リ	4	17	41	1,176	20	1	0.25
マ							
第	1	100	82	3,388	18	3	0.84
リ	2	95	117	3,886	18	3	0.80
第	1	143	177	6,444	20	3	0.78

なお、国定の新語・旧語である「まことさん はなこさん」の語彙、単語とかなの頻度など調べ出している。

農村児童の言語生活の実態 神奈川県中郡小学校教育研究会報告書

昭和 29 年 2 月発行 プリント B5判 192ページ

「神奈川県中郡地方の児童についての実態調査」と副題がついている。宮川利三郎氏を委員長に各学校から選ばれた 14 名の委員が、小学校 1 年から 6 年までの男女 12 名についての 24 時間調査をもとにして、話し相手と話す量（発言回数および発言文数）話題、使用されている方言および敬語などについて分析を加え、さらに、その郡の児童 2,325 名を対象にして、話しやすい人、話しにくい人、よくわかる人、わからない人、よく話せるのはどんな時か、こまる時はどんな時か、教室でなぜ話せないかについて質問紙法によって調査したものを整理している。

話し相手についていえば、農村の児童は学校で話すことは多いが、家庭で話す機会が少ない。特に父を話し相手とすることが少ない。

話題についていえば、実用的話題、娯楽的話題、文化的話題に分けて整理してあるが、文化的話題といっても学校の学習事項以上に出ないうらみがある。

敬語については、使う場面が少なく、丁寧語の使用は 1 年生 2 年生の間が多く上級になるとかえって減っている。謙譲語は 5 年生 6 年生でないと出て来ない。ところが方言の使用は学年が進んでも案外減少していない。

よく話せるのはどういう時かというと、安心した環境にある時、うれしい時であって、話す事項がないとか、話術がないとかいう条件は、それよりも遙かに比率が低い。

以上のことが、さらにくわしい項目に分けて、たくさんの数表に基づいて報告されている。24 時間調査の対象として 1 年生から 6 年生までのよく似た条件にある男女各 1 名が選ばれて、その限りで言語生活の学年発達について考察が加えてある。

B 外国の研究状況

この問題に対する外国の研究状況を概観するのに必要な最近の文献の解説

読み方学習準備

ミルナー『1年生の読みのレディネスと親子関係の型との関係についての研究』

Milner, E. 1951. A study of the relationship between reading readiness in grade one school and patterns of parent-children interaction. *Child. Develop.* Vol. 22. No.2. 95-112.

読みのレディネスは既に学習以前の親子関係の生活の型によって形成され则认为、108人の児童の言語因子得点と生活の型の3方面からの調査によって得た得点とにより、仮説を検討した。

モルヘット、ワッシュブルス『読みかた学習はどの時期にはじめたらよいか』

Morphett, M and Washburne, C. 1931. When should children begin to read? *Ele. Sch. J.* 31 : 496-503

暦年令、精神年令のちがう第一学年児童の語い理解、音読、一般的な読書力の発達を比較し、読むことを始める最適の年令は精神年令 6.5 才だとした。

ブラット『読みかた学習と幼稚園経験の有無についての一考察』

Pratt, W. E. 1949. A study of the difference in the prediction of reading success of kindergarten and non-kindergarten children. *J. Educ. Res.* 42 : 525-33.

スティヒランド、プリヒタ『第一学年に入る子供の年令』

Stichland, R. G. and Plichta, P. 1949. Age of entrance into first grade. *Bull. Sch. Educ.* 25 : 7-12.

ベッツ『読みのレディネスの諸因子について』

Betts, E. A. 1943. Factors in readiness for reading. *Ed. Adm. Sup.* 24 : 199-230.

ウィルソン、フレミング『第一学年生徒の暦年令、精神年令、知能指数と他の能力、特色との相関、』

Wilson, F. J. and Fleming, C. W. 1937. Correlation of chronological age, mental age, and intelligence quotients with other abilities and traits in grade I. *Ped. Sem.* 50 : 323-27.

ゲーツ、ボンド『読みのレディネス：読みかた学習の成功失敗をきめる因子の考察』

Gates, A. I and Bond, G. L. 1936. Reading readiness : A study of factors determining success and failure in beginning reading. *Teach. Coll. Rec.*

37 : 679-85.

デビュティ『一年生の読みかた成績を予診する』

Deputy, E. C. 1930. Predicting first-grade reading achievement. Teach. Coll. No.426 : 45.

グレース『精神年令別クラス編成の結果についての量的考察』

Grace, A. 1925. A quantitative study of the results of grouping first-grade classes according to mental age. J. Educ. Res. 12 : 173-85.

読書語い

ゲントリ『プレ・プリマの語いに関する一調査』

Gentry, L. 1950. A study of the vocabulary load of sixty-six pre-primers. J. Educ. Res. 43 : 525-32.

1930 年以後に発刊されている 66 冊のプレ・プリマに含む語いを調べたところ、全部で 600 語のちがう単語が発見された。

オークス『プリマ語いの母音についての研究』

Oaks, R. E. 1952. A study of the vowel situation in a primary vocabulary. Educ. May : 604-17.

プリマを含む 4 リーダーの語いについて、母音とその結合とに関する分析をした。プリマでは 112 の単語がえらばれ、音節数 122、ちがう母音の位置数は 56 であった。

ブルーム他『効果的な読みかたの指導』

Broom, M. E. and others. 1951. Effective reading instruction. McGraw-Hill Book Company. p. 89.

ウォゼンクラフトはテキサスで使っているプリマ、一年の説本を調べ、児童はその内容がわかるためには 2,800 以上の語いに対する概念が必要なことを見た。

ブラック『プリマの読書語いに関する子音についての研究』

Black, E. B. 1952. A study of the consonant in a primary reading vocabulary. Educ. 618-23.

マクラッチー、ワルドウェル『第一学年の共通語のリスト』

Maclatchy, J. H. and Wardwell, F. H. 1951. A list of common words for first grade. Educ. Res. Bull. 12. 151-59.

ゲーツ『プリマ段階のための読書語い』

Gates, A. I. 1935. A reading vocabulary for the primary grades. New. York. Teach. Coll. Columbia Univ.

読む能力の発達

バスウェル『基本的読書習慣、——その発達に関する研究』

Buswell, G. T. 1922. Fundamental reading habits : A study of their development. Suppl. Educ. Monog. No.21.

小学一年生から大学生にいたる読みの発達を眼球運動の面から考察。眼球の停留数は一行につき、15—20（1年）、6（大学）、一停留の時間、500σ（1年）、250σ（大学）、停留の逆行、5（1年）、1以下（大学）となった。

ハリス『読む能力の発達のしかた』

Harris, A. J. 1948. How to increase reading ability. Longmans. 155-6.

1年生から6年生まで約1,505人の読書能力の発達をみた。

イルグ、アムズ『読書行動に関する発達の傾向』

Ilg, F. L. and Ames, L. B. 1950. Developmental trends in reading behavior. J. Genet. Psychol. 76 : 291-312.

1.3才から9才まで50人以上の児童の読書行動全般の年令的発達を考察。

書くことの学習準備

ヘルツベルグ『書きかた準備につかった諸方法の比較考察』

Hertzberg, O. E. 1926. A comparative study of different methods used in teaching beginners to write. Contr. Educ. No. 214. Teach. Coll. 60.

児童が簡単な図を写すテスト事態は運動・知覚能力に関する書くレディネスの発達水準を示すものとした。

ラッセル『つづるレディネスの診断研究』

Russel, D. H. 1943. A diagnostic study of spelling readiness. J. Educ. Res. 37 : 276-83.

つづるレディネスの因子を発見するための116人の児童調査。レディネスは一年上級で修得されるが、聴覚、視覚能力及び語認知、句読みの能力と書く能力とは密接な関係があることを認めた。

書く語い

マッキー『学校内外での児童の書く語い』

Mckee, P. (N.S.S.E. Forty-third Yearbook, Part II). The writing vocabulary of children in and out of school.

第一学年から第六学年にわたる児童の作品から、2,500,000語以上の延語数と12,000語のちがう語いを見出した。

書く能力の発達

クロトス『児童の書きことばに関する統計的比較分析』

Clotlos, J. W. 1944. A Statistical and comparative analysis of individual written language samples. Psychol. Monog. 56. No. 4 : 77-111.

108 人の児童の書きことばを分析し、年齢、知能の発達による言語構成の分化を調べた。

リード『小学校教科の心理学』

Reed, H. B. 1927. Psychology of elementary school subjects. Boston : Ginn and Company. 224-72.

キット『小学生がつづることができる時期』

Kyte, G. C. 1948. When spelling has been mastered in the elementary school. J. Educ. Res. 42 : 47-53.

タウンゼン『つづることと読むことと学業成績との関係についての調査』

Townsend, A. 1947. An investigation of certain relationships of spelling with reading and academic aptitude. J. Educ. Res. 465-71.

ハンナ、モール『話しことばから書きことばにつづる』

Hanna, P. R and Moore, J. T. 1953. Spelling from spoken word to written symbol. Elem. Sch. J. 53 : 329-37.

メンデンハル『つづりまちがいの分析』

Mendenhall, J. E. 1930. An analysis of spelling errors. New. York : The Lincoln School of Teachers College. p. 65

ブック、ハーター『生徒のつづりの誤り』

Book, W. F. and Harter, S. 1925. Mistakes which pupils make in spelling. J. Educ. Res. 18 : 106-118.

話しことばの語い

スミス『小学生から高校生までの語いの大きさの測定』

Smith, M. K. 1941. Measurement of the size of general English vocabulary through the elementary grades and high school. Genet. Psychol. Monog. vol. 24 : 311-45.

1 年生より 12 年生にいたる生徒の語いを Seashore and Eckerson Test により測定。第一学年児童の平均語いを基礎語、16,900 語、派生語 7,100 語とし、従来よりも高い見積りをした。

ウィリアム、ウィルキンス『学校に入学する前の語いについての研究』

Williams and Wilkins. 1928. A study of the vocabulary of children before

entering the first grade. Intern. Kinderg. Union.

アブリル『小学生の心理』

Averill, L. A. 1950. The psychology of the elementary-school child.
Longmans. 136-77.

デビス『品詞の分散に関する発達的变化』

Davis, E. A. 1938. Developmental changes in the distribution of parts of
speech. Child. Develop. vol. 9.

3才半より9才半にわたる児童の話しことばを分析。全使用語数、ちがう単語数と
による各品詞の出現率、及び使用度の極めて高い各単語に関する年令的発達を見た。
その結果、人間関係語が発達的に増加することが注目された。

グッドイナフ『子供の代名詞の使いかた——自我意識の発達についての覚え書き』

Goodenough, F. L. 1938. The use of pronouns by young children; A note
on the development of self-awareness. J. Genet. Psychol. 52. 333-46.

ボイド『子供の文構造の発達』

Boyd, W. 1927. The development of sentence structure in childhood. Ped.
Sem. 17 : 181-191.

話しことばの文構造

デビス『5才児から10才児までのひとり子と双生児、及び兄弟のある普通児の言語
技能の発達』

Davis, E. A. 1937. The development of linguistic skill in twins, singletons
with siblings, and only children from age 5 to 10 years. Inst. Child. Welf are.
Monog. No. 14.

文構造を①機能的に完全だが、文法的に不完全な文、②単純な文、③複雑な文とに
分けて、そのその発達をみた。

ハーン『1年生が大勢の前ではなす言語について』

Hahn, E. 1948. The speech of first grade children in audience situations.
Elem. English. 25 : 39-46.

児童の会話を自発的な話し合いと教師との絵を見て話をする事との二場面から記
録、応答語数、文の長さ、文型について比較した。

シール『1年生の読みの成績とはなしことばの因子との関係』

Shire, S. M. L. 1945. The relation of certain linguistic factors to reading
achievement of first grade children. Doctors. Thesis.

発 音

ハーン『1年生が大勢の前で話す言語について』

Hahn, E. 1948. The speech of first grade children in audience situations.
Elem. English. 25 : 39-46.

クラスの $\frac{1}{3}$ の児童は発音の欠陥があった。最も頻度が高かったのは<th>、不注意によるまちがいは<s. z. sh. j.>である。

デビス『ことばの技能の発達』

Davis, E. A. 1937. The development of linguistic skill. Univ. Minnesota.
Press.

入学当初、男子 44 %、女子 27 %に発音の欠陥があり、4年生になっても男子 13 %、女子 5 %になお、欠陥が見られた。共通したまちがいは<th>をd、<r>をw、<s>をt又はthとすること。

ビルツ『普通の子供と言語欠陥を持つ子供との身体的能力に関する比較研究』

Bilts, E. W. 1941. A comparative study of certain physical abilities of children with speech defects and children with normal speech. J. Speech. Disorders.
6 : 187-203.

ウェルマン他『子供の発音』

Wellman, B. and others. 1931. Speech sounds of young children. Stud. Child
Welfare. vol. 5. No.2 : 82.

言語発達一般

ラッグ、クリューガー、ゾンデルガー ル『子供のパーソナリティの研究——幼稚園児
の言語に関する考察』

Rugg, H. Kruger, L and Sondergaard, A. 1929. Studies in child personality : A
study of the language of kindergarten children. J. Educ. Psychol. 20 : 1-18.
27人の幼稚園児のことばを、戸外遊戯、お勉強、食事をしている場面から、3-15
分間に採録。児童の自己主張、拡大の言語表現と社会的意識にめざめていく発達過程
をみた。

マッカーシー『未就学児童の言語発達』

McCarthy, D. 1930. The language development of the preschool child : Inst.
Child Welfare Monog. 4.

発達を規定する要因

デクードル『2才から7才までの児童の発達について』

Descœurdres, A. 1921. Le développement de l'enfant de deux à sept ans.
Recherches de psychologie expérimentale.

2.6才より7.6才までの児童に語いの範囲を測定する9種類のテストを行い、上層、

下層の社会経済的地位にあるどちらの児童も正答数の年齢による発達をみたが、どの年齢段階でも下層児童は常に上層児童に比して著しく劣る成績をみた。

シルキン、リオン『精神遅進児の言語欠陥に関する研究』

Sirkin, J and Lyons, W. F. 1941. A study of speech defects in mental deficiency. Amer. J. Mental. Defici. 46 : 74-80.

ドリス『児童の言語と家庭内での言語の質と型との相関に関する比較研究』

Doris, I. N. 1953. A comparative study of the relationship between the quality of the child's language usage and quality and types of language used in home. J. Educ. Res. 181-90.

スミス『未就学児童の質問の頻数、形式、機能に関する年齢、性、場、の影響』

Smith, M. E. 1933. The influence of age, sex and situation on the frequency, form and function of question asked by preschool children. child. Develop. 4 : 201-13.

アルゲランデル『児童言語への環境の影響』

Argelander, A. 1928. Der einfluss des milieus auf die kindliche sprachleistung. Zsch. Päd. Psychol. Jahrg. 29. s. 34.

ロズィグノル『1年生、2年生の読み、話す、聞くの相関』

Rossignol, L. J. 1948. The relationship among hearing acuity, speech production, and reading performance in grades 1A, 1B and 2A. Teach. Coll. : 50.

児童の聞く能力、話す能力、読む能力の3つの相関を各々、単音聴力計、発音テスト、ゲーツのテストによって測定。結果は読みと、話すことに有意な関係を認めた。

ウィリアムズ『未就学児童の言語能力の分析的研究』

Williams, H. M. 1937. An analytical study of language achievement in preschool children Part 1. In development of language and vocabulary in young children. Studies in Child Welfare. 13. No. 2 : 9-18.

イエディナック『発音欠陥、読書困難の言語機能に関する研究』

Yedinack, J. G. 1949. A study of the linguistic functioning of children with articulation and reading disabilities. J. Genet. Psychol. 74 : 23-59.

ウィルソン、フレミング『幼稚園児、プリマ段階の児童の読み書きにおける文字の逆転』

Wilson, F. T and Flemming, C. W. 1938. Reversals in reading and writing made by pupils the kindergarten and primary grades. J. Genet. Psychol. 53 : 3-31.

〔付記〕 上におげた文獻の中で直接に見られなかったものは、以下の書物の記述するところによって補った。

Monroe, W. S. 1950. Encyclopedia of educational research. Mcmillan. Company. Revised Edition.

Stevens, S. S. 1951. Handbook of experimental psychology. New York. Wiley.

Carmichael, L. 1946. Manual of child psychology. New. York. Wiley.

Miller, G. A. 1951. Language and communication. Mcgraw-Hill. Book. Company.

Henry, N. B. 1949. Reading in the elementary school. N. S. S. E.

Forty-eight Yearbook. part II .

Henry, N. B. 1944. Teaching language in the elementary school. N. S. S. E.

Forty-third Yearbook. part II .

Broom, M. E. and others. 1951. Effective reading instruction. Mcgraw-Hill Book. Company.

Haggett, A. J. and Millard, C. V. 1946. Growth and learning in the elementary school.

Averill, L. A. 1950. The psychology of the elementary-school children. Longmans.

数表・図表一覧

I A

実験学校ひらがな清音読字得点分布	1
実験学校ひらがな濁音読字得点分布	2
実験学校かたかな清音読字得点分布	2
実験学校かたかな濁音読字得点分布	3
実験学校数字読字得点分布	3
実験学校漢字読字得点分布	4

I B

実験学校ひらがな清音書字得点分布	5
実験学校ひらがな濁音書字得点分布	6
実験学校かたかな清音書字得点分布	7
実験学校漢字書字得点分布	7

I C

地域による読字数平均の比較（東京と農村）	10
地域による読字数平均の比較（地方中間都市）	11
地域による書字数平均の比較（東京と農村）	11
地域による書字数平均の比較（地方中間都市）	12
男女別による読字率の比較	13
男女別による書字率の比較	14

I D

実験学校ひらがな清音文字別習得率	16
実験学校 読みやすい文字・読みにくい文字表	21
協力学校 読みやすい文字表	23

協力学校 読みにくい文字表	24
実験学校 書きやすい文字・書きにくい文字表	26
協力学校 書きやすい文字表	28
協力学校 書きにくい文字表	29

I E

実験学校における読字力・書字力集計表	34
個人別ひらがな清音読字・書字成績	36
個人別ひらがな濁音・半濁音読字・書字成績	40
個人別かたかな清音読字・書字成績	42
個人別かたかな濁音・半濁音読字・書字成績	46
個人別数字読字成績	50
個人別漢字読字・書字成績	52

II A

実験学校に見出される発音の誤りの傾向	59
個人別発音の誤り一覧表（第一回）	60
個人別発音の誤り一覧表（第二回）	65

II B

実験学校における語いテストの成績（第一回）	70
個人別語いテスト成績一覧表（第一回）	71
個人別語いテスト成績一覧表（第二回）	76

II C

個人別文法意識テスト成績一覧表	82
協力学校の語い・文法意識テスト正答率	84

III B

実験学校における読字力の発達数表	93
------------------	----

実験学校における書字力の発達数表	95
実験学校における読字力・書字力の発達図表(1)	97
実験学校における読字力・書字力の発達図表(2)	98
比々多校における読字力・書字力の発達図表	98
実験学校・協力学校における読字力の発達	100
実験学校・協力学校における書字力の発達	100
個人別ひらがな清音読字数・書字数の発達	103
個人別ひらがな濁音・半濁音読字数・書字数の発達	104
個人別漢字読字数・書字数の発達	106

III C

実験学校における読書速度テストの成績	110
実験学校における読書理解テストの成績	115
比々多校における読書理解テストの結果	115

IV A

暦年と言語能力との相関	121
-------------	-----

IV B

知能と言語能力との相関	123
個人別暦年、精神年令、知能指数、言語能力一覧表	124
漢字書字力に及ぼした夏休みの影響	126
言語能力と知能遅滞児との関係	127
言語能力 150 以上の者の精神年令	128
言語能力 150 以上の者の知能指数	128

IV C

性格調査の各項目の名称と評定「下」の規準	132
言語能力と各種の性格的欠陥児との関係	132

IV D

環境調査の各項目の名称、及び評定「下」の規準……………	135
言語能力と環境的欠陥との関係……………	137

V A

家庭読書調査要項……………	139
---------------	-----

V B

実験学校個人別家庭読書点数……………	155
比々多校個人別家庭読書点数……………	158

V C

実験学校個人別家庭読書点数と言語能力との比較……………	160
比々多校個人別家庭読書点数と言語能力との比較……………	161

VI A

現行一年生用国語教科書の編成……………	164
現行一年生用国語教科書の漢字提出数……………	166

V B

農村の入門期国語カリキュラム……………	169
都市の入門期国語カリキュラム……………	169
入門期国語指導の困難点……………	170

国立国語研究所刊行書

国立国語研究所報告 1	八丈島の言語調査
国立国語研究所報告 2	言語生活の実態 (秀英出版刊) 300.00 — 白河市および附近の農村における —
国立国語研究所報告 3	現代語の助詞・助動詞 — 用法と実例 —
国立国語研究所報告 4	現代語の語彙調査 婦人雑誌の用語
国立国語研究所報告 5	地域社会の言語生活 (秀英出版刊) 600.00 — 鶴岡における実態調査 —
国立国語研究所報告 6	少年と新聞 — 小学生・中学生の新聞への接近と理解 —
国立国語研究所報告 7	入門期の言語能力
国立国語研究所資料集 1	国語関係刊行書目 (昭和17~24年)
国立国語研究所資料集 2	語彙調査 — 現代新聞用語の一例 —
国立国語研究所資料集 3	送り仮名法資料集
昭和24年度	国立国語研究所年報 1
昭和25年度	国立国語研究所年報 2
昭和26年度	国立国語研究所年報 3
昭和27年度	国立国語研究所年報 4

昭和29年3月

406

国立国語研究所

東京都新宿区四谷霞丘
聖徳記念絵画館内
電話青山(40) { 0992
 { 2874

THE LANGUAGE ABILITY OF CHILDREN IN THE PRE-READING PERIOD

The First Report of 7 Years Studies on the
Language Development of School Children

CONTENTS

Preface

Chap I How many Hiraganas, Katakanas, and Chinese Characters can Children read and write at the Entrance period of Primary School ?

Chap II The Ability of Articulation, Vocabulary, and Grammatical Consciousness at their Entrance Period

Chap III The Growth of Language Abilities during the Pre-Reading Period

Chap IV Factors influencing the Language Development during this Period

Chap V The Survey of Reading in their Home (Reading the Child Magazines, Picture Books, and others) during this Period

Chap VI The Teaching of Language Arts during this Period

Chap VII The Review of the previous Researches

List of Tables and Figures

THE NATIONAL LANGUAGE RESEARCH INSTITUTE
YOTUYA, SINZYUKU, TOKYO

1954